

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス
收入役ハ町村長及助役ヲ兼マルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ開クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス
郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ

得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分テ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十四條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辦償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラレハコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第二類 第二章 市制町村制

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事
- 五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ罷責及五圓以下ノ過怠金トス
- 六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人

民ト商議スル事

八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條

町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

- 一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス
- 二 浦役場ノ事務
- 三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第三類 第二章 市制町村制

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可ラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退職料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退職料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退職料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退職料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキハ其額舊退職料ト同額以上ナルトキハ舊退職料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退職料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動產、積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財產ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財產ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵

第二款 第二章 市制町村制

百五十九

收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス
第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十二條 第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物
件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十二條 第八十四條)
ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス
第八十七條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可
シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會
ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ
依テ賦課セララル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ
町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並科料、過怠金其他法律勅令
ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村稅(第九十條)及
夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使
用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得
第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常
例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵
收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別稅(第九十
條第一項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニ
ハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以
内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三箇月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在
ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地
家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其
所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官
設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ
納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入

第二節 第二章 市制町村制

スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 敷市町村ニ住居ヲ拂ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲クル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス

- 一 政府、府、縣、郡、市、町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限り免税スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從テ皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 政個人ニ於テ専ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ専ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ

負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第一百條 町村税ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免税理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ従前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村税ヲ標準ト爲シ且ツ之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百二條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)町村税(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第一百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越エル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス
第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所
有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ町村長ニ申立
ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノト
ス

第百五條 町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル
訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事
會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス
第百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ従前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已
ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加
スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ
方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年
以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收
入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歲入出豫算及決算
第百七條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ
歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得
第百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ
以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出
ス可シ

第百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スル
コトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受
ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル用途
ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ
交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百二

第二款 第二章 市制町村制

百六十五

十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル職員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第百十三條 決算報告ヲ爲スルハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ

財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議並ハ又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議並ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ

第二類 第二章 市制町村制

第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第二百十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラズ

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第二百十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之ヲ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第二百十二條

町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ
町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 町村條例ヲ設ケ並改正スル事
二 學藝美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與貸入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ
第二百十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス
 - 二 町村特別税並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
 - 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
 - 四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
 - 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
 - 三 町村有不動産ノ賣却讓與並賃入書入ヲ爲ス事
 - 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
 - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
 - 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
 - 九 第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ罷責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設ケル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務舉ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス
- 總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
- 四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得
第百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對
シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付
シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服
アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財產
ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、
府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ
以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百三十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セズ別ニ
勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會
ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從
フ

第百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ
云フ

第百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大
藏大臣之ヲ告示ス

第百三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ
依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第百三十八條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、
明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十
四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治
十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢
止ス

第百三十九條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可
シ

○市制町村制理由書ヲ頒布ス 二十一年四月二十五日 號外

市制町村制理由

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開
キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ區ヲ造成セサル可カラズ地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ
爲シ民法民法ノ二者ニ於テ共ニ一個人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ム

第二類 第二章 市制町村制理由

ル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意ヲ表シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受賣買シ他人ト契約ヲ結ビ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域内ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統制ノ下ニ於テ其義務ヲ盡サハルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ格ニ之ヲ監督ス可キモノトス

國內ノ人民各其自治ノ團體ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセハ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ體格ト爲シ以テ其部内ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラズ

現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ未タ完全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ素ト行政ノ區畫ニシテ幾分自治ノ制ヲ兼テ有セルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラズ今前述ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治體ト爲スヲ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體ト爲サントス此階級ヲ設クルハ分縣ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治區ニハ其自治體共同ノ事務ヲ任分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪フル者ハ之ヲ其負擔トシ其力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之ヲ府縣ノ負擔トス可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ

維新ノ後政務ヲ集約シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統一シ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉グルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ負テ以テ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ參與セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源ナリ

故ニ分縣ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ公同ノ事務ヲ負擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントスル

ニハ技術專門ノ職若クハ常職トシテ任ス可キ職務ヲ除クノ外概テ地方ノ人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之ヲ擔任スルハ其地方ノ人民ノ義務ト爲ス是國民タル者國ニ盡スル本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則同クシ更ニ一步ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ普ク此義務ヲ帶ハシムルトキハ其任又輕シト爲サス故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家承運ノ計ニ在リテ效果ヲ速成二期セヌ漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テカメテ多ク地方ノ名望アル者ヲ舉ゲテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ省ハシメ僥倖ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定ナルニ非ス且維新後數次ノ變革ニ依テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之ヲ襲用スルコト猶難カラサル可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラス漸次其目的ヲ達センコトヲ期シテ疑ハサル所以ナリ

然レトモ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選定宜キヲ得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例アリ又島嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之ヲ行ハサルヲ許スノ例アリ(町村制第六十一條第三十二條第三十三條)其他十分ニ實地活用ノ方ヲ與ヘタルハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應スルノ便アルヲ信ス固ヨリ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ智識ノ度ニ應シテ宜キヲ取ラサルヲ得徒ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ慎重ヲ加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ

本制ヲ施行スルニ付テハ漸ク以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サルモノアリ今其概略ヲ舉クレハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任組織等固ヨリ舊ノ如クシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣郡ニ各參事會ヲ設ケサルヲ得然レトモ是等ノ事ハ府縣郡制ノ制定アルヲ待テ始メテ定マル可キ事ニシテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルノミ

本制ニ制定スル市町村ハ共ニ最下級ノ自治體ニシテ市ト云ヒ町村ト云ヒ郡都府ノ別ニ依テ其名ヲ異ニスルニ過キス其制度

ヲ立ツルノ原質ニ於テハ彼此相異ナル所ナシ元來町ト村トハ人民生計ノ情態ニ於テ其趣ヲ同クセサルモノアリテ細カニ之ヲ論スレハ均一ノ標準ニ依リ難キモノナキニ非スト雖モ本邦現今ノ狀況ヲ察シ舊來ノ慣習ニ依テ之ヲ考フルニ都會輻湊ノ地ヲ除クノ外宿驛ト稱シ町ト稱スルモノ施政ノ大體ニ於テ村落ト異同アルコトナシ故ニ今之ヲ同一制度ノ下ニ立クレメントス其施設ノ細目ニ至テハ或ハ多少ノ差異ヲ見ルコトアルヘシト雖モ此等ハ制度ノ範圍内ニ於テ執行者ノ處分斟酌宜キヲ得ルト否トニ在ル可キモノトス然レトモ都會ノ地ニ至テハ大人情風俗ヲ異ニシ經濟上自ラ差別アリ故ニ之ヲ分離シテ別ニ市制ヲ立テ機關ノ組織及行政監督ノ例ヲ異ニセリ是固ヨリ町村制ト其性質ヲ異ニスルニ非ス其市民ノ便益ト實際ノ必要トニ出テ然ラサルヲ得サルナリ即現行ノ區制ニ繼續スル所ノモノナリト雖モ從來ノ區ハ郡ノ區域ヲ離レシテ行政上別ニ吏員ヲ置キ事務ヲ處理スルニ過キサルニモ今改メテ獨立分離セシメ從來區ノ下ニ町アリシモ之ヲ改メテ市ヲ最下級ノ自治體ト爲サントス而シテ三府市街ノ如キハ其情況又他ノ都會ノ地ト同シカラサルモノアルヲ以テ市制中機關ノ組織等ニ於テ三ノ特例ヲ設クルモノアリ今此市制ヲ施行セントスルモノハ三府其他人口凡二萬五千以上ノ市街地ニ在リトス尤郡制制定ノ時ニ至テ其要件ヲ確定スルコトアル可シト雖モ今内務大臣ノ定ムル所ニ從テ之ヲ施行セントス區ノ名稱ヲ改メテ市ト爲スハ三府ノ如キ一府内ノ區ト混同スルヲ避クルナリ町區ハ通シテ其組織ヲ同ス可キハ前述ノ如シト雖モ其大小廣狹ニ依リ又ハ貧富繁閑ニ依リテ自ラ事情ヲ異ニスルモノナキニ非ス故ニ或ハ一定ノ例規ヲ適用シ難キモノアリ是亦酌量ヲ加ヘ法律ノ範圍ヲ廣クシテ地方ノ便宜ヲ與ヘントスルナリ(町村制第十一條第十四條第二十五條第三十一條第五十二條第五十六條第六十三條第六十四條第六百三十三條)

市制町村制第一章 總則

凡市町村ハ他ノ自治區ト同ク二箇ノ元素ヲ存セサル可カラス即チ疆土ト人民ト是ナリ此二者其一ヲ缺クトキハ市町村ノ自治體ヲ爲スニ足ラサルナリ而シテ市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ或ル界限内ニ在テ市町村ニ自主ノ權ヲ付與スルモノトス是ヲ市町村ノ基礎トス

第一款ハ市制町村制ヲ施行スルノ地ヲ定メ(市制町村制第一條)法律上市町村ノ性質ヲ明ニシ(市制町村制第二條)次テ第

一元奈タル疆土ニ關スル條件ヲ定ム(市制町村制自第三條至第五條)
 第二款ハ第二元奈ニ關スル條件、住民權公民權ノ得喪及住民權公民權ヨリ生スル權利義務ヲ規定ス(市制町村制自第六條至第九條)

第三款ハ市町村ニ付與スル自主權ノ範圍ヲ示ス(市制町村制第十條)

第一款 市町村及其區域

市町村ノ區域ハ一方ニ在テハ國土分畫ノ最下級ニシテ即國ノ行政區畫タリ一方ニ在テハ獨立シタル自治體ノ疆土タリ其疆土ハ自治體カ公法上ノ權利ヲ執行シ義務ヲ履行スルノ區域ナリ

故ニ市町村ノ區域ハ從來ノ成立ヲ存シテ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス然レトモ町村ノ力貧弱ニシテ其負擔ニ堪ヘス自ラ獨立シテ其本分ヲ盡スコト能ハサルモノアリ是其町村自己ノ不利タルノミナラス國ノ公益ニ非サルナリ是ヲ以テ有力ノ町村ヲ造成シ維持スルハ國ノ利害ニ關スル所ニシテ町村ノ廢置分合若クハ區域ノ變更等ニ付キ國ノ干渉ヲ要スルコト明ナリ固ヨリ關係アル土地ノ所有主及自治區ヲシテ利害ノ關スル所ニ依テ各其意見ヲ達スルノ機會ヲ得セシメ其意見一般ノ公益ヲ害セサル限リハ之ヲ採用セサル可カラス尤他ノ一方ヨリ論スルトキハ其關係者タルモノハ動モスレハ自己ノ利害ニ偏シ承選ノ得失ヲ顧サルカ如キコトアルヲ免レズ故ニ一ニ其承諾ニ依テ決スルコトヲ得ス假令其承諾ナキモ之ヲ斷行スルノ權力アルヲ要ス然レトモ此等ノ處置タルヤ地方ノ情況ニ通照スルヲ要シ且公平ヲ示サンカ爲メニ高等自治區參事會ノ議決ニ任スルヲ至當トス(市制町村制第四條)

本制ハ町村ノ分合ニ就テ詳細ナル規則ヲ設ケ各各地ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地ヲ存スルナリ唯十分ノ資力ヲ有セサル町村ハ比隣相合併ス可キノ例ヲ設ク此ノ如キ町村ハ獨立ヲ有クシムルコトヲ得サルヲ以テ假令其承諾ナキモ他ノ町村ニ合併シ又ハ數箇相合シテ新町村ヲ造成セサル可カラス固ヨリ本制ニ定ムルカ如ク各市町村從前ノ區域ヲ變更セサルハ其原則ナリト雖モ現今各町村ノ大半ハ狹小ニ過キ本制ニ據テ獨立町村タル資格ヲ有スルヲ得サルモノ蓋少カラス故ニ合併ノ處分ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリ然レトモ分合ノ例規ハ詳ニ之ヲ法律ニ制定セシ其緩急ヲ行政廳ノ見ル所ニ任スルモノ

第二款 第二章 市制町村制理由

ハ各地ノ地形人情及古來ノ沿革ヲ審酌スルノ自由ヲ得セシメントスルニ在リ若シ其實行ニ方テ執行者ノ標準ヲ定ムルカ
如キハ時ニ臨テ訓令ヲ發スルコトアル可シ之ヲ要スルニ町村ハ舊來ノ區域ヲ存シテ改メサルヲ原則トシ資力ナキモノハ
之ヲ合併シテ以テ法律ノ規定スル有カノ町村ヲ造成セシコトヲ期スルニ在リ又合併ノ爲メニ其區域廣闊ニ過キテ地形人
情ノ自然ヲ失ヒ共有物ノ區域ヲ混シ其使用ノ便ヲ害スル等ノ事ナキヲ要ス然レモ今日ニ在テハ事情已ムヲ得サルモノア
リテ十全ノ合併ヲ爲スコトヲ得ス又ハ合併ヲ以テ不便ト爲スカ如キコトアルヘシ故ニ町村制第百十六條ニ於テ町村組合
ヲ設クルノ便法ヲ存セリ其組合町村ハ各獨立ヲ保テ而シテ共同シテ一定ノ事務ヲ處理スルモノナリ其共同事務ノ範圍等
ハ實地ノ需要ニ依テ便宜之ヲ釐定スルニ任ス

凡區域ヲ變更スルニ方テハ必關係者ノ協議ヲ以テ財產區分又ハ費用ノ負擔ヲ定ムルヲ要ス是亦一定ノ例規ヲ示サス蓋此
等ノ區分ハ強テ法律ニ泥マヌ專ラ情義ニ依ルヲ以テ權當トス但其專斷偏私ノ弊ナカラシメンカ爲メ其處分ヲ參事會ニ任
セリ而シテ其參事會ノ議決ニ對シテハ司法ノ裁判ヲ仰クヲ許サス

市町村境界ノ爭論ハ公法上ノ權利ノ廣狹ニ關スルヲ以テ公法ニ屬セリ故ニ此類ノ爭論ハ司法裁判ヲ求ムルヲ許サスシテ
參事會ノ議決ニ付シ終審ニ於テハ行政裁判所ノ判決ニ任セリ(市制町村制第五條)若シ之ニ反シテ民法上ノ所有權若クハ
使用權ニ關スル爭論ハ固ヨリ司法裁判ニ屬スヘキヲ以テ其爭論者ノ一方若クハ雙方トモ市町村ニ係ルト雖モ參事會ノ裁
決ニ付セス行政裁判ニ屬セサルハ勿論ナリ

第二款 市町村住民籍及公民權

町村ト人民トノ關係ハ現行ノ法ニ於テ本籍寄留ノ別アリ現實ノ居住地ハ必シモ本籍地ナラス本籍ハ殆ント虛名ヲ存スル
ニ過キサルモノアリ而シテ府縣會議員ノ選舉ノ如キ公法上ノ權利ハ本籍ニ屬シテ寄留地ニ屬セサルモノアリ甚ク事實ト
相違セス然レモ公法上ノ權利ヲ行フハ現實ノ利害ニ基ク可クシテ虛名ニ依ル可カラス故ニ本籍ニ於テハ現行本籍寄留ノ法ニ
依ラス凡市町村内ニ居住ヲ定ムル者ハ即市町村住民ニシテ本籍寄留ノ別アルコトナシ尤市町村住民籍即屬籍ノ例規ハ別
ニ法令ヲ以テ之ヲ制定セシコトヲ期ス故ニ茲ニ之ヲ詳述セスト雖モ要スルニ本籍ノ行ハル、日ヨリ人民ト町村トノ關係

即町村ノ屬籍ニ付テハ從來本籍寄留ノ例ヲ一變スルモノナリ但戸籍上ノ事即戸主家族ノ關係ニ於テハ之ト相關スルコト
ナク從前ノ戸籍法ヲ存シテ之ヲ變更セサルナリ

市町村住民ノ權利ハ市町村ノ營造物ヲ共用シ其財產所得ノ使用ニ參與スルニ在リ但法律及市町村ノ條例規則ニ據ル可キ
ハ固ヨリ有ラ俟タス其義務ハ市町村ノ負擔ヲ分任スルニ在リ其義務ノ生スルハ即市町村ニ居住ヲ定メ住民ト爲リシ時ニ
起ル但市町村内ニ居住ヲ定メス一時滞在スル者即其市町村住民ニ非サル者ト雖モ其滞在ノ久キニ至テハ市町村ノ負擔
ニ任セシムルヲ當然トス(市制町村制第九十二條)

故ニ身醫旅ニ在ル者ト一時ノ滞在者トヲ除クノ外凡市町村内ニ居住ヲ定ムル者ハ即市町村住民タリ軍人官吏ノ如キモ
亦當然リ然リト雖軍人官吏ハ公民權ヲ行ヒ及市町村ノ負擔ヲ分任スル上ニ於テ例外ニ置クヲ必要ト爲スノ條件アリ即
市制第八條第九條第十二條第十五條第五十五條第九十六條町制第八條第九條第十二條第十五條第五十三條第九
十六條ニ定ムル所ノ如シ又皇族ハ市町村ノ屬籍外タルコト勿論ナレハ敢テ本籍ニ揭載セズ

市町村住民中公務ニ參與スルノ權アリ又ハ義務アル者ハ別ニ要件ヲ定メテ其資格ニ適フ者ニ限ル之ヲ公民トス(市制町
村制第七條)

公民ハ住民中ニ在テ特別ノ權利ヲ有シ重大ノ負擔ヲ帶ヒタル者トス其資格ノ要件ハ自ラ民風風俗ニ從ヒ各地方ノ情況ヲ
酌ミ以テ其宜ヲ制スルヲ便ナリトス故ニ市町村ノ自主ノ權ニ任セ適宜之ヲ制定セシム可キカ如シト雖モ又一方ヨリ考フ
レハ各地方區々ニ出テ權利上公平ヲ失スルノ恐ナキ能ハス各國ノ例ヲ案スルニ是亦異同アリテ一定セス今本籍寄留ノ
民度情體ヲ察シ併セテ各國ノ制ヲ參酌シテ之ヲ制定セリ

各國ノ例ヲ案スルニ大略ニ類アリ一ハ則市町村住民ニシテ法律上ノ要件ニ適スルトキハ直ニ公民トナルノ法トシ一ハ則
特別ノ手續ニ依テ公民權ヲ得ルノ法トス今第一ノ例ヲ以テ適當ト爲ス故ニ本籍寄留ノ市町村住民中市制町村制第七條ニ規定
シタル要件ニ適スルトキハ直ニ公民タルヲ得ルモノトス

外國人及公權ヲ有セサル者ニハ公民權ヲ與フ可カラサルコト疑ヲ容レズ本籍ニ於テハ婦人及獨立セサル者モ亦皆公民外
第二類 第二章 市制町村制理由

ニ置テ通例トス但市制町村制第十二條第二十四條ニ於テハ之ニ選舉權ヲ與フルノ特例アリ官府其他總テ法人タル者モ亦之ニ準ス其他ハ一般三二年以來市制町村制第七條ニ列記シタル要件ヲ有スルヲ要ス然ルニ一般三二年以上ノ制限アルハ或ハ不公平ヲ生スルノ恐アリト雖モ市町村會ニ於テ之ヲ特免スルノ權利ヲ有スルヲ以テ其甚シキニ至ラサル可シ其他多額ノ納稅者ニ就テモ亦之ニ類スル特例ヲ設ク(市制町村制第十二條)甲市町村ノ住民ニシテ市町村內ニ土地ヲ所有シ若クハ營業ヲ爲スカ爲メニ市制町村制第九十三條ニ從ヒ市町村稅ヲ負擔スル者アリ此ノ如キ者ニハ固ヨリ完全ノ公民權ヲ與ヘスト雖モ市制町村制第十二條ニ從テ特ニ選舉權ヲ行ハシムルモノトス蓋本制ニ定ムル要件中納稅額ノ制限ヲ設ケル所以ハ市町村ヲ以テ其盛衰ニ利害ノ關係ヲ有セサル無智無識ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セサルカ爲メナリ然レモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資產者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シテ細民不滿ノ念ヲ絶タシコトヲ期スルハ此選舉法ノ他ニ便レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以上以來市町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二回以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準ト爲シ市制町村制第十二條第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件アル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ(市制町村制第九條)即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

一 國民籍ヲ失フ事

二 公權ヲ失フ事

三 市町村內ニ居住セサル事即住民權ヲ失フ事

四 公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五 獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治産ノ權ヲ受クル事

六 市町村會務ノ分任ヲ止ムル事

七 市町村內ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅或國以上ヲ納メサル事

租稅納稅區分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セラル、モノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法番ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ

公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉權選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ法律上ノ義務ニ於ケルカ如ク強制シテ之ヲ履行セシメサル可カラズ固ヨリ直接ニ之ヲ強制スルヲ得スト雖モ故ナク名譽職ヲ拒辭シ退職シ又ハ實際職務セサル者ヲ懲罰スルニ公務ニ參與スルノ權ヲ停止シ並市町村稅ヲ增課スルノ例アルハ即開接ノ裁制ヲ存スル所以ナリ(市制町村制第八條)

其制約ヲ行フノ權ハ之ヲ市町村會ニ付與シ、住民公公民權ノ有無等ニ關スル爭論モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ任シ(市制第三十五條)町村制第三十七條之ニ關スル所願ハ參事會ノ議決ニ付シ行政裁判所ニ出訴スルヲ許シテ以テ其權利ヲ保護スルハ皆本制大體ノ精神ヨリ出ツル所ナリ

第三款 自主ノ權

自主ノ權トハ市町村等ノ自治體ニ於テ其内部ノ事務ヲ整理スルカ爲メニ法規ヲ立ツルノ權利ヲ謂フ所謂自治ノ義ト混同ス可カラズ自治トハ國ノ法律ニ違悞シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ謂フ元來法規ヲ立ツルハ國權ニ屬スルモノナリト雖モ或ル範圍內ニ於テ之ヲ自治區ニ付與スル所以ノモノハ一國ノ立法權ヲ以テ屬ク地方ノ情況ヲ酌量シ其特殊ノ需要ニ應スルコト能ハサルニ因ル固ヨリ市町村ノ法規ハ其市町村ノ區域內ニ限リ且國ノ法律ヲ以テ其自主權ニ任シタル事件ニ限リ效力アルモノトス其委任ノ範圍ノ如キハ古來ノ沿革及人民政治上ノ教育ノ度ニ伴隨ス可キモノニシテ其範圍ノ廣狹ニ依テ利害ノ分ル、所立法官タル者最モ慎重マサル可カラズ今本邦各地方ノ情況ヲ裁酌シ自主ノ權ヲ適實ニ施行ス可キノ望ナキモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ法律ヲ以テ模範ヲ示シ地方ノ情況ニ依リ自主ノ權ヲ以テ之ヲ增減酌量スルヲ許

第二類 第二章 市制町村制理由

町村制第四十條第四十五條第百十三條等ニ於テ豫メ之ニ處スルノ法ヲ設ケタリ

三 選舉等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ選舉人ノ等級ヲ立テ選舉權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴隨セシム蓋名譽職ニ任スルハ町村
公民ノ輕カラサル義務ナレハ資産アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論セサルモ其專ラ
自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トセルハ即此要旨ニ
外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其長結果アルヲ徵スルニ足ル本制
被選舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此選舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラレハノ弊
ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

各地方ノ狀況ヲ見ルニ都鄙ニ依テ貧富ヲ異ニシ地形ニ依テ産業ニ別アリ故ニ各地ニ通スル一定ノ稅額ヲ設ケテ等級ヲ分
ツコトヲ得ヌ又單ニ土地ノ所有ヲ以テ選舉權ノ標準ト爲スコトヲ得ヌ是ヲ以テ等級法ヲ立テテ欲スルニハ市町村內ニ
於テ徵收スル市町村稅ノ總額ヲ標準トシ各自納稅額ノ多寡ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ長法アルヲ知ラス
然ルニ市ハ通シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ戶口多ク貧富ノ階級アルコト町村民ノ等差少キカ如キニ非サ
ルヲ以テナリ(市制町村制第十三條)但町村ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ選舉人寡少ニシテ其稅額ノ等差モ亦少
ク成ハ二ノ納稅者アリテ非常ニ多額ノ稅ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ其納稅者ノ等差極メテ甚キノ類ニシテ二級選舉
法ヲ適當トセサル場合モアル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級選舉法ヲ設クルコトアル可ク或ハ等級ヲ設ケス或
ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤ニ二級若クハ三級選舉法ヲ以テ常例ト爲スカ故ニ不得已ノ事情アリテ許
可ヲ受クルニ非サレハ此特別ヲ設クルコトヲ得サル可シ

被選舉人ハ其區內級內ノ者ニ限ラスト爲スハ(市制第十三條第十四條)町村制第十三條)市町村會ノ職員ハ全市町村ノ代
表者タルノ原則ヨリ出ツルモノニシテ是亦實際ノ便宜トスル所ナリ

四 選舉ノ手續

選舉ノ事務タル其關スル所難カラサルヲ以テ其細則ニ至ルマテ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要ス其第一手續ニ屬スル中
ト雖モ力メテ法律ニ之ヲ制定スル所以ノモノハ選舉ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政體ノ干渉ヲ防キ或ハ干渉ノ疑ヲ避ケ
シカ爲メナリ其順序大略左ノ如シ

選舉ハ通例三年毎ニ之ヲ行フ之ヲ定期選舉トシ職員ノ半數ヲ改選スルハ事務ニ熟練セル職員ヲ存續セシ
メンカ爲メナリ但解散ノ場合ハ此ノ如クスルヲ得ヌ又此法律施行ノ當初ニ於テ選舉セラレタル職員ハ初回ノ改選ニ方
抽籤ヲ以テ半數ヲ選任セシムルニ依リ其半數ハ三年間在職スルモノトス此二箇ノ場合ヲ除キ職員ハ總テ六年間在職スル
モノトス若シ職員在期中ニ死亡シ若クハ退職スルトキハ直ニ補員ヲ選舉シ前任者ノ任期ヲ襲カシメサル可カラス之ヲ
補員選舉トス然レトモ廢選舉ヲ行フトキハ其類ニ堪サルカ故ニ補員選舉ハ定期選舉ヲ待テ之ト同時ニ行フ通例トス假
令一二ノ職員アルモ事務ニ支障ナカルヘキヲ以テナリ然レモ若シ多數ノ職員選任スル等已ムヲ得ヌ補員ヲ選舉スルノ
必要アルトキハ市制町村制第十七條ニ於テ之レカ便法ヲ設ク

選舉ヲ爲スノ準備ニ屬スル事ハ之ヲ行政機關即町村長若クハ市長及市會ニ委任セリ而シテ其事務ハ選舉ノ基礎タル
選舉名簿ヲ編製スルヲ以テ第一トス本制ハ所謂兼稱名簿ノ法ニ依ラス選舉ヲ行フ毎ニ名簿ヲ新ニスルノ法ヲ取レリ(市制
町村制第十八條)其編製シタル名簿ハ選舉前數日間關係者ノ縱覽ニ供シ異議アル者ハ市町村長ニ申立テ又ハ既願若クハ
行政訴訟ノ手續(市制第三十五條)町村制第三十七條)ヲ以テ駁正ス可キ權利ヲ與ヘタリ此名簿ノ編製ハ選舉ヨリ數日
前ニ終結ス可キカ故ニ其終了ノ時ニ行ヒタル裁決ハ之ヲ執行ス可シト雖モ各既願ノ確定終局ニ至ル迄再日ヲ曠クスル
ヲ得ヌ選舉ノ期日ニ至レハ其既願ニ拘ラス之ヲ執行ス若シ名簿ニ錯誤アルカ爲メ選舉ノ無効ニ歸スルコトアレハ更ニ之
ヲ申立ツルコトヲ得可シ又被選舉人當選ヲ辭シ或ハ選舉ヲ無効ナリト斷定セラレタル時ト雖モ更ニ名簿ヲ編製スルヲ要
セス判決ニ依據シテ舊名簿ヲ訂正シタル上之ヲ用フルモノトシ之カ爲メニ更ニ關係人ノ縱覽ニ供シテ正誤申立ノ時間ヲ
與フルニアラス唯名簿全體ノ不正ナルカ爲メ全選舉ヲ無効ナリトシタル時ニ至テハ新簿ヲ編製スルコト已ムヲ得サルナ
リ

第二類 第二章 市制町村制理由

選挙ノ期日ハ町村長市會事會之ヲ定ム本制ニ據レハ選舉人ヲ召集スルニハ公告ヲ以テ是レリトスト雖モ實際市町村ノ便
宜ニ依リ各選舉人ニ對シテ召集狀ヲ送付スルコトアルモ妨ケナシ其他投票時間ヲ定ムルハ市長町村長ニ任シタルヲ以
テ市長町村長ハ選舉人ノ多寡及地形等ヲ斟酌シテ之ヲ定ム可シ

選挙事務ノ統轄ハ之ヲ自治ノ吏員ニ委任シ(市制町村制第二十条)監督官廳ハ特ニ之ヲ監督ヲ爲ス可キノミ(市制第二十
八條)町村制第二十九條)而シテ選舉掛ハ其團體ニ編制セリ選舉掛ハ選舉人代理者ノ可否投票ノ效力等直ニ之ヲ裁決セ
サルヲ得スシテ此ノ如キハ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得サルヲ以テナリ固ヨリ選舉掛ニ於テ右等ノ事件ヲ裁決スト
雖モ後ニ至リ選舉ノ無効ヲ申立ル者アルトキハ之ヲ裁決スル官廳ニ於テハ右裁決ニ拘ラス至當ノ裁決ヲ爲ス可キノ
トス

選挙會ハ選舉人ニ取リテハ公會ナリト雖モ(市制町村制第二十一条)其選舉ハ全ク秘密投票ノ法ヲ以テス即選舉掛ハ勿論
其他何人ニテモ投票者ニ於テ何人ヲ選舉セントスルカヲ知ラシメサルモノトス故ニ選舉ノ際ハ投票ヲ用ヒ票中ニ投票者
ノ氏名ヲ記載セヌ又之ニ副印セシメス封緘シテ之ヲ提出サシム(市制町村制第二十二條)第二十三條)元來公選舉ト秘密
舉トノ別アリ其利害得失ニ就テハ互ニ論アリト雖モ今特ニ地方自治區ノ選舉ニ就テ之ヲ考フルニ町村ノ事情タル居民常
ニ相密接スルモノナレハ選舉ノ自由ヲ妨ケザランカ爲メニ寧ロ秘密選舉ヲ以テ良法ト爲ス而シテ選舉權ヲ有セサル者
投票又ハ重複ノ投票ヲ防カンカ爲メニハ選舉人自ラ出頭スルノ例アリ(市制町村制第二十四條)又名簿ニ照シテ之ヲ受クル
ノ法市制町村制第二十二條)アリ選舉人自ラ出頭シテ選舉ヲ行フノ例ヲ設クルハ皆モ選舉ノ利害ニ關セサル並ノ勸告ニ
依テ之ニ投票ヲ託セントスルカ如キ者ヲ排除シ選舉ノ自由ヲ保護スル所以ナリ但市制町村制第二十四條)第二項)掲ケル
モノハ已ヨリ得サルノ特別ナリトス選舉ヲ行フニ下級ヲ先キニ上級ヲ後ニスルハ(市制町村制第十九條)下級ノ選舉人
ヲシテ人ヲ擇フニ充分ノ區域ヲ得セシメンカ爲メナリ而シテ先ツ下級ノ選舉ヲ了ルノ後ニ上級ノ選舉ニ着手セシム可シ
是一人ニシテ數級ノ選ニ當ルコトヲ防キ且上級ノ者ヲシテ下級ノ選舉ニ當ラサル候補者ヲ選擇スルコトヲ得セシムルモ
ノナリ選舉ノ結果ヲ觀スルカ爲メニ選舉録ヲ製スルノ例(市制第二十六條)町制第二十七條)アルハ選舉ノ效力ヲ廢決

スル應憑ヲ信ヘンカ爲メナリ

當選ノ際定ハ議員ノ選舉ニハ比較多數ノ法ヲ取リ(市制第二十五條)町村制第二十六條)市町村吏員ノ選舉ニハ過半数ノ
法ヲ用フ(市制第四十四條)町村制第四十六條)元來總テ過半数ヲ以テスルヲ正則トスレトモ申立ヲ計リテ便法ヲ設ケタ
ルナリ

選舉ノ效力ニ關シ異議ヲ申立ツルノ權利ハ選舉人及市長町村長ノ外公益上ヨリシテ其效力ヲ監査スルカ爲メニ郡長及府
縣知事モ亦此權利ヲ有ス選舉人及市長町村長ノ異議アルモノハ市町村會ノ裁決ニ任シ郡長府縣知事ノ異議アルモノハ參
事會ノ裁決ニ任シ其參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルト
キハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス是實ニ利害上ノ事ニアラスシテ權利ノ消長ニ關スレハナリ(市制第二十
八條)第三十五條)町村制第二十九條)第三十七條)

一旦選舉ヲ有效ト定メ或ハ其效力ニ異議ナクシテ經過シタル後ト雖モ當選者被選舉權ノ要件ヲ選舉ノ當時ニ有セザリシ
コトヲ發覺シ或ハ其當時有シタル要件ヲ失フコトアル可シ斯ル場合ニ於テハ固ヨリ市制第二十九條)町村制第三十條)ノ
結果ヲ生ス可シ其裁決ノ手續ハ市制第三十五條)町村制第三十七條)ニ據ル

五 各學職

市制町村制第十六條)第二十條)第七十五條)ニ依リ各學職ヲ置クハ本制大體ノ原則ニ出ツルナリ

第二款 職務權限及職務規程

市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ其他ノ事務ハ從來ノ委任ニ依リ又ハ將來法律勸令ニ依
テ特ニ委任スル事項ニ限リテ參與スルモノトス若シ大政ニ論及スル等凡ソ此界限ヲ踰ユルモノハ則法律ニ悖反スルモノ
ナレハ法律上ノ權力ヲ以テ(市制第六十四條)第二項)第一)第百二十條)町村制第六十八條)第二項)第一)第百二十四條)之ヲ制
セサル可カラス其他市制第百十八條)第百十九條)町村制第百二十二條)第百二十三條)ハ皆市會町村會ノ怠慢ヲ防制スルノ
権力ナリトス

第二類 第二章 市制町村制理由

市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ(市制第三十條町制第三十二條)外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス(市制第六十四條第二項第七町制第六十八條第二項第七)即市會町村會ハ専ラ行政機關ニ對シテ市町村ヲ代表スルモノナリ市制第三十一條以下及町制第三十三條以下ニ列載シタル職務ハ皆此地位ニ依テ生ズルモノトス

市會町村會ハ條例規則城計豫算決算報告市町村稅賦課法及財産管理上ノ重要事件等ヲ議決ス市制第百十八條第百十九條町制第百二十二條第百二十三條ノ場合ヲ除クノ外行政機關ハ議會ノ議決ニ依テ方針ヲ取ラサルヲ得ス但其議決上可ノ許可ヲ得可キモノハ市制第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至リ及町制第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ルノ各條ニ依ル

二

市會町村會ノ執行ス可キ選舉ハ限セテ市制第三十七條第五十一條第五十八條第六十條第六十一條及町制第五十三條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ在リ

三

市會町村會ハ市町村ノ行務ヲ監督スルノ權利ヲ有ス其監督ノ方法ハ書類及計算書ヲ檢閲シ町村長若クハ市參事會ニ對シテ事務報告ヲ要求スルノ類是ナリ此權利ニ對シテ町村長若クハ市參事會ハ之ニ應ズルノ義務アリ若シ市會町村會ニ於テ意見アルトキハ之ヲ官廳ニ具狀スルコトヲ得可シ

四

市會町村會ニ於テ官廳ノ附屬ヲ受クルトキハ之ニ對シテ意見ヲ陳述スルハ其義務ナリトス

五

其他市會町村會ハ或場合ニ於テ公法上ノ爭論ニ付始末ノ裁決ヲ爲スノ權アリ(市制第三十五條町制第三十七條)市會町村會ノ議員ハ其職務ヲ執行スルニ當テハ法令ヲ遵奉シ其範圍内ニ於テ不爲ノ精神ヲ以テ専ラ附屬ス可シ決シテ其

舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受ク可キモノニアラス(市制第三十六條町制第三十八條)是固ヨリ法理ニ於テ明ナル所ナリト雖モ職員ノ職務ヲ以テ選舉人ノ委任ニ出ツルモノ、如ク視做シ職員ハ選舉人ノ示シタル條件ヲ恪遵ス可キモノト爲スノ限ヲ來サ、ランカ爲メニ特ニ其明文ヲ掲グルナリ

職務規程ハ市制第三十七條ヨリ第四十七條ニ至リ町制第三十九條ヨリ第四十九條ニ至ルノ各條ニ於テ之ヲ設ク此條規ハ概テ説明ヲ要セザル可シ只茲ニ一貫ス可キハ町村會ハ通例町村長若クハ其代理者タル助役ヲ以テ議長トシ(町制第三十九條)市會ハ別ニ下置シテ議長ヲ置ク(市制第三十七條)此區別ヲ爲シタル所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者多カラステ殊ニ議長ノ任ニ堪フル者ハ概テ少ク且一人一個ノ責任ヲ以テ行政ノ全體ニ任スル場合ニ於テハ成ル可ク職員ト密接ノ關係ヲ有セシムルコト必要ナレハナリ町制第四十四條ノ場合ヲ除クノ外町村長及助役ニシテ議決權ヲ有スルハ其職員ヲ錄スル時ニ限ル可シ

市制町村制第三章 市町村行政

代議下行政トハ各別箇ノ機關ヲ設ケサル可カラサルハ已ニ之ヲ記述シタルカ如シ而シテ町村ノ行政ハ之ヲ町村長一人ニ任シ補助員助役一名若クハ數名ヲ置キ以テ之ヲ補助セシム市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ任セリ市長ハ其會員ノ一人ニシテ其會ノ事務ヲ統理シ外部ニ對シテ參事會ヲ代表スルノ權ヲ有ス即町村ハ特任制ヲ取リ市ハ集議制ニ依ルモノナリ抑地方ノ自治行政ニハ集議制ヲ以テスルニ若クモノアラス然ルニ獨リ市ニ施シテ之ヲ町村ニ適用セサル所以ノモノハ集議制ハ特任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ而シテ小町村ノ行政ハカメテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集議制ヲ行ハント欲スレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ適任者ヲ多ク求メサルヲ得ス而シテ此事タル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非ザレハ望ム可カラザレハナリ大町村ニ於テモ亦此集議制ヲ施行ス可キ必要アリヤ否又之ヲ施行シ得可キヤ否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ

本制市町村行政ノ條規ハカメテ活用ノ區域ヲ廣クシ以テ各地方ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地アラレメンコトヲ務メタリ

町村長助役市參事會及市長ハ皆是市町村ノ機關ニシテ固ニ直線スル機關ニアラス是ヲ以テ此機關ニ屬スル吏員ハ總テ

第二類 第二章 市制町村制理由

市町村自ら之ヲ選任スルヲ當然トス是各國ノ規則ニシテ其效益亦實際ノ經驗ニ若ハル、所ナレハ本制モ亦之ニ倣ヘリ
 (市制第五十一條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條町村制第五十三條第六十二條第六十三條第六十四條第
 六十五條)然レトモ市町村ハ又國ノ一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般ノ施政ニ關係ヲ及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セサル
 コトナレ且市町村及其吏員ニ委任スルニ國政ニ關スル事務ヲ以テスルコトアリ市制第七十四條町村制第六十九條ノ如
 キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推薦シ裁可ヲ求ムルノ例アルカ如キモ亦此理由アルニ依ル(市制第五十條)但
 選任ノ例ヲ異ニスト雖モ市長ハ均ク市ノ機關ニシテ一ノ市吏員ナリ法律上ヨリ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市ニ屬シ一
 面ハ國ニ屬ス猶町村長ノ町村ト國トニ兩屬スルカコトシ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲メニ變更スルコトナシ其他權
 限ノ市町村吏員即町村長市町村助役收入役ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得サルトキハ其選舉ハ無効ニ屬ス
 ルカ故ニ(市制第五十二條第五十八條)町村制自第五十九條至第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分ノ權力ヲ
 有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ徒ニ其活動ヲ牽制セザランコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ一定ノ理由ヲ示サズ其地ノ事
 情ト人物トヲ審酌シテ其認可不認可ヲ決スルヲ得セシメントス其裁決ノ權ハ均ク地方分權ノ原則ニ準シ之ヲ市長又ハ府
 縣知事ニ委任セリ然レトモ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カンカ爲メ若クハ偏私ノ弊ヲ免レンカ爲メニ其認可ヲ拒マントスル
 トキハ郡縣議會又ハ府縣選舉會ノ同意ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設ケルトキハ其結局
 ノ處分法ナカル可カラズ即其選舉選ニ適任ノ人ヲ得シテ已ムヲ得サルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ特選シ若クハ官吏ヲ
 派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ルシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依リ市町村吏員ノ選舉ヲ以テ之ヲ市町村ニ委任スルモ國
 ノ治安統一ヲ保ツコトニ於テ要フ可キノ弊ナキヲ信ス
 町村ニ於テ吏員ヲ選任スルノ權ハ之ヲ町村會若クハ總會ニ委任シ唯便宜ニ限リ之ヲ町村長ニ委任シ(町村制第五十三條
 第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條)市ニ於テハ之ヲ市會ニ委任シ市會委員委員及收入役ノ選任ニ限リ
 之ヲ市會ニ委任セリ(市制第五十一條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條)
 市町村ノ吏員ヲ選任スルニ付テハ國ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セサル可カラズ其要件ハ市制第五十五條第五十八條第六

十條第六十一條 町村制第五十三條 第五十六條 第六十四條 第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ刑法等他ノ法律ニ存
 ス
 其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ以テ市町村ノ自主權ニ廣調ナル餘
 地ヲ與フルコトヲ得可ク又之ヲ與フルヲ要スルナリ
 本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一 町村長

町村長ハ町村ノ統轄者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定セ
 リト雖モ(例ハ町村制第百二條ノ類)多クハ別法ヲ以テ之ヲ設ケサル可カラズ其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スルノ任
 アリ故ニ一方ニ在テハ町村ニ對シテ其執行ノ責任ヲ帶ヒ一方ニ在テハ法律ノ範圍内並官廳ヨリ其權限内ニテ發シタル命
 令ノ範圍内ニ於テ百般ノ事項ニ涉リ町村ノ幸福ヲ增進シ安寧ヲ保護スルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會ノ議決ニ
 遵據ス可キ程度ハ町村制第三十三條以下ニ詳ナリ同條記載ノ事件ニ就テハ町村長ハ議會ノ議決ニ依ラスシテ之ヲ施行ス
 ルコト能ハサル而已ナラス猶其職事ヲ準備シ議決ヲ執行スルノ義務アリ故ニ町村會ニ於テ法律ニ背反スルコトナク其權
 限内ニテ議決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリト認ムルモ町村長ハ之ヲ執行セサルヲ得ズ唯町村長其議決ニ對シ
 テ大ニ意見ヲ異ニシ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ議決ノ執行ヲ停止スルノ權ヲ
 有ス即之ヲ停止シテ郡縣議會ノ裁決ヲ請フコトヲ得可シ其法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ越ユルモノモ亦之ニ同シ尤僅ニ利
 害ノ見込ヲ異ニシタルノミニテハ未タ以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラス必公益ヲ損害スト認ムルニ限ル可シ蓋公
 益ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖モ今日町村治ノ未タ整備セサル
 ヨリ若フルトキハ姑ク此例ヲ存スルノ已ムヲ得サルモノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止ヲ命スルハ國ノ利害ニ關シ已
 ムヲ得サルモノニシテ監督官廳モ亦常ニ町村會議決ノ報告ヲ徵シテ其注意ヲ怠ラサル可シ其停止權ヲ濫用スルノ弊ハ參
 事會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制スルコトヲ得可シ其行政裁判所へ出訴スルノ權ヲ法律命令ニ背反シ及權限ヲ越ス

第二類 第二章 市制町村制理由

ルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ノ専ラ法律上ノ争論ヲ判決ス可キモノニシテ公益ニ關スル事ハ一ニ利害ノ争ニ過キザ
レハナリ郡縣事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣事會ニ訴願シ其府縣事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若
クハ内務大臣ニ訴願スルヲ得可キコト町村制百十九條及第百二十條ノ規定ニ依テ明ナリ
其他町村長ノ町村事務ハ町村制第六十八條第二項第九ニ列載シタル條件ニ依テ明ナリ其各條件ニ關シテハ茲ニ
説明ヲ要セザル可シ町村會ノ定額豫算ニ關スル職權ニ依テ町村長ノ權利ニ制限ヲ加フル所以ハ第四章ニ於テ之ヲ説明ス
可シ又町村會ノ議決町村制百二十五條以下ニ從ヒ官ノ許可ヲ受ク可キモノハ之ヲ受クルノ前ニ施行スルヲ得サルコト
固ヨリ言フ俟タズ且時宜ニ依リテハ監督官廳ノ懲戒權ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可シ
町村制第六十九條ニ列記シタル事務ニ關シテハ町村長ハ至ク前述ノ場合ト異ナリタル地位ヲ有スルモノトス已ニ前章
ニ記述シタル如ク國ハ町村ヲシテ國政ニ關スル事務ニ參與セシムルコトアル可シ之ヲ參與セシムルノ法ニアリ國政ニ
關スル事務ヲ以テ町村ニ委任シ其自治權ヲ以テ之ヲ處辨セシムルモノアリ又其事務ヲ町村ニ委任セシメテ直接ニ町村
長其他町村ノ吏員ヲ指定シテ之ヲ委任スルモノアリ此區別ノ要ナル點ハ第一ノ例ニ據レハ斯ル事件ノ議決モ亦町村
會ノ職權ニ歸シ町村長若クハ當該吏員ハ此事件ニ關シテ責任ヲ帶ヒ且常ニ其監視ヲ受クルモノトシ第二
ノ例ニ據レハ町村長ハ直接ニ官命ニ依テ事務ニ從事シ町村會ト相關セシムル職務ニ關スル指揮命令ハ直ニ所屬官廳ヨリ
之ヲ受ケ特ニ其官廳ニ對シテ責任ヲ帶フルモノトス元來甲乙二例ヲ比較スルトキハ互ニ得失アリト雖モ今日ノ情況ニ
照シ事務ノ舉行ヲ期スルニ付テハ乙法ヲ行フニ如カス故ニ本制ハ乙法ヲ採リテ之ヲ第六十九條ニ明言セリ但細則ニ涉
ルモノハ別法ニ設クントス且此乙法ヲ行フニ至テハ其委任ノ職務ニ付キ生スル所ノ費用ハ何レノ負擔ナルカヲ明言セ
サルヲ得ズ假テ同條末項ニ之ヲ掲ケ其他町村固有ノ事務ニ要スル費用ハ町村ノ自ラ負擔ス可キコト言フ俟タズレテ明ナ
リ

二 町村助役

助役ハ各町村ニ一名ヲ置クヲ通例トス然レトモ各地方ノ需要ニ應ジテ或ハ之ヲ增加ス可キコトアリ之ヲ町村條例ノ定

ムル所ニ任セリ(町村制第五十二條)助役ノ町村長ニ屬スルハ共ニ集議體ヲ爲スニアラス町村役場ノ事務ハ皆町村長ノ專
決ニ在リ其責任モ亦町村長一人ニ屬ス故ニ助役ハ其補助員ニシテ一ニ町村長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ輔佐スルモノトス唯町村
長故障アリテ之ヲ代理スル場合及委任ヲ受ケテ事務ヲ專任スル場合ニ限リ自ラ其責任ヲ負フモノトス但事務ヲ委任スル
ニハ町村會ノ同意ヲ得ルヲ要シ町村制第七十條其町村長ニ委任ノ事務ニ係ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス(町
村制第六十九條)

三 市事會

市ニ於テハ市長及助役ヲ置クコト町村ノ制ニ同クシテ別ニ各縣郡事會員若干名ヲ置キ合セテ集議體ヲ組織シ之ヲ市事
事會トス是町村ノ制ト異ナル所ナリ助役及名譽職事會員ノ定員ハ市制第四十九條ニ之ヲ定ムト雖モ市ノ情況ニ依リ増
減ヲ要スルトキハ市條例ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得可シ(市制第四十九條)市長ハ一箇ノ決議權ヲ有シ員數相半スル時
ハ專決スルコトヲ得此集議會ノ職務ハ至ク町村長ノ職務ト其例ヲ同クス(市制第六十四條)其詳細ノ説明ハ茲ニ要セザル
可シ其職務規程ハ本制ニ於テ多ク設クルヲ要セス(市制第六十五條至第六十八條)其細目ニ至テハ内務省令ヲ以テ之ヲ
定ムルコトアル可シ

市長ハ市ノ固有ノ事務ヲ處理スルト委任ノ事務ヲ處理スルト各別段ノ地位ヲ占ムルモノトス即チ市ノ固有ノ事務ニ就テ
ハ事會ノ議事ヲ統理シ之ヲ準備シ議決ヲ執行シ時ニ臨テハ議決ノ執行ヲ停止シ(市制第六十五條)外部ニ對シテ市ヲ代
表スルモノニシテ唯恣意ヲ要スル場合ニ限リ議決ヲ俟タズシテ專行スルコトヲ得可シ(市制第六十八條)然レモ市制第七
十四條ニ列載スル委任ノ事務ニ就テハ事會ノ參與ヲ受ケシテ專行スルモノトス此區別アルハ即前述ノ乙法ヲ取リ之
ヲ市ニ委任セシメテ特ニ市長ニ委任シタルニ依ル

市助役及其他ノ事會員ハ會中ニ在テハ市長ト同一ノ職權ヲ有スト雖モ隨事外ニ在テハ町村助役ノ町村長ニ於ケルト同
ク市長ニ對シテ補助員ノ地位ニ在ルモノトス(市制第六十九條第七十四條第二項)殊ニ都府ノ地ニ於テハ分業ノ必要ナ
ル可キヲ以テ事務ヲ分テ事會員ニ專任セシムルコト最要ナリトス此需要ニ應ジシカ爲メ本制ハ之ヲ市條例ノ適宜定
第二類 第二章 市制町村制理由

ル所ニ設ク(市制第六十九條第三項)以テ各地方ノ便ニ從ハントス

四 委員

委員ヲ設クルハ市町村人民ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲メニ最效益アリ委員アルトキハ多數ノ公民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲メニ力ヲ竭スコトヲ得セシメ自治ノ效用ヲ擧グルコトヲ得可シ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラス委員ノ列ニ入りテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得可シ又地方ノ事情ヲ察白スルノ機會ヲ得テ大ニ專務委員ノ短處ヲ補フコトヲ得可シ蓋シ委員ハ自治ノ制ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ本制施行ノ際委員ノ設ケヲ促シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシメンコトヲ務ム可シ委員ノ應置ハ固ヨリ市町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト雖モ町村長及市參事會ハ正系ノ行政機關ニシテ委員ハ其一部分ニ參與スルニ過キサレハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概ネ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參事會員ヲ以テ多ク之ニ加ヘ市町村會議員モ亦成ル可ク此委員ニ列セシメンコトヲ要ス市町村會ノ職員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政吏員ト互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軌轢ヲ防制スルコトヲ得可シ

五 區長

區域廣闊又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ランカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アル可シ故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ劃設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ附屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區内ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ別ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラザレハ(三府ヲ除ク)外)實際此事情ヲ斟酌セサル可カラズ要スルニ區ハ市町村内別ニ特立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セス財產ヲ所有セス歲計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋區ヲ設クルトキハ施政ノ周到ナル

ヲ得可ク一市町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軌轢スルヲ調和シ市町村費賦課ノ不均衡ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節略スルヲ得可シ要スルニ區長ヲ設クルハ更ニ自治ノ良元素ヲ市町村制中ニ加フルモノニシテ舊制ノ區長組織等ノ例ヲ採用セルナリ但從前ノ區内ニ存スル戶長ノ類ト混ス可カラス又區ニシテ從來固有ノ財產アル時ノ例ハ第五章ノ說明ニ詳述ス可シ

六 其他ノ市町村吏員

以上市町村吏員ノ外收入役アリ(市制第五十八條)町村制第六十二條)其職掌ハ市町村有財產ト連帶シテ説明ス可シ又書記其他技術上ニ要スル吏員アリ又使丁ナル者アリ機械的ニ使用スル者トス此等ノ吏員ヲ置キ相當ノ給料ヲ與フルハ市町村ノ義務トス(市制第五十六條)町村制第六十三條)

町村ニ於テハ書記其他ノ吏員ヲ置キ俸給ヲ支出スルノ義務アリト雖モ本制ハ小町村ノ爲メ一ノ便法ヲ設ケ町村長ニ一定ノ書記料ヲ給シテ其便宜ニ從ヒ書記ノ事務ヲ保攝スルヲ許サントス此便法ヲ設ケ及其書記料ノ額ヲ定ムルハ町村會ノ職權ニ在ル可キモノトス(町村制第六十三條第一項)若シ町村長ニ於テ其金額ニ不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條ニ依リ之ヲ郡參事會ニ申出ツルコトヲ得可シ其他ノ細目ハ今之ヲ制定セス蓋書記料ヲ給與スルトキハ町村長ニ於テハ自ラ其事務費ヲ節約スルヲ得可シ監督官廳モ亦能ク是ニ注意シ公務上支障ナキ限リハ町村ニ設示シテ繁雜ヲ省キ冗費ヲ減セシムコトヲ務メサル可カラス要スルニ本制ハ分權ノ主義ニ依リ名譽職ヲ設ケ從來ノ町村費ヲ節約センコトヲ期スト雖モ若シ市町村ニ於テ度外ノ節約ヲ行ヒ依テ公益ヲ害スルニ至ラントスルトキハ監督官廳ニ於テハ則チ之ニ干渉スルノ道アリ

市ハ勿論其他大ナル町村ニ於テハ文化ノ進ムニ從ヒ高等ノ技術員(法律顧問土木工師建築技術衛生技師等ノ類)ヲ使用ス可キ必要ヲ生スルニ至ル可シ之ヲ使用スルニハ或ハ通常雇入ノ契約ヲ以テシ或ハ市町村吏員ト爲スコトアル可シ又臨時ニ依リ之ヲ有給ノ助役トシテ任用スルノ便アリ本制ハ此件ニ關シテハ至ク市町村ノ自由ニ任セントス尤警察學事等ノ爲メニ特別ノ人員ヲ置クニ付テハ別段ノ法規ヲ要ス可シト雖モ若シ別法ヲ以テ定ム可キモノナリ

第二類 第二章 市制町村制理由

市町村ノ公務ニ任スル者ハ各職下專務職トノ二種ニ分ツト雖モ本制ニ於テ主トシテ各職ヲ擴張シタル理由ハ上ニ之ヲ論述シタルカ如シ又本制ニ於テ各職ト爲ス可キコトヲ規定シタル場合ニ於テハ市町村ハ必ズ之ニ違依ス可シ決シテ有給職ト爲スヲ得ス然レトモ小町村ニ於テ各職ニ屬スルモノト雖モ大市町村ニ在テハ專務員ヲ置クヲ要スルコトアリ專務職トハ特別ノ技術若クハ學問上ノ養成ヲ要スル職務並事務繁多ニシテ本業ノ餘暇ヲ以テ無給ニテ負擔セシムルコト能ハサル職務ナリ此ノ如キ職務ハ有給員ト爲スヲ常例ト爲セリ此條理ノ範圍内ニ於テ市町村ハ自己ノ便宜ニ依リ有給員若クハ無給員ヲ置ク可キモノトス

今本制ニ於テハ市長市助役市町村収入役及市町村附屬員使下ハ皆專務員ト爲ス可キ者トス町村長町村助役ハ各職下爲スヲ原則トスト雖モ町村ノ情況ニ依テ之ヲ有給ノ專務職ト爲スヲ得セシム(町村制第五十五條第五十六條)市町村會員(市長助役ヲ除ク)委員區長ハ各職トス但三府ノ區長ハ有給員ト爲スコトアル可シ

專務員及名譽職員ハ共ニ市町村吏員ナリ本制ニ於テ其區別ヲ爲サ、ルモノハ總テ此兩種ニ適用スルモノトス又市町村吏員タル者ハ其何レノ種類ニ屬スルニ拘ハラズ法律ニ準據シテ所屬ノ官廳及市町村廳ニ對シテ從價ナル可ク均シク懲戒法ニ服從ス可シ其懲戒ヲ行フハ町村長及市町村會(町村制第六十八條第二項第五市制第六十四條第二項第五及監督官廳部長府縣知事)ノ任トス(町村制第二百二十八條市制第二百二十四條)懲戒ノ開トシテ本制ハ左ノ三種ヲ設ク

- 一 懲戒
- 二 過怠金
- 三 解職

職員又ハ過怠金ニ處スルハ懲戒員ノ專決ニ屬シ其處分ニ對スル訴願モ均ク懲戒員ノ專決ニ任シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム是專ラ懲戒權ノ執行ヲ嚴禁ナラシムル所以ナリ獨リ解職ノ處分ニ對シテハ大ニ保護ヲ加ヘサル可カラス(但隨時解職シ得キ吏員ハ懲戒裁判ノ法ニ依ラス解職スルヲ得セシム)故ニ本制ハ解職ノ理由ヲ指定セシムルミナラス(但行狀ヲ紊亂シ廉恥ヲ失フトハ公務上ニ止マラス私行ニ關スルコトモ含蓄スルモノナリ)即ち

會府縣參事會ナル集議體ノ裁決ニ任セリ(市制第二百二十四條町村制第二百二十八條)

專務員及名譽職員トモ職務上大率同一ノ權利義務ヲ有スト雖モ深ク其性質ニ就テ考フルトキハ互ニ相異ナル所アリ專務職ヲ辭スルハ吏員ノ職意ニ在リト雖モ名譽職ハ公民ノ義務トシテ之レニ應セサルヲ得ス其已ニ擔當シタル職務ヲ繼續スルノ義務アルト否トニ付テモ亦此區別アリ(市制第八條第五十五條第三項町村制第八條第五十七條)又市制第五十六條第五十八條及町村制第五十八條第六十二條ノ制限ノ如キハ專務員ニ非サレハ負擔セシムルコトヲ得ス市制第五十九條町村制第六十三條ニ記載シタル吏員ハ其任用ノ時此等ノ關係ヲ約定スルヲ可トス有給職ニ任用スルニ其市町村ノ公民タル者ニ限ラサルハ徒ニ選擇ノ區域ヲ減縮セザランカ爲メナリト雖モ高等ノ有給員ニハ其職ニ就クト同時ニ其市町村ノ公民權ヲ付與スルコト當然ナリ(市制第五十三條第五十八條町村制第五十六條第二項第六十二條)專務員ハ一身ノ全カヲ擧ケテ市町村ノ爲メニ盡ス可キヲ以テ相當ノ給料ヲ受クルハ元ヨリ至當ナリト雖モ名譽ノ爲メニ就職スル公民ニハ給料ヲ給セス(市制第七十五條)尤市町村ノ公務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セサルヲ得ス唯其名譽職ノ事務頗ル繁忙ニシテ水滌ヲ妨ケラル、トキハ多少ノ報酬ヲ與フルハ當然ナリ其類ハ因ヨリ勸勞ニ相當セサル可カラズ此規則ハ町村長(町村制第五十五條第二項)ハ勿論町村助役及名譽職市參事會員ニシテ市町村事務ヲ分任スル者(市制第六十九條第二項町村制第五十五條第二項)ノ爲メニ之ヲ設ク其報酬ハ市町村會之ヲ議定シ(市制第七十五條)其額ニ關スル爭論ハ市制第七十八條ニ依テ處分レ司法裁判ヲ求ムルヲ許サズ

有給市町村吏員ノ財産上ノ要求ハ上ニ記載シタル理由アルニ依リ其職重ケレハ從テ其給料ニ關シテ官廳ノ干渉ヲ要スルコト多シトス尤給料額ハ元來市町村ノ自ラ定ムル所ニ任シ條例ヲ設ケテ之ヲ一定シ又ハ選任ノ前ニ方テ議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム可シ然レトモ監督官廳ハ斯ク市町村ノ定ムル給料ヲ以テ多キニ過キ又ハ不足アリト爲ストキハ認可ヲ拒ミ所屬ノ參事會ヲシテ之ヲ斷定セシムルノ權利アリ

第二編 第二章 市制町村制理由

ルヲ以テナリ若シ其責任担當限後再選考ハ再任セラレサルトキハ選ニ細口ノ道ヲ失フニ至ル可シ故ニ此結果ヲ防クニ非サレハ一方ニ在テハ有力ノ人進テ市町村ノ職ニ就クコトヲ屑シトセサル可ク一方ニ在テハ再選ニ依テ生計ヲ求ムルカ如キ輩ヲシテ常ニ市町村會ノ氣息ヲ窺ヒ以テ公益ヲ忘レシムルコトナシトセス加フルニ市町村ノ職務ハ昇進財給ノ途少キヲ以テ其退職料ヲ給スルハ官吏ヨリ厚クスルヲ至當トス然レモ目下一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定メンヨリハ寧ロ市町村ノ條例ヲ以テ之ヲ設定セシムルノ便ナルニ若カサルナリ

有給ト無給トヲ論セス凡市町村吏員ノ職務上ノ收入ハ市町村ノ負擔タルコト疑ヲ容レズト雖モ之カ明文ヲ掲グルモ亦無用ニアラサル可シ(市制町村制第八十條)

市町村ト吏員トノ間ニ起ル給料及退職料ノ爭論ハ司法裁判ニ付セス市制町村制第七十八條ニ依テ處分ス可キナリ其保護ハ此方法ヲ以テ足レトス

結局ニ至テ猶注意ス可キコトアリ抑退職料ノ規則ヲ設クルトキハ市町村ノ負擔ヲ加重スルノ恐アリト雖モ他國ノ實際ニ據レハ決シテ多額ノ負擔ヲ爲スモノニアラス市町村ニ於テハ多クハ適任ノ吏員ヲ再選シ吏員モ亦再選ヲ受ケサルトキハ必他ノ地位ヲ求メサル者アラサル可シ故ニ實際退職料ヲ支出スルノ場合ハ甚少カル可キナリ又一方ヨリ論スルトキハ町村ノ盛衰ハ有爲ノ人材ヲ得ルノ多少ニ關シ有爲ノ人材ヲ得ルト得サルトハ其生計ヲ安全ナラシムルト否トニ關スルモノニシテ市町村自治ノ權ヲ得ルニ於テハ退職料負擔ノ如キハ之ヲ重シト置テ可カラズ況ヤ有給ノ町村長助役ヲ設ケサル町村ニ於テハ此負擔ヲ受クルノ場合少キニ於テヤ又況ヤ名譽職ヲ設クルニ於テハ行政ノ費用大ニ減少ス可キニ於テヤヤ益市町村ノ繁榮ハ斯ノ如キ法アリテ始メテ將來ニ期望ス可キナリ

市制町村制第四章 市町村有財產ノ管理

市町村ニ於テ自ラ其事業ヲ執行スルニ付テハ必之ニ要スル所ノ資金ナカル可ラス故ニ各市町村固有ノ經濟ヲ立テ以テ必要ノ費用ヲ支辨スルノ道ヲ設ク可シ即市町村ハ財產權ヲ有スルコト概ネ一個人ト同一ナリ然レトモ細ニ觀察スルトキハ其一個人又ハ私立組合ノ類ト相異ナルモノハ市町村ノ事業及支出ノ大半ハ法律規則ニ依テ定マリ市町村民ニ對シテ其發

務トシテ負擔セシムルコトヲ得ルノ一點ニ在リ蓋市町村ノ經濟ハ之ヲ派論スルトキハ一個人ト同一ノ權利ヲ有スルモノニシテ市町村ハ自ラ其經濟ヲ管理スルノ專權アリト置テ可シ而シテ之ニ二様ノ制限アリ第一市町村ノ資力ハ大ニ國家ノ擔負ニ關係アルヲ以テ政府ハ須ク此點ニ注意セサル可カラズ第二政府ハ市町村ノ經濟ヲ以テ國ノ財政ニ抵觸セザラシメ之カ爲メニ國ノ財產ヲ潤滑セザラシムコトヲ務メサル可カラズ故ニ市町村ノ財政ヲ以テ立法ノ範圍ニ入レ立法權ヲ以テ市町村ノ財政ニ關スル法規ヲ設ケテ之ヲ格遵セシム可キ而已ナラス其經濟上ノ處分苟モ國ノ利害ニ關涉スルモノハ皆政府ノ許可ヲ得セシメントス

以上ノ論點ニ關スル規定ハ市制第四章及第六章並町村制第四章及第七章ニ載ス抑市町村ノ經濟ニ對シ政府ノ干渉スル所ノ程度ハ自治制度ヲ論スル者ノ視ル所ニ依テ各異ナル所アル可シト雖モ要スルニ市町村ノ行政ニ對シ官廳ノ監視ヲ重シテ之ヲ拘束スルニ過クルトキハ其弊ヤ遠ニ市町村ノ便宜ヲ妨ケ其自ラ進テ幸福ヲ求ムルノ道ヲ阻礙スルヲ免レサラントス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ自ラ從來ノ慣行アリテ進ニ之ヲ變シ難キモノアリ故ニ漸ヲ以テ市町村ノ自主ヲ擴張スルヲ是ナリトス此點ニ於テハ本報ハ最慎重ヲ加ヘ今日ノ情勢ニ照レテ適度ヲ得タリトスル所ヲ以テ制定セリ

市町村ノ法人タルハ已ニ法律ノ認ムル所ナレハ市町村ノ財產ヲ所有スルノ權利ヲ有ス可キコト固ヨリ疑ヲ容レズ而シテ市町村財產ニ二種ノ別アリ(甲)市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ賃渡料營業ノ所得市町村稅及手帳料等ノ如キ是レナリ又基本財產ト稱スルモノアリ基本財產ハ其入額ヲ使用スルニ止マリ其原物ヲ消耗セサルモノトス蓋此區別ヲ立ツルハ市町村ノ資力ヲ維持スルカ爲メニ極メテ緊要ナルモノニシテ國家ハ特ニ市町村ノ基本財產ヲ保護シテ其濫費ヲ防カサル可カラズ且經常歲入ノ外ニ臨時ノ收入例ヘハ寄附金等ノ如キハ成ル可ク經常歲費ニ充テシメサルヲ要ス唯寄附者ニ於テ寄附金支出ノ目的ヲ定メタルカ或ハ非常ノ水害若クハ凶荒等ノ爲メ經常ノ收入ヲ以テ其用途ニ充ツルニ足ラサルカ如キノ場合ハ固ヨリ別段ナリト雖モ是亦上可ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ其經濟上ノ處分ヲ重スル所以ナリ(市制第八十一條第百二十三條第二)町村制第八十一條第百二十七條第二(乙)凡市町村ノ財產ハ市町村一般ノ爲メニ使用スルコト固ヨリ言ヲ俟タズ故ニ特ニ之ヲ法律ニ掲載スルヲ要セスト雖モ若シ任民中其財產

第二類 第二章 市制町村制理由

ニ備シテ特別ノ權利ヲ有スル者アルトキハ自ラ其證明ヲ立ツルノ義務アリ即民法上其證明ヲ認トルニ於テハ特別ノ權利ヲ有スルモノトシ其證明ナキモノハ即一般ノ使用權アルモノトス(市制町村制第八十二條)

市町村ノ所有ニ屬スル不動産ノ使用ヲ直接ニ居民ニ許スハ從來ノ實例少シトセス故ニ其賃價アルモノハ特ニ之ヲ存シ令ヨリ後ハ概シテ新ニ使用ヲ許スヲ禁セリ(市制町村制第八十三條第八十四條)又一方ニ於テハ使用權ニ相當スル納稅義務ヲ定メ(市制町村制第八十五條)且條例ニ依リ使用者ヨリ金圓ヲ徵收スルコトヲ許セリ(市制町村制第八十四條)然レトモ其使用ヲ許シタル物件ハ元來市町村ノ所有物ニシテ使用ノ權利ハ市町村住民タル資格ニ隨伴スルモノナレハ市町村ハ固ヨリ使用權ヲ制限シ若クハ取上クルノ權利ナカレカラス(市制町村制第八十六條)但其議決ハ上閉ノ許可ヲ受クルヲ要ストスハ(市制第二百二十三條第四項)村制第二百二十七條第四項)細民無産ノ徒ノ不利トナル可キモノヲ防カシカ爲メナリ之ヲ要スルニ以上ノ規定ハ市町村住民タル資格ニ附隨スル使用權ニノミ用フルモノニシテ民法上ノ使用權ニハ關係ナキモノトス蓋此使用權ハ民法ニ據テ論定ス可キモノニシテ其爭論モ亦司法裁判所ノ判決ニ屬ス可キモノトス而シテ前段ノ使用權ニ關スル爭論ハ市制町村制第二百五條ニ依テ處分ス可キナリ

市町村財産ノ管理ハ町村長及市會事會ノ擔任トス(町村制第六十八條)市制第六十四條)其管理上市町村會ノ議決ニ依ル可キハ町村制第三十三條)市制第三十一條及市制町村制第八十七條等ニ於テ又上閉ノ許可ヲ受ク可キ條件ハ載セテ市制第二百二十三條)町村制第二百二十七條等ニ在リ

市町村ハ其住民ヲシテ市町村ノ爲メニ義務ヲ盡サシムルノ權利ナカレカラスシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハサルハ上既ニ之ヲ論述セリ其義務ノ原缺ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサル可カラス其事業ハ全國ノ公益ノ爲メニスルモノアリ或ハ一市町村局部ノ公益ヨリ生スルモノアリ其全國ノ公益ニ出ツルモノハ軍警警察教育等ノ類ニシテ是皆特別ニ規定ス可キモノトス其局部ノ公益ヨリ生スルモノ即共同事務ハ各地方ノ情況ニ從テ異同アレハ茲ニ枚舉スルニ暇アリト雖モ農業經濟交通事務衛生事務等ノ如キハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益上ニ於テ必要ナル事項ハ悉ク共同事務ニ屬ス可キナリ本制ニ於テ散ケタル委任ノ國政事務ト固有ノ事務即共同事務トノ區別ハ專ラ

市町村長ノ地位ノ兩岐ニ分ル、所ニシテ且市町村ノ必要事務ト隨意事務トノ區別ヲ立ツルノ根據トナルモノナリ即此區別ハ官權ノ及フ可キ限界ヲ立ツルニ在リテ必要事務ハ監督官廳ニ於テ強制豫算ノ權利(市制第一百十八條)町村制第二百二十二條)アルモノトス而シテ必要事務トハ委任ノ國政事務ハ勿論共同事務中市町村ノ需要ニ於テ閉ク可カラサルモノニ限リ必要事務ト謂フヲ得可シ市制町村制第八十八條)規定ハ實ニ此精神ニ出テタルモノニシテ市制第一百十八條)町村制第二百二十二條)ニ云フ所ノモノモ亦同シ此ノ如キ規定アルトキハ共同行政上ノ事件ニ至ルマテ市町村ノ意向ヲ顧ミシテ負擔ヲ受ケシムルコトヲ得從テ官ノ監督權ハ重キニ過クルノ恐アリト雖モ一方ヨリ考フルトキハ至ク檢束ヲ解キテ市町村ノ自由ニ任スルハ却テ將來ノ爲メ顧慮スル所アリ故ニ市町村ノ公益上已トヲ得サルモノハ姑ク市町村會ノ意見ニ拘ラス監督官廳ノ命令ヲ以テ之ヲ執行スルノ權利ヲ存セサルヲ得ス但其處分ニ關シテハ上閉ヲ許シタルヲ以テ專制ノ弊ヲ免ル、ヲ得可シ其他必要ノ支出ハ本制市町村ノ組織ニ關スル條件中ニ含有セリ 隨意事務ニ就テハ市町村二十分ノ自由ヲ與フト雖モ若シ過度ノ負擔ヲ爲スニ至テハ之ヲ制スルニハ市制第二百二十三條第六項)町村制第二百二十七條第六項)規定ヲ適用スルヲ得可シ市町村ニ於テ其用途ヲ支辨スルカ爲メニ左ノ規入アリ

- 一 不動産資金營業(瓦斯局、水道等ノ類)ノ所得
 - 二 市町村ノ金庫ニ收入スル過渡金料(市制第四十八條第六十四條第二項第五第九十一條第二百二十四條)町村制第五十條第六十八條第二項第五第九十一條第二百二十八條)
 - 三 手数料使用料
 - 四 市稅町村稅
- 手数料トハ市町村吏員ノ職務上ニ於テ一個人ノ爲メ特ニ手数料要スルカ爲メ市町村ニ收入スルモノヲ謂ヒ使用料トハ一個人ニ於テ市町村ノ營造物等ヲ使用スルカ爲メ其料金を市町村ニ收入スルモノヲ謂フ例ヘハ手数料トハ帳簿記入又ハ審察事務上ニ於テ特ニ調査ヲ爲ストキノ收入ヲ謂ヒ使用料トハ道路橋樑等ノ類ヲ謂フ
- 手数料使用料ノ額ハ法律勸令ニ定ムルモノ、外市町村會ノ議決ヲ以テ定ムルモノナリ(市制第三十一條第五項)町村制第二類 第二章 市制町村制理由

三十三條第五)尤市町村條例ヲ以テ一般ノ規定ヲ設ケ(市制町村制第九十一條)其地ノ慣行ニ依リ相當ノ手續ヲ以テ公告スルキモノトス

且若シ手数料使用料ヲ新設シ又ハ舊來ノ額ヲ増加シ又ハ其徵收ノ法ヲ變更スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第二百二十二條第二)町村制第二百二十六條第二)但徵收ノ法ヲ改ムルコトナクシテ唯其額ヲ減スルニ過キサルトキハ其許可ヲ要スルヲ要セズ

手数料ヲ納ムルノ義務アルハ行政上ノ手数料要スル者ニシテ使用料ヲ納ムルノ義務アルハ營造物等ヲ使用スル者トス之ヲ免除スルハ市制町村制第九十七條第九十八條ノ場合ニ限ル可シ第九十六條ノ場合ハ町村ノ課税ヲ免除スルニ止リテ手数料使用料等ノ事ニ及ハサルナリ

町村税ニ關シテハ本制ハ成ルヘク現行法ヲ存スルノ精神ナリ町村税ヲ十分ニ改正セントスレハ先ツ國稅徵收法ヲ改正セサル可カラズ故ニ本制ニ於テハ現行ノ原則ニ依リ多少ノ修補ヲ加ヘタルニ過キス現今町村税ノ賦課目即地價割戸別割營業割等ノ如キ舊國稅府縣稅ニ附加シテ徵收スル者ニ外ナラス又或ハ特別ノ町村税アリ故ニ本制ニ定ムル所ノ課目ハ現行ノ課目ヲ存スルニ於テ妨ケナキモノナリ

附加稅トハ定率ヲ以テ國稅府縣稅ニ附加スルモノニシテ納稅ノ負擔ニ偏重ノ感ナカラシメンカ爲メニ其定率均一ニスルヲ例則トセリ(市制町村制第九十條)其賦課法ヲ定ムルハ市町村會ノ職權ニ屬ス故ニ市町村會ハ臨時ノ議決又ハ豫算議定ノ際ニ之ヲ議決スヘキナリ若シ此例則ノ外ニ於テ課法ヲ設ケント欲スルトキハ郡縣會(町村制第二百二十七條第七)若シハ府縣會(市制第二百二十三條第七)ノ許可ヲ受クルヲ要ス

稅率ノ定限ハ豫メ之ヲ設ケスト雖モ獨リ地租及直接國稅ニ於テハ市制第二百二十二條第三)町村制第二百二十六條第三)定メタル制限ヲ越ヘントスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス是レ國庫ノ財源ニ關係スル所アルヲ以テナリ就中地租ノ如キハ從前此定限ヲ超過スルヲ得ルハ非常特別ノ場合ニ限レリ而シテ特別許可ノ道ヲ存セサルカ如キハ地方ニ課稅ハ却テ課稅ノ平均ヲ得サルノ弊アリ是レ本制現行ノ例ヲ移シテ多少ノ便法ヲ開キタル所以ナリ間接稅ハ概シテ市町

村ノ附加稅ヲ課スルニ便ナラス故ニ市制第二百二十二條第四)及ヒ町村制第二百二十六條第四)從ヒ課稅官ノ許可ヲ要ストセリ各種國稅府縣稅ノ内何レヲ直接稅トシ又何レヲ間接稅トス可キカハ往々疑難ヲ生スルコトアリ此區別ニ就テハ今内務大臣兩省ノ告示ヲ以テ之ヲ定ムルコトトセリ(市制第二百三十一條)町村制第二百三十六條)

附加稅ノ特別稅ニ優ル所以ノモノハ附加稅ニ在テハ納稅者既ニ國稅又ハ府縣稅ノ賦課ヲ受クルヲ以テ別ニ其收益等ノ調査ヲ爲スヲ要セサルニ在リ唯其町村稅ハ免除セサルモ國稅府縣稅ノ賦課ヲ受ケサル者(一個人又ハ法人)ニ限リ更ニ其調査ヲ要ス可キニ付此場合ニ於テハ町村長若シハ市會事會ニ於テ其國稅府縣稅徵收ノ規則ニ據リ其調査ヲ爲サヘル可カラズ

特別稅ハ市制町村制第九十一條ニ從ヒ條例ヲ以テ之ヲ規定セサル可カラズ此點ニ於テハ既ニ手数料ニ就テ説明シタル所ニ同シ但特別稅ハ市町村必要ノ費用ヲ支辨スルニ附加稅ヲ以テシテ猶足ラサルトキニ限リ始メテ之ヲ徵收スルモノトス(市制町村制第九十條)

市町村稅ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スル者ニ就テハ一個人ト法人トヲ區別セサル可カラズ即チ左ノ如シ

甲 一個人

凡ソ納稅義務ハ市町村ノ住民ニ原クモノトス(市制町村制第六條第二項)故ニ此義務ハ市町村内ニ住居ヲ定ムルト同時ニ起ルモノナリ故ニ一旦住居ヲ定メタル者ハ時々他ノ市町村ニ滞在スルコトアリト雖モ納稅義務ヲ免ルヘキニ非ス若シ之ニ及ラズ住居ヲ定メシテ一時滞在スルニ止マルモノハ未タ此義務ヲ帶ヒス唯三箇月以上滞在スルトキハ住居ヲ占ムルト同ク納稅ノ義務ヲ生スルモノトス(市制町村制第九十二條)又假令ヒ市町村内ニ住居若クハ滞在セスト雖モ其市町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ均ク其市町村ノ利益ヲ蒙ルニ依リ共ニ納稅ノ義務アリトス但此義務ハ一般ノ負擔ニ非ラズシテ唯其土地家屋營業若クハ是ヨリ生スル所得ニ賦課ス可キ市町村稅ニ限リテ負擔ノ義務アルモノトス(市制町村制第九十三條)住居ト滞在トハ常ニ必ス同一ニ歸セサルヲ以テ或ハ重複ノ課稅ヲ受クルノ患ナシトセズ此弊害ヲ防クカ爲ニハ則チ市制町村制第九十四條)第九十五條ノ規定アリ他國ニ於テハ往々住居ヲ定ムル市町村ニ

第二類 第二章 市制町村制理由

特種ヲ與フルノ例アリト雖モ本制ハ特ニ此例ニ倣ハス要スルニ此ノ如キハ皆施行規則中ニ適宜ノ便法ヲ定ム可キコト
ノス

市町村税ノ免除ヲ受クルハ市制町村制第九十六條及第九十八條ニ掲載シタル人員ニ限レリ

七 法人

法人ハ市制町村制第九十三條ニ從ヒ唯其所有ノ土地家屋若クハ之ニ依テ生スル所得ニ賦課スル市町村税ニ限リ納税ス可
キモノトス抑法人トハ政府府縣(郡)モ亦亦制制定ノ上ハ法人ト爲スノ見込ナリ)市町村公共組合(例ヘハ水利土功ノ組
合社寺宗教ノ組合ノ類)慈善協會其他民法及商法ニ從ヒ法人タル權利ヲ有ス可キ私法上ノ結社ヲ指フ其私法上ノ結社ハ
市制町村制第九十七條ノ免税ノ部ニスレヌ又官設ノ鐵道電信ノ如キハ官ノ營業ニ屬スト雖モ是等ハ特ニ國家ノ公益ノ爲
ニ免税トス(市制町村制第九十三條)私設鐵道ニ至テハ各市町村ニ於テ其收益ヲ調査スル頗ル難キヲ以テ施行規則中ニ於
テ詳ニ之ヲ規定スルヲ要ス

凡ソ納稅義務者ニ課税スルハ總テ平等ナル可キナリ唯市制町村制第八十五條ハ此例外トシテ使用ノ土地物件ニ係ル費用
ヲ其使用者ニ課セリ又一市町村ノ數部若クハ數區ニ分レタルトキ其一部一區ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ其一部一區
ノ負擔トセリ(市制町村制第九十九條第二項)尤其一部一區ニ特別ノ財產アルトキハ先ツ其收入ヲ以テ其費用ニ充テ猶足
ラサル時特別ニ其一部一區ノ人民ニ課税シ又ハ一般全市町村税中ニ區別ヲ立テ其進率ヲ高クス可シ之ニ反シテ第九十九
條第一項ノ場合ニ於テ數個人ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ必其數個人ノ負擔トシ之レヲ他人ニ賦課スルコトヲ得サル
モノトス但市町村税ハ總テノ納稅義務者ト平等ニ賦課スルヲ以テ例則ト爲スカ故ニ若シ此例則ニ違ハントスルトキハ官
ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第九十三條第八、町制第二百二十七條第八)

各納稅者ノ稅額ヲ査定スルハ法租規則ニ依リ市制町村制第六十八條第八(町制第六十八條第八)及市參事會
(市制第六十四條第八)ノ擔任トス大ナル町村及市ニ於テハ之カ爲メ專務ノ委員ヲ設クルヲ便宜トス
社會經濟法ノ精進歩シタル今日ニ在テハ舊時ノ夫役現品ニ代ヘテ金納法ヲ行フニ至レリ然レトモ町村費ノ課出ニ於テ

ハ夫役現品ノ法ヲ存スルハ特ニ必要ナルノミナラス往々便利ナルモノアリ且古來ノ慣行今日ニ傳フル者其例少カラズ夫
役賦課ハ專ラ道路河溝堤防ノ修築防火水又ハ學校病院ノ修繕等ノ爲メニ行フモノナリ殊ニ村落ニ在テハ農隙ノ時ヲ以
テ夫役ヲ課スルトキハ租稅ノ負擔ヲ輕減セシカ爲メニ大ニ便益トスル所アリ農民ノ如キハ季節ニ依リ夫役ニ應スルヲ得
ルノ間隙アルコト市民ト其趣ヲ異ニス且地方道路ノ開通ヲ要スルモノ將來必少カラサル可キヲ以テ夫役賦課ノ法ヲ存ス
ルトキハ幾許カ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ效アルコト必セリ依テ市制町村制第一條ニ於テ市町村ニ賦課スル夫役賦課ノ
法ヲ以テセリ但此賦課ニ於テハ今日ノ經濟ニ適應セシメンカ爲メ本制ハ本人自ラ其役ニ從事スルト適當ノ代理者ヲ出シ又
ハ金額ヲ納ムルトヲ以テ義務者ノ選擇ニ任セリ其金額ニ算出スルハ其地ノ日雇賃ニ準シ日數ヲ以テ等差ヲ立ツルヲ通例
トス唯火災水害等ノ如キ急迫ノ場合ニ於テハ金額ヲ算スルコトヲ得可シト雖モ代人ヲ出スハ本人ノ同意ニ在ルモノト
ス

夫役ハ總テ市町村税ヲ納ム可キ者ニ賦課シ其多寡ハ直接市町村税ノ納額ニ準スルモノトス若シ此進率ニ依ラサルトキハ
郡參事會(町制第二百二十七條第九)及府縣參事會(市制第二百二十三條第九)ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス此場合ノ外ハ總テ
市町村限リ許可ヲ受ケヌシテ之ヲ賦課スルコトヲ得可シ

一般ニ夫役ヲ賦課スルト賦課セサルト及夫役ノ種類並範圍ヲ定ムルハ市町村會ノ職權(市制第三十一條第五、町制第三
十三條第五)ニ屬シ之ヲ各個人ニ別賦スルコトハ町村長(町制第六十八條第八)及市參事會(市制第六十四條第八)ノ擔
任トス

以上市町村ノ收入ハ普通法上ノ收入ニ屬スルモノニシテ其徵收ハ市制町村制第二百二條ヨリ第二百五條ニ準據ス可キモノト
ス而シテ其賦課徵收上ノ不服ハ同法裁判所ニ提出スルヲ許サス郡參事會府縣參事會ノ裁決ヲ經テ結局ノ裁決ハ行政裁判
所ニ屬ス此公法上ノ收入ハ私法上ノ收入ト相混同ス可カラズ例ヘハ市町村有ノ地所ヲ一個人ニ貸渡シタルトキ其借地料
ハ民法及訴訟法ニ準據シテ徵收ス可キナリ

將來市町村ノ事業漸ク發達スルニ從ヒ經費ノ増入ヲ以テ支辨スルコト能ハサル所ノ大事業ノ起ル可キハ勢ノ免レサル所

第二類 第二章 市制町村制理由

ナリ然レトモ、其費用ニ備ヘシカ爲メ資本ヲ蓄積セントスルコトモ、極メテ難カル可シ故ニ經常歳入ヲ以テ支ヘ能ハサル所ノ需要ニ應セント欲スレハ、市町村ヲシテ豫メ將來ノ歳入ヲ使用スルコトヲ得セシムルノ道ヲ開クノ外ナカル可シ。即公債募集ノ方法ニテ、抑公債募集ノ利益ハ收入時期ノ未タ到來セサルニ先テ豫メ歳入ヲ使用シテ以テ、町村住民ノ爲メニ大車業ヲ起シ、其經濟及納稅力ヲ奨励シ、且以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルニ在ルナリ。公債ノ事タル利益ノ在ル所斯ノ如メト雖モ之ニ伴フ所ノ弊害モ亦自ラ免レサルモノアリ。若シ市町村ニ於テ此方法ニ依リ豫メ將來ノ歳入ヲ使用スルトキハ、則其元利償却ニ充ツル所ノ金額ハ將來ノ歳入中ヨリ減却スルモノナレハ、負債額ノ多寡ト償還期限ノ長短トニ從ヒ市町村ノ財政ニ影響スル所少カラス。又市町村會ニ於テハ、資本ノ得易キカ爲メニ輕忽ニ其市町村ノ實力ニ相當セサル事業ヲ起スノ傾向ヲ爲シ、又ハ今日ニ負擔ス可キノ義務ヲ漫リニ後年ニ傳ヘントスルノ弊害ナキコト能ハス。是故モ行政官ノ注意ス可キノ所ニシテ、市制第六條、第百二十二條第一及町村制第百六條、第百二十六條第一ノ規定アルハ、以上ノ論旨ニ起因スルモノトス。

本制ハ公債募集ノ事項ヲ逐一列擧セズ、唯已トヨリ得ザルノ必要若クハ永久ノ利益ト云フヲ以テ之レカ制限ヲ立テタリ。若シ此制限ニ適合スルノ證明ナキモノハ、許可ヲ與フ可カラス。若シ又償還期限三年以内ニシテ許可ヲ要セサルモノハ、町村制第六十八條第一及市制第六十四條第一ニ依テ相當ノ處分ヲ爲ス可キナリ。其必要已トヨリ得ザルノ支出トハ、舊債ヲ償還シ、又ハ傳染流行若クハ水害等不慮ノ災厄ニ遭遇シテ一時ノ窮ヲ救ハントスルトキ、又ハ學校ヲ開設シ、道路ヲ修築スル等法律上ノ義務ヲ盡サントスルカ、如キ場合ヲ謂ヒ永久ノ利益トナル可キ支出トハ、市町村ノ力ニ堪フ可キ事業ヲ起シ以テ市町村有財產ノ生産力若クハ住民ノ經濟力ヲ増進シ、假令一時ノ負擔ヲ増スモ、永遠ノ利益ヲ生ズ可キ場合ヲ謂フナリ。尤何レノ場合ニ於テモ一時ノ歳入ヲ以テ支辨シ能ハサル時ニ限ルモノトス。但年々要スル所ノ常費ハ、必經常ノ歳入ヲ以テ支辨ス可キモノニシテ、公債ヲ募ルヲ得ズ。公債募集ニ當テハ、深ク注意ヲ加ヘ、成ルヘク住民ノ負擔ヲ輕クシ、利息ハ時ノ相場ニ準シ、隨時償還ノ約ヲ立テ、市町村ニ便利ヲ與ヘサル可カラス。到底償還方法ノ確定スルニ非サレハ、募集ヲ許サズ。又公債ハ成ル可ク市町村ノ財政ニ適宜シ、償還期限ハ長キニ過ク可カラス。故ニ本制ニ於テハ、償還ハ三年以内ニ始マルモノトシ、年々ノ償還歩合

ヲ定メ且募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還丁スルヲ以テ例規ト爲セリ。若シ此例規ニ違ハントスルトキハ、必官ノ許可ヲ要ス。(市制第百二十二條第一、町村制第百二十六條第一) 元來許可ヲ要セサル公債ノ種類ト雖モ右ノ例規ニ違フトキハ、亦官ノ許可ヲ要フ可シ。

公債ヲ起スト起サ、ルト及其方法ノ如何ハ市町村會ノ議決ニ屬ス。(市制第三十一條第八、町村制第三十三條第八) 唯定額豫算内ノ支出ヲ爲スガ爲メニシテ一會計年度内ニ償還ス可キ公債ハ市ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス。市會事會ノ意見ヲ以テ募集スルヲ得ト雖モ(市制第百六條第三項) 町村ニ於テハ町村會ノ同意ヲ要スルコト勿論ナリ。蓋斯ノ如キ公債ハ收入支出ノ多キ市ノ如キニ在テハ自然已トヨリ可カラサルモノニシテ、其支出ノ時期ト收入期限ト相合一セサルカ故ナリ。

凡公債ヲ募集スルニ付許可ヲ受クヘキハ、右ニ陳述シタル場合及會テ負擔ナキニ新ニ公債ヲ起シ、又ハ舊債ヲ増額スルトキニ在リ。故ニ前記ノ如キ一時ノ借入金ヲ爲シ、又ハ舊債償還ノ爲メニ新ニ公債ニシテ其規約償還ヨリ負擔ヲ輕クスルトキノ如キハ、渾テ許可ヲ要セス。其他ハ償還期限三年以内ノモノヲ除クノ外、内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ。

既ニ募集シタル公債ヲ豫定ノ目的外ニ使用セントスルトキハ、市町村會ノ議決ヲ要シ、且若シ其公債ニシテ官許ヲ要スルトキハ、許可ヲ受ク可キコト言フ俟タズ。

甲 定期豫算表ヲ編製スル事

乙 收支ヲ爲ス事

丙 決算報告ヲ爲ス事

以上ノ三要件ニシテ法律中ニ細目ヲ設クヘキ必要アルモノハ、本制第四章第二款ニ於テ之ヲ規定セリ。

甲

財政ヲ整理シ、收支ノ平衡ヲ保ツニハ、定期豫算表ヲ設ケサル可カラス。本制ハ(市制町村制第七條) 市町村ヲシテ豫算表編製ノ義務ヲ負ハント故ニ、若シ市町村ニ於テ此義務ヲ盡サ、ルトキハ法律上ノ權力ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可ク若シ之ヲ

第二類 第二章 市制町村制理由

議決セザルトキハ府縣警察委員會ノ議決ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得可シ(市制第九十九條)町村制第二百二十三條(此種
務ハ決シテ免ル可カラザルモノナレハ決シテ町村ト雖モ猶之ヲ負擔セザルヲ得ス其豫算表ハ一年ノ見積ヲ以テ之ヲ設ケ
其會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同クセリ其他本制ハ豫算表關連ノ細目ヲ定メス要スルニ一切ノ收支及收入不足ノ場合ケ
方リ支辨方法ヲ定ムルヲ以テ足レトス但財政整理上ニ於テ其市町村ノ資力ヲ酌量ス可キ必要ノ細目ハ省令ヲ以テ此
定ムルコトアル可シ

定額豫算ノ案ヲ關連スルコトハ町村長及市警察委員會ノ擔任ニシテ之ヲ議決スルハ市町村會ノ職權ニ屬ス收支ヲ許可スルコ
トハ市町村會ノ全權ニ任セメシテ法律上ノ檢束ヲ設ケルモノアリ即當然支出ス可キモノヲ否決シタルトキハ監督官廳ニ
於テ豫算豫算ヲ令スルノ權(市制第一百八條)町村制第二百二十二條)アリ又其議決ノ越權ニ涉リ又ハ公益ヲ害スルモノハ
其議決ヲ停止スルノ權(市制第六十四條第一)町村制第六十八條第一)アリ事項ニ依リテハ官ノ許可ヲ要スルカ故ニ(市制
第二百二十二條)第五百二十三條第五第六)町村制第二百二十六條第五百二十七條第五第六)市町村住民ノ爲メニ過度ノ負擔ヲ制
止スルノ方法ハ十分備ハレトテ可シ故ニ豫算表ハ市町村會ノ議決スル所ニ依リ其全體ニ於テ許可ヲ受クルヲ要セス
唯右ニ記載シタル場合ニ限リテ許可ヲ受クルヲ要スルノ事

凡定額豫算表ハ二種ノ効力アリ即一方ニ於テハ理事者ヲシテ豫定ノ收支ヲ爲スノ權利ヲ得セシメ一方ニ於テハ超過ス可
カラサルノ制限ヲ負ハシムルモノナリ殊ニ豫算外ノ支出豫算超過ノ支出若クハ費目ノ流用ヲ爲スニ當テハ更ニ市町村會
ノ議決ヲ經可キモノトス此場合ニ於テ市町村會ハ當初豫算ヲ議定スルト同一ノ規定ニ從テ之ヲ議決ス可キナリ其追加豫
算若クハ豫算ノ變更ヲ議決スルニ當リ其事項タル官ノ許可ヲ要スルトキハ均ク其許可ヲ受クル可キコトトス豫備費ヲ設ケ
可キト否ト及其額ノ如何ハ市町村會ノ議定ニ在リト雖モ已ニ之ヲ設ケタルトキハ市町村制第九條ノ制限ヲ除クノ外
町村長及市警察委員會ノ之ヲ使用スルニ任ス但決算報告ヲ爲ス可キハ固ヨリナリトス

市町村收支ノ事務ハ之ヲ官吏ニ委任セメシテ之ヲ市町村ノ吏員即收入役ヲ置テ之ニ委任ス是多ク各國ニ行ハルノ所ノ
也

實例ニシテ其更ニハ市町村ニ於テ之ヲ委任シ有給吏員ト爲セリ要スルニ本制ノ旨趣ハ收支命令者ト實地ノ出納者トヲ分
離獨立セシメント欲スルニ在リ故ニ收入役ノ事務ヲ町村長ニ委任スルハ本制ノ敢テ希望スル所ニ非シテ此ノ如キ場合
ハ極メテ罕ナル可シ若シ町村ノ情況ニ依リ別ニ有給ノ收入役ヲ置クヲ要セザルトキハ原口之ヲ助役ニ委任スルヲ可トス
又比隣ノ小町村ハ町村制第十六條ニ從ヒ共同シテ收入役一名ヲ置クモ亦便宜ニ任ス

收入命令權ハ町村長若クハ市警察委員會及監督官廳ニ屬ス收支命令ハ書面ヲ以テセザル可カラズ收支命令ヲ受ケシテ爲シ
タル支拂ハ市町村ニ於テ之ヲ認定スルヲ要セス抑收支命令ト實地ノ出納トヲ分離スルハ支拂前ニ於テ其豫算ニ違フ所ナ
キヤヲ監査スルニ便ナルカ爲メナリ元來決算報告ヲ爲スハ即此目的ニ外ナラズト雖モ既ニ支拂後ニ係ルヲ以テ其監査ハ
往々時機ニ後ルノ憾アリ故ニ本制ハ(市制町村制第十條)收入役ニ負ハシムルニ其命令ノ正否ヲ查スルノ義務ヲ以テ
レ其命令若シ定額豫算又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ決議ニ適合セス又豫備費ヨリ支拂フ可キトキ該費目ノ支出ニ關ス
ル規定ヲ遵守セザルニ於テハ之ヲ支出スルヲ得ザルモノトス此義務ハ收入役ノ賠償責任ト懲戒處分ノ制裁ヲ以テ十分ニ
之ヲ盡サシムルヲ得可シ

若シ町村長ニ收入役ノ事務ヲ擔任セシムルトキハ收支命令ト支拂トノ別ハ自ラ消滅シ隨テ上ニ記載シタル監査ノ法モ亦
之レナキニ至ル可シ

收入役ヲシテ右ノ義務ヲ行ヒ易カラシメンカ爲メ定額豫算表ハ勿論追加豫算若クハ豫算變更ノ議決ハ必之ヲ收入役ニ通
報セザル可カラズ其豫算表及臨時ノ議決ハ併セテ簿記ノ標準ト爲ルモノナリ本制ハ簿記ノ事ニ就テハ規定ヲ立ツルコト
ナシト雖モ簿記及一般出納事務ニ就テハ追加ヲ訓令ヲ以テ原則ヲ示スコトアル可シ又本制ハ出納ヲ檢査スルヲ以テ市町村
ノ義務ト爲セリ(市制町村制第十一條)若シ理事者ニ於テ此義務ヲ行ハス又ハ檢査ヲ行フテ盡サハル所アルカ爲メ市町
村ニ報告ヲ願シタルトキハ市町村ニ對シテ賠償義務ヲ負ハシム可キナリ此賠償義務ノ外懲戒ヲ加ヘ得可キハ百ヲ俟
ク

丙

第二章 第三節 市制町村制理由

決算報告ノ目的ハニアリ左ノ如シ

一 計算ノ當否及計算ト收支命令ト適合スルヤ否ヲ審査スル事(會計審査)
 二 出納ト定期豫算表又ハ追加豫算表クハ豫算變更ノ議決又ハ法律命令ト適合スルヤ否ヲ査定スル事(行政審査)
 會計審査ハ會計主任者(即收入役又ハ收入役ノ事務ヲ擔任スル助役若クハ町村長)ニ對シテ行フモノニシテ行政審査ハ市町村ノ理事者即町村長若クハ市參事會ニ對シテ行フモノナリ其會計審査ハ先ツ町村長(但町村長ニ於テ會計ヲ兼掌スルトキハ此限ニアラス)及市參事會ニ於テ之ヲ行ヒ次テ市町村會ニ於テ右ニ據ル目的ヲ以テ會計ヲ審査ス(市制町村制第百十二條)是故ニ收支命令者(町村長助役市參事會員)ニシテ市町村會ノ職員ヲ兼ヌルトキハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス(市制第百十三條町村制第百十五條)若シ又議長タルトキハ其議事申議長席ニ居ルコトヲ得サルモノトス(市制第百十二條町村制第百十三條)是利害ノ互ニ抵觸スルヲ以テナリ

市制町村制第五章 市町村內特別ノ財産ヲ有スル市區又ハ各部ノ行政

行政ノ便利ノ爲メニ盡シタル區ト一市町村內ニ於テ獨立ノ法人タル權利ヲ有スル各部トノ區別アルハ固ヨリ言フ俟タズ本制ハ一市町村ノ統一ヲ尚フモノニシテ一市町村內ニ獨立スル小組織ヲ存シ又ハ造成スルコトヲ欲スルニアラス然レトモ強テ此原則ヲ斷行セントスルトキハ一地方ニ於テ正當ニ享有スル利益ヲ侵害スルノ恐レアリ故ニ概シテ此旨趣ニ依テ論ス可カラサルモノアリ大市町村ニ於テハ現今既ニ特別ノ財産ヲ有スル部落アリ現今ノ小町村ヲ合併スルトキハ更ニ又此ノ如キ部落ヲ現出ス可シ其部落ハ即獨立ノ權利ヲ存スルモノト認フ可シ又他ノ一方ヨリ論スルトキハ市制町村制第九十九條ノ原則ニ依リ其部落ハ義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ之レガ爲メ直ニ別段ノ組織ヲ要スルコトナカル可シ其特別財産又ハ營造物ノ管理ハ之ヲ其全市町村ノ理事者タル町村長又ハ市參事會ニ委任スルモ妨ケナシ(市制第百十四條町村制第百十五條)若シ區長ヲ置クトキハ町村長又ハ市參事會ニ於テ區長ニ指揮シテ其管理ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得可シ尤其一部ノ權利ヲ侵害ス可カラサルハ言フ俟タズ本制ニ於テ其一部ノ出納及會計ノ事務ヲ分別ス可キモノトスル

ハ即是カ爲メナリ議會ノ職權ヲ論スレハ(市制自第三十條至第三十五條町村制自第三十二條至第三十七條)特別事務ト雖モ總テ之ヲ市町村會ニ委任スルモ妨ケナキ而シテ希望ス可キ所ナリ然レトモ地方ニ依リテハ全市町村ト其各部落トノ利害ハ互ニ相抵觸スルコト往々之レアリ其甚キニ至テハ多數ノ爲メニ壓抑ヲ蒙ルコトアリ依テ其一部限リノ選舉ヲ以テ特別ノ議會ヲ起シ以テ其議事ヲ委任スルコトヲ得可シ其之ヲ起スノ利害ニ就テハ一般ノ原則ヲ設ケ難キカ故ニ姑ク條例ノ規定ニ任セサル可カラス但此條例ハ固ヨリ普通ノ規定ニ依ル可クシテ特別ノモノニ非スト雖モ其之ヲ設ケ並其事項ヲ定ムルハ市町村會ノ議決ニ任セシメテ之ヲ郡若クハ府縣參事會ニ委任セリ何トナレハ利害ノ相抵觸スルカ爲メ偏頗ノ慮置アラシコトヲ恐ルレハナリ唯市町村會ノ意見ヲ徵ス可キハ勿論ナリ要スルニ區會ハ市町村會又ハ區內人民ノ憤願ニ依リ之ヲ設クルヲ當然トス

區會ノ構成ハ本制ニ規定シタル市町村會ノ組織ニ依準シ條例中ニ之ヲ定ム可キモノトス區會ノ職權ハ市町村會ノ職權ニ同シ唯其特別事件ニ限ルノミ

町村制第六章 町村組合

本制ノ希望スル如ク有力ノ町村ヲ造成シ又郡ヲ以テ自治體ト爲ストキハ其他別ニ區畫ヲ設クルノ必要ナカル可キナリ殊ニ一事件アル毎ニ特別ノ聯合ヲ設クルヲ要セサル可シ若シ淺ニ聯合ヲ設クルトキハ行政事務簡明ナラス其組織錯綜ヲ極メ費用モ亦隨テ增加スルヲ免レサルハ英國ノ實例ヲ以テ證スルニ足ル可シ獨リ水利土功ノ聯合又ハ小町村ニ於テ學校ノ聯合ヲ設クルカ如キハ甚已ムヲ得サルモノニシテ皆別法ヲ以テ規定セサル可カラス然レトモ其別法ノ發布セサル間ハ本制ニ於テ豫メ之カ方法ヲ設ケサル可カラス又此必要アルノ外往々町村組合ヲ設クルノ活路ヲ示ス可キモノアリ即本制ニ於テハ關係町村ノ協議ヲ以テ其組合ヲ爲スノ目的組合會議ノ組織事務管理ノ方法及費用ノ支辨方法等ヲ定ムルトキハ(町村制第百十六條第一項第百十七條第一項)監督官廳即郡長ノ許可ヲ得テ組合ヲ成スコトヲ許セリ町村ニ於テ相當ノ資力ヲ有セザルトキ組合ヲ爲サシムルヲ必要ト爲スカ如キ是ナリ此ノ如キ場合アルトキハ町村制第四條ニ於テ合併ス可クコトヲ規定スト雖モ事情ニ依リテハ合併ヲ施ス可カラス又ハ之ヲ不使ト爲スコトナシトセス例ハ該町村ノ互ニ相

第二類 第二章 市制町村制理由

邊境スルカ如キ又ハ古來ノ慣習ニ於テ調和ヲ得サルカ如キノ類アリ此ノ如キニ至テハ其町村ノ異體アルニモ拘ラス事務共同ノ爲メ組合ヲ成サシムルノ權力ナカル可カラス其組合ヲ成ストキハ第四條ノ場合ニ異ニシテ其各町村ノ獨立ヲ存レ又別ニ町村長及町村會若クハ町村總會ヲ有ス可キ理ナリ然レトモ其組合ヲ成ス所ノ共同事務ノ多寡及種類ハ其組合ニ依テ互ニ異ナルモノトス

抑協議ニ依ラスシテ組合ヲ設クルハ町村ノ獨立權ヲ傷クルノ恐レアルニ依リ郡參事會ノ議決ニ任スルヲ妥當ナリトス(町村制第六十六條第二項) 果シテ其共同事務ノ區域ヲ定メ強制ヲ以テ組合ヲ成サシメタルトキハ議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法就中分擔ノ方法ニ至テハ先ツ關係町村ニ於テ之ヲ協議スルヲ要ス若シ其協議ハサルニ及テハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スルノ外ナシ

組合議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法殊ニ分擔ノ割合ハ本制ニ於テ豫メ之ヲ規定セス實際ノ場合ニ於テ便宜其方法ヲ制ス可シ故ニ組合ハ特別ノ議會ヲ設ケ或ハ各町村會ヲ合シテ會議ヲ開キ或ハ互選ノ委員ヲ以テ議會ヲ組織シ或ハ各町村會別箇ニ會議ヲ爲シ其各議會ノ一致ヲ以テ全組合ノ議決ト爲スノ類各其宜キニ從フ可シ又町村長ノ如キモ組合ニ一ノ町村長ヲ置キ且之ヲ永久獨立トシ或ハ各町村長ノ交替ト爲スヲ得可シ又組合ノ費用ハ或ハ特別ノ組合費トシテ之ヲ各個人ニ賦課シ或ハ之ヲ各町村ニ賦課シ以テ其賦課徵收ノ法ヲ各町村ノ便宜ニ任スルヲ得可シ各町村分擔ノ割合ハ利害ノ輕重、土地ノ廣狹、人口ノ多寡及納稅力ノ厚薄ヲ以テ標準ト爲ス可シ但其納稅力ノ確定方ニ至テモ亦之ヲ一定スルコト能ハサル可シ以上ノ各事項ニ關シ本制ハ全ク實地宜キニ從フヲ許セリ故ニ各地方ニ於テ其便ト爲ス所ヲ探擇ス可シ

組合町村ハ之ヲ解クノ議決ヲ爲スヲ得ト雖モ郡長ノ許可ヲ得ルヲ要ス(町村制第六十八條) 市制第六章町村制第七章 市町村行政ノ監督

監督ノ目的及方法ハ本說明中各處ニ之ヲ論セリ故ニ從テ之ヲ贅セス唯茲ニ其要點ヲ概括セントス (第一)監督ノ目的ハ左ノ如シ

- 一 法律有效ノ命令及官廳ヨリ其權限内ニテ爲シタル處分ヲ遵守スルヤ否ヲ監視スル事
 - 二 事務ノ錯亂混淆ヒサルヤ否ヲ監視シ時宜ニ依テハ強制ヲ施ス事(市制第六十七條、町村制第二百二十一條)
 - 三 公益ノ妨害ヲ防キ殊ニ市町村ノ資力ヲ保持スル事
- 以上ノ目的ヲ達スルカ爲メニハ左ノ方法アリ

一 市町村ノ重要ヲ認可シ又ハ臨時町村長助役ヲ選任スル事(市制第五十條、第五十二條、町村制第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條)

二 議決ヲ許可スル事(市制第二百二十二條、第二百二十三條、町村制第二百二十六條、第二百二十七條)

三 行政事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ査閲シ事務ノ現況ヲ觀察シ並出納ヲ檢閲スル事(市制第一百七條、町村制第二百二十一條)

四 強制徵算ヲ命スル事(市制第一百十八條、町村制第二百二十二條)

五 上班ノ參事會ニ於テ代テ議決ヲ爲ス事(市制第一百十九條、町村制第二百二十三條)

六 市町村會及市參事會ノ議決ヲ停止スル事(市制第六十四條第一、第六十五條、町村制第六十八條第一)

七 懲戒處分ヲ行フ事(市制第二百二十四條、第二百二十五條、町村制第二百二十八條、第二百二十九條)

八 市町村會ヲ解散スル事(市制第二百十條、町村制第二百二十四條)

(第二)監督官廳ハ左ノ如シ

町村ニ對シテハ

- 一 郡長
- 二 知事
- 三 內務大臣

市ニ對シテハ

- 一 知事
- 二 內務大臣

法律ニ明文アル場合ニ於テハ郡長若クハ知事ハ郡參事會若クハ府縣參事會ノ同意ヲ求ムルヲ要ス但參事會ヲ開設スルマ

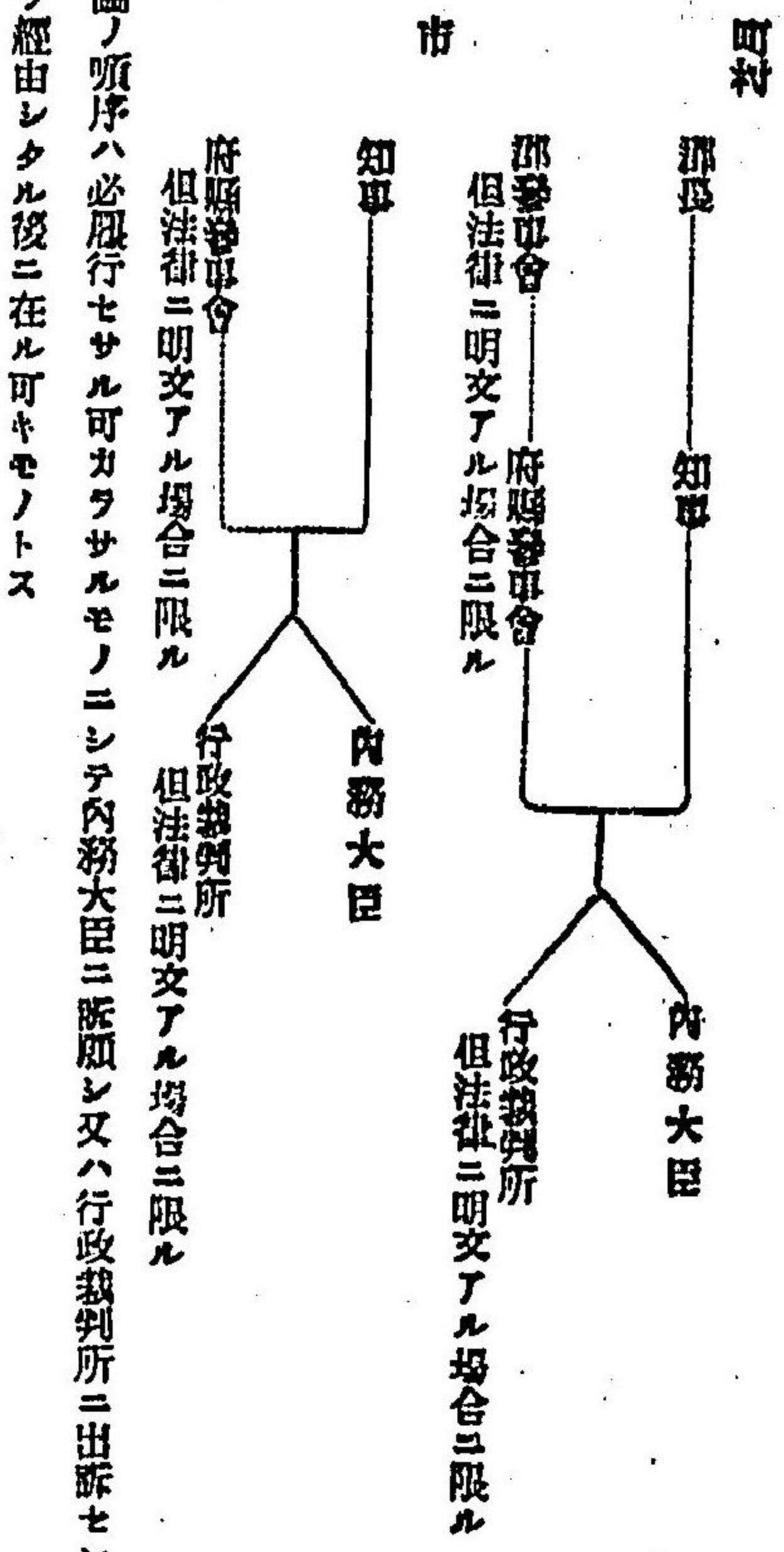
第二編 第二章 市制町村制理由

ヲハ郡長知事ノ専決ニ任ス(市制第百二十七條町村制第百三十條)

市町村吏員ノ處分若クハ職決ニ對スル既願ニ就テハ先ツ市町村ノ事務ト市制第七十四條町村制第六十九條ニ記載シタル事務トノ間ニ區別ヲ立テサル可カラズ市制第七十四條町村制第六十九條ニ記載シタル事務ニ關シテ既願ヲ許スト否トハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス之ニ反シテ市町村ノ事務ニ關シテハ此法律ニ明文アル場合ニ限レリ(市制第八條第四項第二十九條第三十五條第六十四條第二項第一第七十八條第百五條第百二十八條)本制ハ既願ノ必要ナル場合ヲ列載シ悉シタルモノトス又既願官廳ハ自己ノ發意ニ依リ其職權ヲ以テ監督權ヲ行フヲ得ルノミナラス人ノ告知ニ依テ亦之ヲ行フコトヲ得可シ而シテ其告知ハ本制ニ所謂既願ノ種類ニアラサレハ期限ヲ定メヌ又前キノ處分若クハ職決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得サルナリ(市制第百十六條第二項第五項町村制第百二十條第二項第五項)

市町村ノ行政事務ニ關シ郡長若クハ府縣知事ノ第一次又ハ第二次ニ於テ爲シタル處分若クハ職決ニ對シテハ其發事會ノ同意ヲ得ルト否トニ拘ハラズ一般ニ既願ヲ爲スヲ許セリ特ニ法律ニ明文アル場合ニ限リテ之ヲ許サ、ルモノトス(市制第百十六條第一項町村制第百二十條第一項)若シ其處分又ハ職決郡長ヨリ發シタルモノナルトキハ之ニ對スル既願ハ知事ノ職決ニ對シ郡發事會ヨリ發シタルモノナルトキハ府縣發事會之ヲ職決ス知事及府縣發事會ノ職決ニ不服アル者ハ共ニ內務大臣ニ既願スルモノトス而シテ權利ノ消長ニ關スル結局ノ職決ハ之ヲ行政裁判所ニ委任スルヲ妥當ト爲スハ上來職ノ權限ヲ規定シタルハ市町村ノ行政事務ニ關スル事ニ止マリ其他ノ事務ニ涉ル權限ハ他日別法ヲ以テ定ム可キコトトス又目下行政裁判所ノ設ケナキヲ以テ之ヲ開設スルマテノ間ハ内閣ニ於テ其職務ヲ擔任ス可キコト止ムヲ得サルナリ(市制第百二十七條町村制第百三十條)

以上所述スル所ノ要旨ハ則左ノ如シ
(第一)市町村ノ行政事務ニ屬セサル事件ニ對スル既願及其順序ハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス
(第二)市町村ノ行政事務ニ關スト雖モ市町村吏員ノ處分若クハ職決ニ對シテハ本制ニ明文ヲ掲ケタル場合ニ限リ既願ヲ許シ之ニ及シテ監督官廳又ハ府縣發事會ノ處分若シクハ職決ニ對シテハ一般ニ既願ヲ許ス其既願ノ順序ハ左圖ノ如シ



前圖ノ順序ハ必履行セサル可カラサルモノニシテ內務大臣ニ既願シ又ハ行政裁判所ニ出訴セントスルニハ必其前段ノ順序ヲ經由シタル後ニ在ル可キモノトス

○市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件(府縣會ノ部ニ職ス)
○市制中東京都大阪ノ三市ニ特例ヲ設ク(二十二年三月二十二日法律第十二號)

第二編 第二章 市制町村制

二百十六
朕市制中東京市京都市大阪市ニ特例ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

法律第十二號

第一條 東京市京都市大阪市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府知事之ヲ行ヒ
助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フ

第二條 東京市京都市大阪市ノ市參事會ハ府知事書記官及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組
織ス

第三條 東京市京都市大阪市ニ於テハ收入役書記其他ノ附屬員ヲ置カス府廳ノ官吏其職
務ヲ行フ

第四條 東京市京都市大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ每區ニ區長一名及書記ヲ置キ有給
吏員ト爲シ市參事會之ヲ選任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記
之ヲ代理ス

第六條 東京市京都市大阪市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府
ノ行政並收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七條 東京市京都市大阪市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員選舉區ト爲ス

○町村制ヲ施行セサル島嶼ヲ指定ス勅令第一號 二十二年一月十六日

朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第一號

町村制第三百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管下

小笠原島 伊豆七島

長崎縣管下

對馬國

島根縣管下

隱岐國

鹿児島縣管下

大隅國大島郡

大島 德ノ島

喜界島

沖永良部島

奧輪島

薩摩國川邊郡

硫黃島 黑島

竹島

口之島

臥蛇島

平島

中之島

懸石島

第二類 第二章 市制町村制

○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費浦役場費負擔方年二十

十六日
勅令第二號

朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二號

町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本屬府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬二十三年四月三十日

勅令第七十一號

朕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十一號

行政事務又ハ司法事務ニ關シ郡區ヲ以テ其區域ヲ定メタルモノニシテ市制ヲ施行シタル場合ニ於テハ特ニ市ノ屬スヘキ區域ヲ定メタルモノヲ除クノ外左ノ區別ニ隨ヒ其所屬ヲ定ルモノトス

- 一 區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市京都市大阪市ニ在テハ仍舊

ノ區域ニ依ル

- 二 郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍其従前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

- 三 二郡以上ニ渉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

- 四 此勅令發布前ニ行ヒタル選舉ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限り改選ヲ要セズ

區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選舉スヘキ縣會議員ノ數ニ増減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常縣會ノ議決ヲ取り明治二十二年法律第七號第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

○市町村名及市役所町村役場ノ位置變更方二十三年八月二十九日

法律第七十七號

朕市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第七十七號

- 第一條 市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二類 第二章 市制町村制

○市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱方二十三年二月十二日 法律第十號

朕市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

法律第十號

市町村制實施以前區戶長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟並同制實施後ニ係ル市町村長ニ對スル行政訴訟ハ從前郡區戶長ニ對スル事件ニ準シ始審裁判所ニ於テ取扱フヘシ但明治二十二年法律第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス
土地收用法第十五條第二項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法律施行前受理シタルモノハ從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

○非職、休職者ニシテ職員市町村吏ヲラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ケシム二十二年 關令第 六月四日 十八號

府縣會規則第十三條市町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ職員又ハ市町村ノ役員ヲラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ケ可ク

○區町村公共ノ共有物ハ區町村會ニ於テ評決セシム二十年十一月五日 內務省訓令第四十七號 府縣

區町村公共ノ經濟ニ關スル共有物ニ關スル事件ハ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ

但本文ニ抵觸スル從前ノ相令訓令ハ取消ス

○區町村費支辨ノ事業ニ關スル寄附金穀物件ノ費途使用方及區町村費ノ雜收入區町村會ノ評決ニ付セシム二十年十二月二十二日 內務省訓令第五十一號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

區町村費ヲ以テ支辨スル事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充テシムヘシ

區町村費ノ雜收入ハ他ノ收入ト同シテ區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

○市制町村制中直接稅間接稅ノ類別二十一年七月十三日(內務大臣連帶) 大藏省告示第九十五號

本年法律第一號市制第三百三十一條町村制第三百三十六條直接稅間接稅ノ類別ハ左ノ諸稅ヲ以テ直接稅トシ其他ハ間接稅トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管內ニ告示セシム

國稅

地租 所屬稅

地方稅

地租 戶數稅 家屋稅 營業稅 雜稅

區町村費

地價稅 役別稅 戶別稅 家屋稅 營業稅

○市制町村制實施ノ際區戶長區書記役場筆生事務取扱方及區町村經費徵收支出方二十一年 八月十八日 內務省令第四號

第一條 市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引續丁ノ日ニ至ル迄ハ(區長戶長區書記役場筆生等ニ於テ從
第二條 第二章 市制町村制

前ノ通事務取扱ヲ爲スヘシ

第二條 前條事務取扱中地方税支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費並ニ(區役所)(戸長役場)ノ經費ハ總テ該年度ノ豫算ニ據リ
地方税又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタルトキ前條ノ地方税又ハ町村費ニ關シ未ク該年度ノ豫算ヲ確定セズ又ハ關
定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ通府縣知事(戸長)ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取リ前條費目必要ノ豫算ヲ
定ムヘシ

第四條 市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村稅徵收ニ至ルマテ市町村必要ノ費用ハ第二條ノ費用ヲ除クノ外(區長戸長)
ニ於テ其豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ徵收ヲナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セサル場合ニ於テ
ハ各區町村會ニ於テ區々ノ豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スコトヲ得
前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニ依リ現在ニシテ區町村稅又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充
ツルコトヲ得

第五條 (區長戸長)ニ於テ取扱タル一切ノ金數並會計帳簿ハ其金數ノ種類及ヒ所屬年度ヲ區別シタル明細書ヲ製シ之
ヲ市町村長ニ引續クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ第四條ノ金額ハ事務引續前支
拂タルモノヲ除クノ外人口段別ノ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口段別ノ最多キ部分ノ分屬シタル市町村
長ヲ以テ主權トシ其市町村長ニ引續キ主權市町村長ハ第七條但書ノ精算ヲ了シタル上其所屬外ノ部分ノ分屬シタル
各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引續クヘシ
前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分屬スヘカヲサルモノアルトキハ更ニ引續クコトヲ要セス但問答ノ便ヲ妨ク
ヘカラス

第六條 第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上市町村稅
各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲ス可シ

同條第二項ニ依リタルトキハ新ニ徵收シタル市町村稅ヲ以テ返償ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ
分屬シタルトキハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應ジ各市町村長ニ於テ之ヲ徵收シ主權市町村長ニ於テ全額ヲ取纏メテ其
返償處分ヲ爲スヘシ

第七條 (區長戸長)ニ於テ未ク精算ヲ了セサル區町村費ハ其引續ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之ヲ精算ヲ作リ市町村會ニ
報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主權市町村長ニ於テ精算ヲ作リ主權市町村長ハ
其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主權市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シテ其市
町村會ニ報告セシムヘシ

第八條 前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルトキハ市町村長ニ於テ該區町村ニ割戻ヲ爲ス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以
上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主權市町村長ニ於テ割戻ノ處ヲ定メ其所屬外ノ部
分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ配付シ各其割戻ヲナスヘシ

第九條 第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルトキハ市町村會ノ決議ヲ經テ舊區町村ヨリ追徴補充スヘシ但一ノ區
町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主權市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算
ヲ作リ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ決議ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ
追徴補充スヘシ

第十條 不納ニ屬シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徴シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナスヘシ

第十一條 從前郡部ト經濟ヲ與ニセサル區若クハ郡部内ノ市街地ニ市制ヲ施行スルトキハ該市ハ地方稅費目中部區會
建設修繕費並郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノト
ス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

○市制町村制ニ依リ市町村歲入出豫算表式ヲ定ム(二十二年三月一日
明治二十一年法律第一號市制町村制ニ依リ市町村歲入出豫算表式左ノ通相定ム)

第二類 第二章 市制町村制

市町村歳入出算式

某府(縣)某市 某郡某町(村)(某町村組合) 明治何年度歳入出算式

歳入
 一金 歳入
 一金 歳出
 一金 歳入
 一金 歳出
 歳入計算高
 経常費計算高
 臨時費計算高

合計金(臨時費ノ豫算ナキト) *ハ此合計ヲ指ス
 歳入出算式

歳入出算引当金及歳出ノ豫算額金ハ翌年度繰越金ニ編入スルヲ通例ト爲スト雖モ若シ該歳金又ハ歳入豫算ニ對スル
 實收額ノ増減金額等特ニ其處分ヲ要スルトキハ豫メ其方法ヲ釐定シ本案ニ列掲スヘシ例ヘハ歳金ノ處分ニ付テハ其
 歳金額額ノ何歩ハ其本財産何歩ハ豫備費何歩ハ翌年度繰越金ニ編入スヘシト掲記シ又豫算ニ對スル實收ノ増減ニ付
 テハ何收入何税ノ附額ハ何收入何税ノ實收減額ヲ相抵シ稍減金アルトキハ何々(其本財産、豫備費、翌年度繰越金等)
 ニ編入スヘシト掲記スルノ類

某府(縣)某市 某郡某町(村) 某町村組合 明治何年度歳入出算式

科	目	前年度豫算額	本年度豫算額	附	記
第一款	財産ヨリ生				
	スル收入				

一	第二款 使用料及手数料				
二					
三					
一	第三款 雑収入				
二					
三					
一	第四款 前年度繰越金				
二					
三					
一	第五款 (市町) 村税				
一	地 價 割				
二	營 業 割				
三	戸別割(家屋割)				

第二款 第二章 市制町村制

合計		經常支出費		
科目	目	前年度豫算額	本年度豫算額	附記
第一款 役所(役場)費	一			
	二			
	三			
第二款 會議費	一			
	二			
	三			
第三款 土木費	一			
	二			
	三			
第四款 教育費	一			
	二			
	三			

第三類 第二章 市制町村制

第五款 衛生費	一						
	二						
	三						
第六款 救助費	一						
	二						
	三						
第七款 警備費	一						
	二						
	三						
第八款 勸業費	一						
	二						
	三						

一	第九款 諸税及負擔								
二									
三									
一	第十款 市(町村)公債費								
二									
三									
一	第十一款 雜支出								
二									
三									
合	計								

臨時費

科目	前年度豫算額	本年度豫算額	附記
第一款、			
合 計			
通 計			

明治何年何月何日提出

市町村長 何 某(自署)

記載例

- 一 經常支出ハ毎會計年度普通支出ヲ要スヘキモ歳出ヲ編入シ臨時歳出ハ時ニ依リ若クハ偶然生ズヘキ歳出例ヘハ異常ノ土木工事ニ係ル費用及臨時傳染病ノ豫防費等ノ類ヲ編入スヘシ
- 二 歳入歳出科目欄内ニハ物件又ハ費項ノ細節前年度豫算額本年度豫算額ニハ各共金額附記欄内ニハ各共事由ノ梗概ヲ記入スヘシ例ヘハ歳入ノ部財産ヨリ生ズル収入ニ在テハ貸地料雑敷料貸金利子(科目)何回(金額)其所字何原野貸地料一箇月何回ツ、其所主職幾棟一棟ニ付何回共有金貸附元金何千回八年幾割此利金何回何百回八月幾割此利金何回(附記)歳出ノ部役所役場費ニ在テハ市町村長給料助役給料委員報酬(科目)何回(金額)年俸何回幾人月給何回幾人(一箇年何回)何箇月分(附記)下記載スルノ類
- 三 財産ヨリ生ズル収入ノ款ニハ動産不動産ノ所得及瓦斯水道ノ如キ工事ノ所得ヲモ編入スヘシ

第二版 第二章 市制町村制

- 四 雜收入ノ款ニハ加入金渡船賃 橋梁賃 不用品賣拂代 竹木拂代 遺言金 料料金 賠償金 其他ノ收入ニシテ他ノ各款ニ屬セサル諸收入ヲ編入スヘシ
- 五 市町村税中地價割ニ付テハ地租ニ對スル歩合營業割戸別割及家屋割ニ付テハ地方税營業稅雜稅戸數割又ハ家屋稅ニ對スル歩合ヲ揭載スヘシ
- 六 市町村特別稅ヲ設クルトキハ戸別割又ハ家屋割ノ次ニ之ヲ揭載スヘシ
- 七 諸稅及負擔ノ款ニハ市町村有地所ノ地租又ハ地租割及郡費負擔等ノ類ヲ編入スヘシ
- 八 雜支出ノ款ニハ火災保險料 山番給 墓地費 其他ノ各款ニ屬セサル諸支出ヲ編入スヘシ
- 九 雜收入又ハ雜支出ニ編入シ難キ收支アル等別ニ一課ヲ設クルノ必要アルトキハ適宜之ヲ設クルコトヲ得
- 十 歳入歳出科目中其節目數多ニ涉ルモノハ適宜ニ項目ヲ設クルヲ得例ヘハ役場費中ニ給料雜給需用費ノ項目ヲ設ケ尚其細節ヲ編次スル如シ
- 十一 上級ノ經費 國庫地方 ヨリ補助金アルカ若クハ人民ヨリ寄付金アルトキハ歳入ノ部ニ在テハ前年度繰越金ノ次各其ノ款ヲ設ケ歳出ノ部ニ在テハ該當科目ノ金額欄内ニ内金何回補助又ハ寄付金ト附記スヘシ
- 十二 豫備費ヲ置クトキハ雜支出ノ次ニ其ノ款ヲ設ケヘシ若シ精算殘餘ヲ生スルトキハ順次之ヲ次年度ニ繰越スコトヲ得
- 十三 瓦葺燈水道等ノ類ニシテ別ニ豫算ヲ設クルヲ必要トスルトキハ適宜之ヲ調製スルコトヲ得
- 十四 町村組合ニ在テハ分擔法ニ依リ歳入科目第五款町村稅ノ款ニ於テ左ノ如ク掲載スルモ妨ケナシ

第五款 町村稅
其町ノ負擔
地價割

二	營業割
三	戸別割
其村ノ負擔	
一	地價割
二	營業割
三	戸別割

○市制施行地ヲ指定ス 二十二年二月二日
 明治二十一年法律第一號市制百二十六條ニ據リ市制施行地左ノ通指定ス

東京府管下	東京	京都府管下	京都	大阪府管下	大阪
神奈川縣管下	横浜	兵庫縣管下	神戸	長崎縣管下	長崎
新潟縣管下	新潟	茨城縣管下	水戸	三重縣管下	津
愛知縣管下	名古屋	静岡縣管下	静岡	宮城縣管下	仙台
慶幸縣管下	盛岡	青森縣管下	弘前	山形縣管下	山形
秋田縣管下	秋田	福井縣管下	福井	石川縣管下	金澤
富山縣管下	富山	高根縣管下	松江	岡山縣管下	岡山
廣島縣管下	廣島	山口縣管下	山口	和歌山縣管下	和歌山
德島縣管下	德島	香川縣管下	高松	愛媛縣管下	松山
高知縣管下	高知	福岡縣管下	福岡	熊本縣管下	熊本
鹿児島縣管下	鹿児島				

第二類 第二章 市制町村制

○佐賀縣管下佐賀ヲ市制施行地ニ指定ス 二十二年三月十八日
 明治二十一年法律第一號市制百二十六條ニ據リ佐賀縣管下佐賀ヲ市制施行地ニ指定ス
 ○岐阜及甲府ヲ市制施行地ニ指定 二十二年六月十日
 明治二十一年法律第一號市制百二十六條ニ據リ岐阜縣管下岐阜山梨縣管下甲府ヲ市制施行地ニ指定ス
 ○鳥取ヲ市制施行地ニ指定 二十二年九月十一日
 明治二十一年法律第一號市制百二十六條ニ據リ鳥取縣管下鳥取ヲ市制施行地ニ指定ス

●沿革要領

明治四年四月戶籍法則ヲ頒布シ地方ノ便宜ニ隨ヒ區區ヲ定メ戶長并副ヲ置ク○五年四月第十七號布告ヲ以テ莊屋名
 主等特權ヲ相廢止戶長副戶長ト改稱シ土地人民ニ關係ノ事件ハ一切之ヲ取扱ハシム○同年十二月大藏省第百四十
 六號布告ヲ以テ一區ニ區長小區ニ副區長ヲ置キ給料其他費用トモ悉皆民費ノ積ニ心得シム○九年十二月第百十七號
 布告ヲ以テ浦役場ヲ設置シ區區長戶長ヲシテ浦役人ヲ兼シム○同年十月第百三十號布告ヲ以テ各區町村金穀公債共有物
 取扱土木起功規則ヲ定ム○十一年七月第十七號布告ヲ以テ郡區町村編制法ヲ頒布シ郡區ニ郡區區長ヲ置キ各町村又ハ
 數町村戶長一員ヲ置ク○同月第三十二號布告ヲ以テ戶長職務ノ概目ヲ定ム○同年八月內務省第七百五十四號ヲ以テ戶長
 ハ其町村人民ニ於テ可成公選セシムヘキ旨ヲ達ス○十七年五月內務省第七百二十四號ヲ以テ戶長役場費ハ地方稅ヨリ
 支拂スヘキ旨ヲ達ス○同月第四十一號布告ヲ以テ戶長選任方ヲ定ム○同月內務省第七百二十七號ヲ以テ地方稅規則改
 正ニ付戶長以下ニ屬スル給與ハ派テ地方稅ヨリ支拂セシム○二十一年四月法律第一號ヲ以テ市制町村制ヲ頒布シ市
 制町村制ニ町村長ヲ置キ市會町村會及市町村吏員ノ取扱方等ヲ定メ該法律施行ノ日ヨリ九年第百三十三號布告十
 一年第十七號布告ノ内其他本制ニ關係セル從前ノ成規ヲ廢ス

○浦役場及浦役人

九年十二月二十日 大政官達第百十七號(關新舊)及沿海府廳

從來浦役人ノ名稱有之候得共其事務ノ定限モ無之ニ付自今左ノ條款ニ從ヒ浦役場ヲ設置シ

浦役人ヲ命スヘシ此旨相達候事

第一條 浦役場ハ沿海大市及ヒ商船幅湊ノ地ニ於テハ便宜ノ場所ヲ撰テ之ヲ設置ス可シ

第二條 浦役場ハ當分ノ中區務所等ヲ以テ代用シ浦役人ハ(區長若クハ)戶長ニ兼勤申付書

記用掛等ヲシテ補助セシムヘシ

第三條 浦役人ハ其地繫泊ニ關スル庶務 警察事務稅關事務其他 及ヒ難破船取扱難破浦證交付與

等ノ事ヲ掌ラシムヘシ

第四條 浦役場設置ノ地名ハ明治十年三月三十一日限リ內務省ニ報告シ以後毎年十二月中

ニ其廢置變換等ヲ同省ヘ報告スヘシ

●沿革要領

明治二年九月十八日布告ヲ以テ浦高札ヲ定ム○七年九月第九十七號布告ヲ以テ浦高札第五條ヲ改正ス○八年四月第
 六十六號布告ヲ以テ內國船難破及漂流物取扱規則ヲ定メ浦高札ヲ廢止ス但規則中浦役人ノ取扱方ヲ掲ク○九年十二
 月第百十七號布告ヲ以テ浦役場ヲ設置シ浦役人ノ事務ヲ定ム○十年三月第二十九號布告ヲ以テ八年第六十六號布告中
 ヲ改正ス○十一年十月第三十二號布告ヲ以テ前同上布告中ニ第三十八條ヲ追加ス○二十一年四月法律第一號ヲ以テ
 市制町村制ヲ頒布シ該條中市長町村長ヲシテ浦役人ノ事務ヲ扱ハシムルコトヲ掲ク

第三章 府縣會 町村會

○府縣會規則十三年四月八日
布告第十五號

明治十一年七月第拾八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事(府縣會施行ノ
目ヨリ消滅)

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時
ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事(縣令)ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事(縣令)
其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘ
シ

前項ノ場合ニ於テ府知事(縣令)ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ
認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ(十四年二月第四號布
告ヲ以テ本項ヲ追加
ス)

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受
ケ府知事(縣令)ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務

大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事(縣令)若クハ其代理人之ヲ説明スヘシ(十五年十二月第六十八號 報告ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議シ又ハ府知事(縣令)ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得(十五年二月第十號布告ヲ以テ全條但書共改正ス)

第八條 府縣會ハ府知事(縣令)ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ得

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事(縣令)ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得 府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セヌ又ハ事故ヲ告ケヌシテ參會セサル者ヲ審查シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事(縣令)ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得(十四年二月第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ

每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ増撰スルヲ得(十五年二月第十號 府縣會議員定數ニ依リ)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者 新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者(十五年二月第十號 府縣會議員ニ依リ)

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏(教導職)及陸海軍諸卒現役ノ者(同上又十七年第十九號布 送ヲ以テ教導職ヲ廢ス)

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ

第二款 第三款 府縣會

其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス(同上但改正)

第十五條 (二十二年二月法律第廿六號ヲ以テ廢止ス)

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 (同上)

第十八條 (同上)

第十九條 (同上)

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選舉ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲ケル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ選舉ス(十五年二月第十號布告ヲ以テ(前任ヲ再選)ト改ム)但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續

ニ據ル(同上但改正)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セザレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事(縣令)若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事(縣令)ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 閉閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其閉閉ハ府知事(縣令)ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但(區部)郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得(十五年十二月第六十八號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十七年十二月廿八號布告ヲ以テ更ニ(毎年一度ノ三月)ヲ十一月ト改メ十八年一月ヨリ施行セシム)

第二類 第三章 府縣會

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ
 得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由直ニ内務卿ニ報告スヘシ(同上)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ
 府知事(縣令)ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラ
 サルトキハ府知事(縣令)ハ更ニ其議定ヲ要セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行ス
(十四年二月第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加シテ)
(十五年十二月第六十八號布告ヲ以テ全項改正)

議員招集ニ應ゼサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ其事
 由ヲ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年二月第四號布告)
(十五年十二月第六十八號布告)

第一項ノ場合ニ於テ内務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間
 ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス
 ルコトヲ得(十五年十二月第六十八號)
(十五年十二月第十號布告)

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ内務
 卿ハ何レノトキヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得(十四年二月第四號布告ヲ以テ)
(十五年十二月第七號布告)

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシ
 ムヘシ(同上本)
(追加)

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ

議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員(以下十三年四月第四十)

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得
(十五年二月第十號布告)
(以テ本項及次項ヲ追加ス)

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ郡區各部ニ之ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ
 付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ
 豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得(十五年十二月第六十八)
(十五年十二月第十號布告ヲ以テ全條改正)

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告
 シ且通常會ト臨時會トヲ論セシ府知事(縣令)ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向
 テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳內ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員諮問ノ會議ハ別ニ議案書ヲ用ニルヲ要セス(十五年二月第十號布告ヲ以テ)
(常置委員)ノ下ニ二字ヲ加フ

第四十一條 諮問會ハ府知事(縣令)ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉ス
(同上)
(修正)

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事(縣令)ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ヶ年トシ議員改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得(同上トシテノ下)
十三字ヲ加フ

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス(同上議長ヲニシ)
(府知事縣令)

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○區郡部會規則十四年二月十四日 布告第八號

東京府京都市大阪府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十二年五月第貳拾六號及第貳拾七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スル

コトヲ得(十四年三月第二十號布告ヲ以テ但書ヲ加フ)

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會議同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條 (十五年二月第十二號布告ヲ以テ刪除)

第七條 (同上)

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戶數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ

政府ノ裁可ヲ得テ家屋税ト爲スコトヲ得(同上)

○府縣會其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會等ノ議ニ付スルヲ得十四年二月十四日 布告第六號

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會往復通信ヲ禁ス十五年十二月二十八日 布告第七十號

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十二條ニ依テ處分ス
右奉 勅旨布告候事

○府縣會議員選舉規則二十二年二月二十六日 法律第六號

朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第六號

府縣會議員選舉規則

第一條 (戶長)ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名原簿ニハ選舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ(戶長)ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 選舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地(區戶長)ノ履狀ヲ添ヘ選舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ

第二類 第三章 府縣會

前項ノ届出ヲ爲サ、ル納税額ハ選舉及ヒ被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラヌ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サヌ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置ク

モノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ選舉ヲ行フ前ニ於テ選舉權ヲ失ヒ若クハ選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡(區)長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ

五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ
選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依
リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至
リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書
記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ
順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘ
シ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用井投票ノ
當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
用紙ハ正職員ノ外補職員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正職
員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補職員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印ス
ヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照
シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選舉會長ハ書記
ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ立ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス
但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラズ

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ
裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラズ

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧嘩ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘
スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハ
サルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルハ
コトヲ得

選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セザリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ
第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得
第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ

得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ查定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用非其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其查定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス
當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ
當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢簿ノ投票ハ之ヲ取極メ封緘ノ上選舉會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ
前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訟訴又ハ告訴發アルトキハ一年ヲ過タルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ
第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉録中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 選舉會長及書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名

- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
 - 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末
 - 六 投票函閉鎖ノ時刻
 - 七 各被選舉人ノ得票數
 - 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 九 選舉閉會ノ時刻
 - 十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
- 當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ
- 第四十條 選舉録ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
- 第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル
- 第四十二條 左ノ投票ハ無効トス
- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ
 - 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

- 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
- 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
- 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ
- 一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ
- 第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ
- 第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス
- 第四十六條 郡區ノ區域廣潤ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但鳥嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシテ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上府郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ
分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待テ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ
當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト

見做スヘシ

當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ増選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補闕員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補闕員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニ在ラス

選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納税額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者ト爲リタル者ハ十回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五回以上五十回以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ
直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者モ亦同シ

第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラヌ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ選舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他

第二類 第三章 府縣會

ハ總テ本規則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

○議會並議員保護 法律第二十八號

法律第二十八號

御名 御璽

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照

シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件 月二十六年二

法律第七號

府市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

法律第七號

第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セズ

第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選舉ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ増減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其増加スヘキ議員ハ新ニ選舉スヘシ

第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選舉ノ區域ハ之ヲ變更セズ其選舉事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事

第二類 第三章 府縣會

業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ
郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

○府縣會議員選舉罰則適用方二十三年五月二十九日 法律第四十一號

朕府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
法律第四十一號

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス但共ノ第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス(衆議院議員選舉規則補則ハ日 本六法全書ノ憲法部ニ出ツ)

府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セズ

○府縣會審理事務手續十四年十月二十八日 大政官達第九十一號 官省院使(廳)府縣
今般參事院ヲ被置候ニ付本年二月六號逕審理局ヲ被應事務手續左ノ通被定候條此旨相達候事但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ

第一條 本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及ヒ府縣會ヨリ裁定ヲ請フノ具狀書ハ府知事縣令ニ於テ之ヲ取廻シ法制局長官ニ當テ提出スヘシ(十八年十二月大政官達第七十八號ヲ以テ參事院議長ヲ法制局長官ト改ム)

第二條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ送サハルコトアルトキハ府知事縣令若クハ其代理人及ヒ府縣會總代自ラ法制局ニ出頭シテ之ヲ辯明シ又ハ法制局ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルコトアルヘシ(同上送ヲ以テ參事院ヲ法制局ト改ム)

但府縣會總代ハ其職員タル者ニ限ル
第三條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發付スヘシ

○府縣會規則第七條ニ依リ內務卿ニ建議スル場合ニ於テ議員上京方十五年十二月二日 大政官達第十一號 逕府縣(沖繩縣ヲ除ク)
府縣會規則第七條ニ依リ內務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相達候事

但本文ノ趣府縣會ヘ相達シ置クヘシ

○府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改選ノ上就職交替手續十四年七月四日 內務省布達甲第四號
府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改選之上其就職交替ノ手續ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ府知事縣令認可ノ上施行可致此旨布達候事

但當置委員ノ儀モ本文同様可取付事
第二類 第三章 府縣會

○府縣會規則心得條件

十三年十二月二日
內務省達し第四十八號府縣

- 本年第四十九號ヲ以テ府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相違候事
- 一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ選任スヘシ(同年乙第五十三號省達ヲ以テ第二)
- 一 十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ撰舉セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ
- 一 郡區經濟ヲ興ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區選出ノ人員ヲ定ムルヲ得
- 一 常置委員補欠ノ爲相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ
- 一 第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ勸ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得
- 一 第四十六條ノ通常委員ノ任期ハ二ケ年タルヘシト雖モ若シ議員本分ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス
- 一 常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行スヘキモノトス

●沿革要領(區町村會沿革)

○區町村會法

十七年五月七日
布告第十四號

明治十二年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スル事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期議員ノ員數任期改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當

ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會郡區長(戶長)ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期内ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ(區長戶長)ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條

府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

二百六十四

第十三條

府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條

府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條

聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○水利土功及學事ニ關スル町村聯合會ハ區町村會法ニ依リ市町村制施行後モ存續スルヲ得

法律第二十九號

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十一號

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年五月第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

○市町村會議員選舉罰則

法律第三十九號

朕市町村會議員選舉罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二十九號

市町村會議員選舉罰則

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ

授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ

選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

第二類 第三章 區町村會

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五回以上五十回以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス

ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十回以上百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十回以上二百回以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四回以上四十回以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組メテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三回以上三十回以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三回以上三十回以下ノ罰金

第二類 第三章 區町村會

二處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス
第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

○議會並議員保護(府縣會ノ部ニ掲ク)

●沿革要領

明治十一年七月第十八號布告ヲ以テ始メテ府縣會規則ヲ頒布ス○同月二十二日達ヲ以テ地方ノ便宜ニ從ヒ町村會暨又ハ區會暨ヲ開設スルコトヲ得セシム○十三年四月第十五號布告ヲ以テ府縣會規則ヲ改正ス○同月第十八號布告ヲ以テ區町村會法ヲ定ム○同年十一月第四十九號布告ヲ以テ前令中第三十六條ヨリ第四十九條マテヲ追加ス○十四年二月第四號布告ヲ以テ府縣會規則第五條第九條第三十三條第三十四條第三十七條中ヲ加除ス○同月第六號布告ヲ以

テ府縣會ハ其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會若クハ水利土功會ニ議セシム○同月第七號布告ヲ以テ區町村會法第八條ヲ改正ス○同月第八號布告ヲ以テ區郡部會規則ヲ定ム○同月第二十號布告ヲ以テ前令中へ但書ヲ追加ス○同年七月第三十八號布告ヲ以テ小學校設置區域町村ノ境界ニ仍リ難ク別ニ區域ヲ畫シテ其區域内ニ於テ會議ヲ要スルトキ區町村會法ニ依據ノ件ヲ示ス○同年十月第九十一號達ヲ以テ府縣會審理事務手續ヲ定ム○十五年二月第十號布告ヲ以テ十三年第十九號布告中ヲ改正ス○同月第十一號布告ヲ以テ區町村會法第十條但書ヲ改正ス○同月第十二號布告ヲ以テ區郡部會規則中第六條第七條ヲ別除シ第九條ヲ追加ス○同月第十一號達ヲ以テ府縣會開設中議員建議書ヲ考ヘ上京スルヲ禁ズ○同年十二月第六十八號布告ヲ以テ十三年第十五號及第四十九號布告中改正追加ス○同月第七十號布告ヲ以テ府縣會議員會議ノ事項ニ付他ノ府縣會議員ト集會往復通信スルヲ禁ズ○十七年五月第十四號布告ヲ以テ十三年第十八號布告區町村會法ヲ改正ス○同月第十五號布告ヲ以テ區町村會法水利土功會分方ヲ定ム○同年七月第二十一號布告ヲ以テ十四年第三十八號布告但書ヲ改正ス○同月第二十三號布告ヲ以テ區町村會法於於郵政シタル區町村會ニ對シ不服アル者出席方ヲ定ム○同年十二月第二十八號布告ヲ以テ府縣會規則第三十一條中ヲ改正ス○十八年八月第二十二號布告ヲ以テ北海道三縣ニ於テ協議費總納者處分方並ニ不服者出席方ヲ定ム○同月第二十三號布告ヲ以テ十四年第三十八號布告中ヲ改正ス○同年八月第二十五號布告ヲ以テ土地ニ賦課スル區町村會ヲ定ム○同年十二月第七十八號達ヲ以テ十四年第九十一號達中ヲ改正ス○二十年九月勅令第四十六號ヲ以テ高等中學校設置區域内府縣委員會規則ヲ定ム○二十一年四月法律第一號ヲ以テ市制町村制ヲ制定シ該法律施行ノ日ヨリ區町村會法ヲ廢ス○二十二年二月法律第六號ヲ以テ府縣會議員選舉規則ヲ定ム○同月法律第七號ヲ以テ市制施行ニ付府縣會議員選舉資格ヲ定ム○同年三月法律第十一號ヲ以テ水利土功會及選舉ニ關スル町村會ハ市町村制施行後ト雖モ之ヲ存置スルコトヲ得セシム

第四章 東京市區改正

○東京市區改正條例

二十一年八月十六日
勅令第六十二號

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十二號

東京市區改正條例

第一條 東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ内務大臣ニ具申ス
ハシ内務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一 地租割 地租同額以内但耕地ヲ除ク

一 營業稅並雜種稅 地方稅十分ノ四以内

一 家屋稅 同上

一 清酒 區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五十錢以内

第二類 第四章 東京市區改正

第四條 特別税滞納者ハ租税滞納處分法ニ依テ處分ス

第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部ノ基本財産トシテ即今官用ニ供セサル東京府區部内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サズ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條 市區改正ノ經費及特別税賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

○東京市區改正委員會ノ組織權限 二十一年八月十七日

東京市區改正委員會ノ組織權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 東京市區改正委員會組織權限
- 第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 委員
- 内務省高等官 三人
 - 大藏省高等官 二人
 - 陸軍省高等官 二人
 - 農商務省高等官 二人

- 逓信省高等官 二人
 - 警視廳高等官 二人
 - 東京府高等官 二人
 - 東京府區部會議員 十人
- 幹事
- 書記

第二條 委員長ハ内閣ニ於テ之ヲ特選シ委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス但東京府區部會議員ハ區部會ニ於テ之ヲ選定ス

第三條 幹事ハ委員長ニ於テ委員中ヨリ之ヲ選定シ委員長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第四條 書記ハ委員長之ヲ命ス上官ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス (二十二年五月二十八日閣令第十七號ヲ以テ改正)

第五條 委員長ハ議事ヲ整理ス

委員長事務アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條 委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第七條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依ル

第八條 委員會ハ東京市區改正審査會ニ於テ議定シタル方案ニ據リ特ニ其改正ヲ要スルモノハミテ議定シテ市區改正ノ設計トナシ及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定ス

第九條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十條 委員會ハ市區改正ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ東京府知事ニ照會シテ其改正ヲ要求シ時宜ニ依リ内務大臣ニ具狀スルコトヲ得

○東京市區改正事業設計ノ内明治二十二年四月ヨリ施行スヘキ箇所 二十二年三月二十日 東京府告示第十七號

東京市區改正事業設計ノ内明治二十二年四月ヨリ施行スヘキ箇所左ノ通り定メラル

同須賀町ニ至ル	道路取償	幅員十五間
日本橋區住吉町	道路取償	幅員十五間
日本橋區小舟町三丁目ヨリ	道路取償	幅員十間
同 芳町及元大坂町ニ至ル	新道開設	幅員六間
麹町區永田町二丁目ヨリ	橋梁架設	幅員六間
赤坂區田町七丁目ニ至ル		
同 日本橋區西河原町ヨリ		
同 北新町ニ至ル		

橋梁架設

○東京市區改正設計ノ内道路河川橋梁鐵道公園魚鳥市場青物市場獸畜市場屠場火葬場墓地ノ部ヲ定ム 東京府告示第三十七號

東京市區改正設計ノ内道路河川橋梁鐵道公園魚鳥市場青物市場屠場火葬場墓地ノ部左ノ通りニテ定ム其圖面ハ右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

東京市區改正設計 道路河川橋梁鐵道公園魚鳥市場青物市場屠場火葬場墓地ノ部 (界之)

○東京市區改正土地建物處分規則 勅令第五號 二十二年一月二十八日

御名 御璽

勅令第五號

東京市區改正土地建物處分規則

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方税ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘシ

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ内務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ舊ニ公用土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築

第二類 第四款 東京市區改正

築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ
 其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受テヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得
 若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地貸借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築増築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

○本年勅令第五號第四條第一項ニ依リ建物ノ制限ヲ定ム 二十二年五月一日
 本年勅令第五號第四條第一項ニ依リ建物ノ制限ヲ定ムルコト左ノ如シ
 一 市區改正ノ設計ニ係ル道沿河川ノ敷地タルハキ土地ニ於テ建物ノ新築増築又ハ改築ヲ爲スモノハ木造其他移轉シ易キ構造ニ限ル

○東京府令第八十四號ニ依リ建物ノ認可ヲ受クヘキ書式 二十二年五月三十一日
 東京府令第八十四號ニ依リ建物ノ認可ヲ受クヘキモノハ左ノ書式ニ準シ常關ニ届出ツヘシ
 東京府告示第三十八號
 建物(新築)(改築)(増築)ニ付認可圖
 何郡區何町村何番地所在

一 (二階造)(平家造)何荘建物
 此坪何坪何合
 同番地所在
 一 平家造何荘物置
 此坪何坪何合

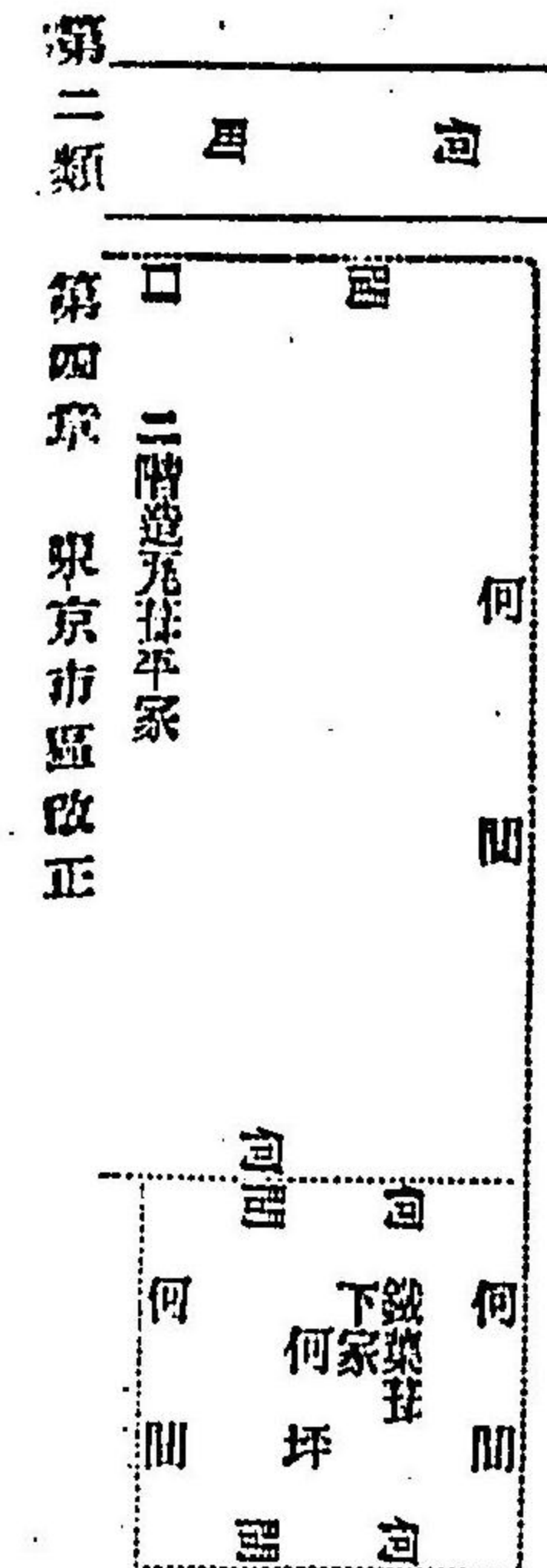
一 棟
 一 棟

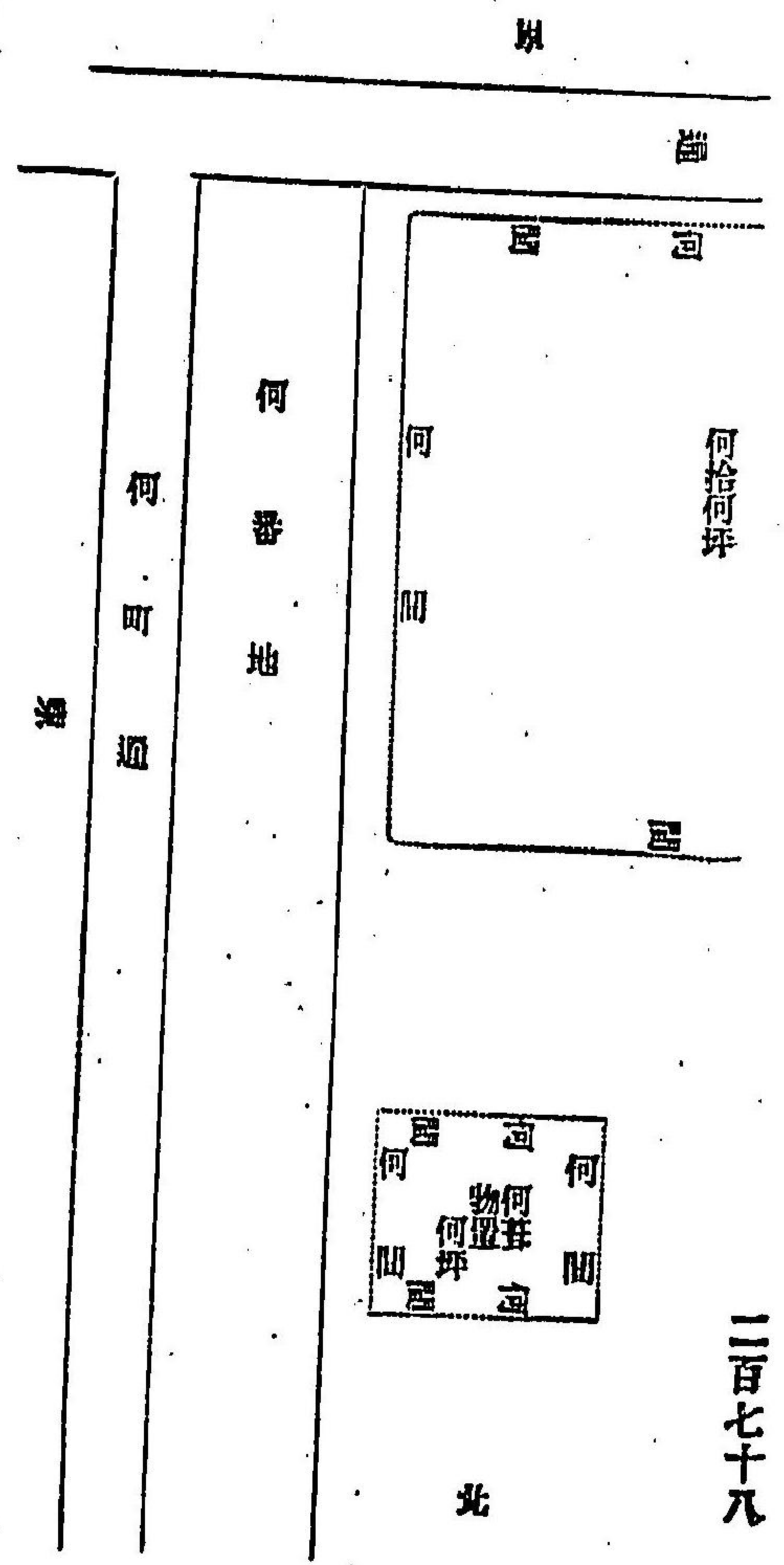
年月日

何郡區何町村何番地
 何 某實印
 建築主借地人ナルトキハ
 右地主
 何 某實印

東京府知事宛
 何郡區何町村何番地所在(新築)(改築)(増築)建物圖面

何番地





右之區相違無之候也

何郡區何町村何番地

○本年五月東京府告示第二十八號ニ依リ認可ヲ得タル建物届出方
 本年五月東京府告示第三十八號ニ依リ認可ヲ得タル建物ハ明治十六年九月甲第五十六號布達上制限區內ニ係ルモ其手ノ
 トキ別ニ届出ニ及ハヌ其際成ノ上從前ノ通届出検査ヲ受ケヘシ

何 某 實印

第三類

第一章 地所名稱 土地收用 地所賣買 森林原野 官有財産管理法

○地所名稱區別 七年十一月十七日
 布告第百二十號

明治六年三月第三拾四號布告地所名稱區別左ノ通告定候條此旨布告候事
 官有地

第一種 [地券]ヲ發セヌ地租ヲ課セヌ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
(十二年九月第三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ(地方稅)ト改メ)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
 一 神地 伊勢神宮山陵官廳等府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 [地券]ヲ發シ地租ヲ課セヌ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券
 ヲ發セヌ唯帳簿ニ記入ス(八年七月第十四號布告ヲ以テ改正十二年九月第三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ賦スルヲ(地方稅)ヲ賦セサルト改ム)
 但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸
 一 官用地 官廳省使署府縣本廳裁判所警視廳陸海軍及其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種 [地券]ヲ發セヌ地租ヲ課セヌ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
 第三類 第一章 地所名稱

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ(十二年九月布告ヲ以テ(借地料)ノ下(及ヒ)以下十字ヲ(ヲ納メ)シムヘシ)ト改メ水文(區入費)ヲ(地方税)ト改ム)

- 一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサル者
- 一 鐵道線路敷地
- 一 電信架線柱敷地
- 一 燈明臺敷地
- 一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ
- 一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地
- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
- 一 行刑場

第四種

〔地券〕ヲ發セズ地租ヲ課セス地方税ヲ賦セサルヲ法トス(同上(區入費)ヲ賦スル)ヲ

一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

第一種

〔地券〕ヲ發シ地租ヲ課シ地方税ヲ賦スルヲ法トス(同上(區入費)ヲ)

一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云
但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種

〔地券〕ヲ發シテ地租地方税ヲ賦セサルヲ法トス(八年七月第十四號布告ヲ以テ第三種ヲ改正シ九年六月第八十八號布告ヲ以テ第二種トナス十二年九月第三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ(地方税)ト改ム)

- 一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云
- 一 民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年十月第百五十四號布告ヲ以テ本項追加)
- 一 公衆ノ用ニ供スル道路(十三年十月第四十三號布告ヲ以テ本項追加)

○耕地ノ用水溜池等耕作ノ分借地料及地方税ヲ課セス

明治七年十一月第二十號布告ヲ以テ地名區別改定民有地ニアラサル池澤溝渠等ハ官有地第三種ニ編入候ニ付テハ耕地ノ養水溜池及ヒ井溝等ノ儀ハ從前ノ通水掛リ地民ニ所用セシメ耕作一途ニ相用候分ニ限リ別ニ借地料地方税等賦課ニ不
及候尤右地内ニ生スル水草魚鱉等取入利益トナスモノ其場所故障無之楚辭候節ハ相當借地料等收入候儀ト相心得内務省
ハ可申出此旨相違候事

○市街郡村ニ屬スル揭示場敷地官有地へ編入方

八年五月九日 太政官達第七十三號府廳
市街郡村ニ屬スル揭示場敷地ノ儀從來官有地ニ有之分ハ勿論將來官有地ニ新設候分ハ官有地第三種ニ編入ヘク尤新設
第三類 第一章 地所名稱

條等一切ノ費用ハ其村市ニ於テ可相辨此旨相達候事
但民有地ニ建設候節ハ夫々取調内務省へ可申出申

○御歴代天皇及皇后皇妃皇子御殯斂地等官有地へ編入方 八年五月廿二日 内務省達シ第六十六號府縣
御歴代天皇及皇后皇妃皇子皇女御殯斂地等御由緒列然タル場所ハ官有地第三種編錄名區ノ部ニ編入保存可致候條御由
緒詳密圖畫ヲ遺ケ地形坪數等明詳即圖面相調可伺出此旨相達候事

○鄉村社以下神社地民有地ニ編入方 八年八月二日 内務省達シ第百壹號府縣
神社境内地名稱區別ノ備ハ明治七年第百貳拾號及本年第百十四號布告ノ通官民有ノ區別被相定候處民有地ノ分ハ從前
地稅相納來候處地租改正後ハ鄉村社以上ノ社地ニ限リ除稅相成候條右布告ノ通民有地第三種ニ編入可致尤鄉村社以上ニ
アラサル民有ノ社地ハ民有地第一種ノ分一人持又ハ第二種二人以上ニ編入シ成規ノ通取對候條下可相心得此旨相達候事

○官營ニ關スル倉庫家屋等地種編入方 十年二月十五日 内務省達シ第拾六號府縣
明治七年七月廿八號并同年七月十八號ヲ以テ相達候官營ニ關スル倉庫及ヒ家屋等將來使用ノ用途ヲ以テ存置スルモノ
又ハ掛下ケ殘ノ分ト雖モ進テ使用候條成ハ掛下ケ候迄ハ其敷地ハ總テ官有地第三種ニ攝置候條下相心得可申此旨相達候事
但使用候節ハ其時々經伺之上官有地第三種官用地へ編入可申

●沿革要領

明治六年三月第百十四號布告ヲ以テ地稅發行ニ付從前之地所名稱區別ヲ更正ス○七年十一月第百二十號布告ヲ以テ
地所名稱區別ヲ改定ス○同月第百四十三號達ヲ以テ地所名稱改定ニ付官民有地取調方手續ヲ定ム○同年十二月第百
七十三號達ヲ以テ地所名稱改定ニ付院者使ノ官用地處分方ヲ改定ス○同月第百七十七號達ヲ以テ從前ノ官廳地ヲ官
用地下改ム○八年五月第百七十三號達ヲ以テ市街鄉村ノ揭示場敷地ヲ官有地第三種ニ編入シ○八年五月十二日加應

代天皇及皇后皇妃皇子皇女ノ御殯斂地等ハ官有地第三種編錄名區ノ部ニ編入シ保存方ヲ内務省ニ達ス○同月第八十
五號達ヲ以テ七年第百七十三號達第四條ニ但書ヲ追加ス○同年七月第百十四號ヲ以テ地所名稱區別中官有地第二種
民有地第三種ノ條ヲ改正ス○同年十月第百五十四號布告ヲ以テ地所名稱區別中民有地第三種ニ追加ス○九年六月第
八十八號布告ヲ以テ七年第二十號八年第十四號布告前件中民有地第三種第一種ニ併セ第三種ヲ第二種ニ改ム○十
二年九月第三十四號布告ヲ以テ七年第百二十號布告中ヲ改正ス○十三年十月第四十三號布告ヲ以テ地所名稱區別中
民有地第二種中ニ追加ス

○土地收用法 二十二年七月三十日 法律第十九號

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十九號

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補
償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルト
キ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定

第三類 第一章 土地收用

シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

一 國防其他兵事ニ要スル土地

二 政府府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地

五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計書並圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ

國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條 工事ノ認定前起業者計書準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ仕様及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕様書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及圖面ヲ添フルヲ要セス

第三類 第一章 土地收用

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目
- 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ
- 三 土地臺帳登記簿ニ依テ知リ得ヘキ所有者及關係人ノ氏名
- 四 收用又ハ使用ノ時期
- 五 損失補償金額並其内譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過ケタル後土地收用審査委員會ヲ開クヘシ

土地收用審査委員會ハ任職其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ

補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ着手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス

補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得
第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ遊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ
土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁柵柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部並建物ニ屬スル土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ増加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限り各別ニ之ヲ補償スヘシ

借入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ於テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ノ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様並補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人之カ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及

第三類 第一章 土地收用
二百八十九

關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得
若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條

天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ
郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行
後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條

國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所
有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章

土地收用審査委員

第二十九條

土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方
長官故障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條

起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地收用審
査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條

土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土
地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條

土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條

土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條

收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル
鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ
其自辨トス

第三十五條

起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不
用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルト
キハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條

前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サ
ハルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條

起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シ
タルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條

國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特
ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條

北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖

第三類

第一章

土地收用

總縣知事之ヲ行フ

二百九十二

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百二十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○土地收用協議會規則 二十三年七月二十五日
法律第五十四號
朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第五十四號

土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業者ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者官ノ起業者ニ係ルトキハ其主任官吏及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞クモノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サハル者アルトキハ工事ノ仕様及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統率シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀開セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ原本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

○收用スヘキ土地ノ細目公告方 二十二年十二月九日
內務省訓令第四十二號
内閣ニ於テ土地收用法ニヨリ起業者スル工事ヲ認定シ官報ヲ以テ起業地ヲ公告スルニカキ收用スヘキ土地ノ細目ヲ示サ、ルモノハ各其管内ニ係ル市町村名及字番並地目ヲ公告スヘシ

第三類 第一章 土地收用

二百九十三

○地所永代賣買ヲ許ス

五年二月十五日
布告第五十號

地所永代賣買ノ儀從來禁制ノ處自今四民共賣買致所持候儀被差許候事

○土地分合筆取扱手續 二十年四月十一日
大藏省訓令第二十五號

土地分合筆取扱手續左ノ通り心得ヘシ

土地分合筆取扱手續

改正見合

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其區別地價及野圖ヲ添ヘ戶長役場ヲ經由シ郡區役所
ハ出願セントヘシ

削除見合

第二條 戶長ハ第一條ノ願書ヲ受領シタルトキハ其賣買ノ手續ヲナスヘシ若シ段別地價ノ分配ニ於テ不適當ト視認スルコトアル
トキハ實地臨檢ノ上其旨ヲ指示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作り郡區役所ヲ經由シ地方廳ヘ具申セントヘシ

第三條 地方廳ハ第二條ノ具申書ヲ受領シタルトキハ規定ノ手續ニヨリ更ニ實地審査シ適當ノ地價ヲ定メ之ヲ所有者ニ
示達スヘシ

○一筆ノ土地ニシテ之ヲ分合シ賣買讓與スル登記方 二十二年十一月十二日
司法省訓令第十三號始審裁判所治安裁
判所登記所

一筆ノ土地ニシテ之ヲ分合シ賣買讓與スルモノハ明治二十年大藏省訓令第二十五號ニ依リ行政廳ノ分合處分ヲ經タル上
登記ヲ爲スヘキモノトス

但本訓令ニ抵觸スル指令内訓ハ之ヲ取消ス

○地所外國人ヘ賣渡ヲ禁ス 五年四月十四日
布告第二十四號

御國內一般地所ノ儀銘々所持ノ分ナリ其外國人ヘ對シ賣渡候儀ハ勿論金銀取引ノ爲メ地

所又ハ地券等普入致シ候儀ハ決テ不相成候條未未ノ者ニ至ル迄心得違無之様各管内無違
漏可觸示事

○官有地特別處分規則 二十三年七月二十一日
勅令第三百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三百三十五號

官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競等ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣
渡スコトヲ得

- 一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ
其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ
- 二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タヌ其評定價格二百圓以内ノモノ
ヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡スト
キ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス
- 三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ
與ヘタル主ナル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者
ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

第三類 第一章 地所賣買

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

○官有地取扱規則 二十三年十一月二十四日 勅令第二百七十六號
朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
勅令第二百七十六號

官有地取扱規則

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換

又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ
既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル
第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官ニ屬スル公有水面埋立ノ出願免許方二十三年十月二十日

第一條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ出願スル者アルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ然後技術者ヲシテ調査セシメ第二條以下ニ規定シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ

第二條 公有水面埋立ノ命令書ニハ左ノ條項ヲ記載ス可シ

- 一 出願人ノ住所姓名
- 一 埋立ノ位置範圍
- 一 埋立ノ目的
- 一 埋立ノ方法
- 一 着手ノ期限
- 一 成功ノ期限
- 一 既ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其成功ノ認可ヲ與フルマテノ間ハ公署ヲ生シ却クハ之ヲ發見スルトキハ地方長官ハ何時ニテモ無償ニテ命令書ノ條項ヲ改メ得ルコト
- 一 着手ノ期限ニ至テ着手セス成功ノ期限ニ至テ成功セス其他命令ノ條項ニ從ハサルモノハ免許ノ効ヲ失ヒ且障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトアラハ出願人ノ費用ヲ以テ之ヲ除カシメ又ハ豫防セシムルコト
- 一 免許權ハ官許ヲ受クルニ非サレハ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得サルコト
- 一 天災事變ノ爲メニ期限内ニ着手若クハ成功シ難キ事情アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルニ於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト

第三條 通船ノ便利用惡水ノ疏通ヲ保護スル等埋立ノ地位ト季節トニヨリテ公益上制限ヲ加フルノ必要アルモノハ精細ニ其任務ヲ命令書中ニ記載ス可シ

第四條 埋立成功ノ後其地所ノ道路溝渠物揚場等公共ノ用ニ供ス可キ分ハ無償ニテ官有トナス可シ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第五條 大土工ニハ埋立方法悉ク外精密ナル設計書ト圖面ヲ造ラシメ之ヲ命令書ニ附屬ス可シ本條ノ場合ニ於テハ埋立第三類 第一章 地所賣買

ノ區域ヲ敷置ニ付テ其手及成功ノ期限ヲ異ニシテ工事ノ成功ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ限リハ其成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第六條 公有水面ヲ變シテ出願人ノ所有トナシタル後公費アルコトヲ發見スルトキハ時價ヲ以テ買收スルガ又ハ收用スルニ非サルハ回復スルコトヲ得

第七條 漁獲ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面ヲ其儘使用セシコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ

第八條 官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官有地賣貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シム可シ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ル可シ

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條 何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム可シ

第十一條 凡ソ一區所ノ埋立ノ人二以上同時ニ埋立又ハ使用セシコトヲ出願スル者アルトキハ共ニ内務大臣ニ稟請シテ其相令ヲ乞フ可シ

第十二條 公有水面ノ埋立ハ公益上必要アルモノ並特別ノ理由アルモノノ外五箇年内ニ成功シ難キ廣キ場所ヲ一手ニ免許スルコトヲ得

第十三條 公有水面ノ埋立使用ハ從來時ニ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添へ本大臣ニ稟請シテ後處分スヘシ其本大臣ノ相令ヲ得テ下付シタル命令書設計書圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サルハ變更スルコトヲ得

○官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣貸渡方 二十三年十月二十日 内務省訓令第三十七號 北海道廳府廳

改正見合

本年勅令第三百二十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣貸渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其應ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス
前項賣渡貸渡ニシテ從來經何ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作リ出願人ノ申立金額アルハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添へ本大臣ニ具申ス可シ

○官用地貸渡方 十六年三月二十二日 内務省達 第十二號 府廳

官用地ハ貸渡サ、ル制規ノ處木材運漕ニ際シ不測ノ天災ヲ被ラントスル掛念有之場合ニ當リ不得已人民ヨリ官材貯場ノ間地ヲ借用セント出願スルトキハ其現場ノ都合ニヨリ一時應變ノ雜計ヲ以テ相當ノ期限及ヒ料金ヲ定メ所用應ヨリ貸渡シ可相成債モ有之候條此旨可相心得但其料金ハ成規之通大藏省へ上納スヘシ
右相違候申

○官有地拂下並貸下取扱方ヲ定ム 十八年六月廿五日 農商務卿連署 内務省達 甲第廿一號 府廳

官有地拂下并ニ貸下之儀左ノ通相定メ明治九年三月内務省第七第三十四號達ハ廢止ス此旨相違候申

一 凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未充納中ハ抵當トシテ其地券ヲ官廳へ差出サシムヘシ若シ之ヲ拂下サルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス

一 凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之カ爲メ金利賠償等ヲ下付スルコトナカルヘシ

一 凡ソ官用地ノ借地料ノ期限ノ通上納セサルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付スルコトナカルヘシ

一 凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人へ轉入又ハ質入ヲ爲ス

一ヨ得サレ者下ス但借貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲スヨ得ヘシ

○官有ノ川敷溝敷河川沿地等拂下貸下ヲ禁ス 十八年十二月三日 内務省達甲第三十六號府縣
官有ノ川敷溝敷河川沿地等ハ官有地トシテ又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サス從前既ニ貸下ケタルモノハ常期ヲ限リ返地セシム
可シ但借地等ハ公道上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下タルコトヲ得ルト雖正治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培
セシム可カラサル儘下心得可シ此旨相繼候也

○北海道土地拂下規則ヲ定ム 十九年六月二十九日 閣令第十六號

北海道土地拂下規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
北海道土地拂下規則

- 第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ
- 第二條 土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ
- 第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數并事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ
- 北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徵收セス
- 第四條 貸下期限ハ十年以内トシ土地ノ状況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年期ノ滿限ニ際シ更ニ貸下延期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

ルヘシ

- 第五條 耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場及牧場ハ隨時其事業ノ現況ヲ點檢スヘシ
- 第六條 耕宅地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ海産乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成ラサルトキハ悉皆之ヲ返納セシムヘシ
- 天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ
- 第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレハ相當ノ樹木代價ヲ納メシムヘシ
- 第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限内ト雖モ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨償スルモノトス
- 第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故アリテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受ケタル土地ノ貸下期限ハ更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ
- 第十條 素地代價ハ千坪ニ付キ金壹圓トシ成功ノ後拂下クヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス (二十二年六月廿八日閣令第二十號ヲ以テ本條改正)

第三編 第一章 地所賣買

第十一條 本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十二條 (二十三年十二月四日閣令第八號ヲ以テ別除ス)

第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

○北海道官有未開ノ土地拂下貸下方 (二十三年三月二十七日勅令第五十五號)

○北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十五號 北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關シテハ從前ノ規則ニ依ラシメ會計法第二十四條ニ規定スル競争ノ方法ヲ用ヒス

○社寺上地官林委託規則 (二十四年四月八日(社寺ノ部)農商務省令第五號(二掲ク))

●沿革要領

明治五年二月第五十號布告ヲ以テ地所承代賣買ノ條ヲ解ク○同年大藏省第二十五號布達ヲ以テ地所賣買廢渡ニ付地券規則ヲ定メ賣買廢渡ノ節ハ必ラス地券ヲ轉換ヘシム○同年四月第百二十四號布告ヲ以テ外國人(地所及地券ヲ賣渡買入書入ト爲マザル)○同年十月第三百四號布告ヲ以テ北海道土地賣貸規則ヲ定ム○六年一月第十八號布告ヲ以テ地所買入書入規則ヲ定ム○七年十月第百四號布告ヲ以テ地所賣買スルモ地券ヲ申受サルモノハ其地所有ノ權利ナキモノトシ地券稅一倍ノ罰金ニ處ス○八年六月第百六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○同年十月第百五十五號布告ヲ以テ

家督相續贈遺ニ由リ地所買入ノ節地券轉換手續ヲ定ム○十三年十一月第五十二號布告ヲ以テ土地賣買廢渡規則ヲ定メ前令ヲ廢止ス○十五年一月第二號布達ヲ以テ土地分割賣買廢渡手續ヲ定ム○同年六月閣令第十六號ヲ以テ北海道土地拂下規則ヲ定メ五年第三百四號布告ヲ廢ス○十九年八月法律第一號ヲ以テ登記法ヲ頒布シ地所建物船舶賣買廢渡買入書入等ノ登記方ヲ定メ十三年第五十二號布告等ヲ廢ス

○官有森林原野及產物特別處分規則 (二十三年四月三日勅令第六十九號)

朕官有森林原野及產物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十九號

追加追録

官有森林原野及產物特別處分規則

第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野及其產物ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ得

改正追録

一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡ストキ

二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ

三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ

四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ

第三編 第一章 森林原野

追加見合
改正題録

- 六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
- 七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
- 八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺上地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ
- 九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ストキ
- 十 建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ
- 十一 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
- 十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル産物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ
- 十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ産物ヲ賣渡ストキ
- 十四 部分方法ニ由リ林産物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ
- 十五 見積借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ貸渡ストキ
- 十六 拾町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ介在セルモノヲ接續地ノ所有者ヘ賣拂フトキ
- 十七 見積代價金貳百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ
- 第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ違セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者

アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得

○官有森林原野及産物特別處分規則ニ據リ隨意契約ニテ原野ヲ賣渡ストキ準據條項 年七十三

農商務省訓令第三十四號府縣(神奈川靜岡愛知山梨沖繩)ヲ除ク)

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規則第一條第二項ニ據リ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ストキハ左ノ條項ニ準據ス可シ

- 第一條 原野賣渡願書ハ地方長官宛ニテ地元町村長ヲ經由シ所轄官廳ニ提出サシム可シ其願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字名地目段別所在地相當代價ヲ記載シ且事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添付セシムルヲ要ス
- 第二條 前條ニ據リ願書ヲ提出シタル者アルトキハ地方長官ハ其願書ニ意見ヲ附シ事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添ヘ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ其出願ニ係ル原野ノ段別五町歩以下ナルトキハ之ヲ専決スルコトヲ得
- 第三條 原野賣渡願書ハ總テ書留郵便ヲ以テ之ヲ提出サシメ若シ二人以上同地ニ付テ出願シタルトキハ地方長官ハ四書發送時日ノ前後ヲ取調ヘ意見ヲ附シ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ
- 第四條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其所有權ヲ排受人ニ移轉セシメサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後排受人又ハ其保證人ヨリテ所轄官廳ニ納付セシム可シ
- 但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ排受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ納付セシメタル上之ヲ排受人ニ移轉セシムルコトヲ得
- 第五條 賣渡ノ豫約ヲナスヘキ原野ノ段別ハ四百町歩已内トス
- 但土地ノ區域又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第六條 事業ノ成功期限ハ十五年已内ニ於テ之ヲ定メシメ若シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ中途排受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ地方長官ハ其排受人ヨリテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添ヘ願書ヲ提出サシメ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ

第三編 第一章 森林原野

第七條 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セサルモノトス
第八條 左ニ記載スル條項ハ排受人ヲシテ之ヲ遵守セシム可シ

- 一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ所轄官廳ノ許可ヲ得ステテ之ヲ他人ニ賣渡スヲ得サルコト
- 二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ就テハ排受人其責ニ任ス可キコト
- 三 排受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月已内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ着手ス可キコト
- 四 排受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
- 五 排受人ニ於テ事業ニ着手シ及ヒ事業ノ成功シタルトキハ十日已内ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
- 六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定ノタル物件ハ排受又ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ排受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用ス可カラサルコト
- 七 地方長官ニ於テ官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト
- 八 排受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日已内ニ標杭ヲ境界ニ建設ス可キコト
- 九 事業ハ必ズ豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲ス可キコト
- 第九條 排受人第八條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定進成功セラル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ所轄官廳ニ返還セシム可シ
- 前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セシム又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシム可シ

第十條 從前開墾牧畜ノ爲メ原野賣渡豫約ヲナシタルモノニシテ既定ノ契約ナキ事項ハ更ニ此規定ニ據リ取扱フ可シ
○官有山林原野稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ件 二十四年三月十九日 農商務省訓令第十號 北海道廳府廳
自今左記ノ條件稟請ヲ要セス處分後報告スヘシ

- 一 官有山林原野ノ枯木倒木危險木障害木處分ノ件
 - 二 官有山林原野中測量ニ支障ノ立竹木伐採ノ件
 - 三 官有山林原野ニ於テ季節アル產物發却ノ件
 - 四 官有山林原野ヲ官林ニ編入ノ件
 - 五 官有山林原野地租目租替ニ付地上立竹木賣却ノ件
 - 六 官有山林原野ヘ公益ノ爲メ竹木栽植ノ件
 - 七 非常ノ際治水ノ爲メ官有山林原野ノ立竹木處分ノ件
 - 八 官有山林原野ニ於テ鐵道上必要ナル地所賣渡ノ件
 - 九 官有山林原野一區域段別五町歩以下ニシテ一箇年借受料金五十圓以下ノ土地賣渡ノ件
但數區域ニシテ五町歩ヲ超過スルトキハ此限ニアラス
 - 十 從來ノ慣行ニ由リ官有山林原野國土保安ニ關シ於テ代金五十圓以下ノ土石賣却ノ件
 - 十一 官有山林原野ニ於テ墓地火葬場汚穢物埋却場及駝牛馬捨場新設又ハ取崩メノ爲メ段別一町歩以下賣却ノ件
係ナキ箇所
 - 十二 官有山林原野一段歩以內ニシテ賣渡代金十圓以下ノ箇所民有地又ハ河川道路等ニ介在セルモノノ接續地主ヘ賣却ノ件
- 以上十二項ハ北海道廳沖繩廳ヲ除ク
- 十三 試掘並ニ借區廢業期間屆ノ件
 - 十四 鐵山借區稅息納者續業禁止ノ件
 - 十五 試掘期限經過ノ者指令書並ニ借區期限經過ノ者坑區券引揚ノ件
但以上十三項乃至十五項ノ場合ニ於テハ報告ノ際該証券若クハ指令書ヲ添附スヘシ
 - 十六 試掘借區廢業期限經過若クハ禁止後續業取締ノ件
 - 十七 砂鐵ノ爐稼願許可ノ件
 - 十八 砂金砂錫砂鐵採取人及爐稼人相續加除名並賣渡願許可ノ件

○官有土地森林原野收入金徵收規程 二十四年三月二十日

官有土地森林原野收入金徵收規程左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス
但明治十九年ノ農商務省訓令第十三號 大林區署ハ農商務省訓令第二六五號 本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

官有土地森林原野收入金徵收規程

第一條 官有土地森林原野ヨリ生ズル諸收入金ハ此規程ニ依リ徵收ス
第二條 諸貸付料諸賣拂代ノ徵收期ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ニ屬スル料金及ヒ代金ハ甲午年四月ヨリ七年三月マテ第一期トシ
甲午年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸付及ヒ賣拂契約ヲ設定シタル者ハ初期分ニ限リ契約設定ノ日ヨリ三十日以内
ニ徵收ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物賣拂契約ニ屬スル代金ハ其年一月ヨリ十二月マテ第一期トシ其年一月中ニ徵收ス
但一月以後新ニ賣拂契約ヲ設定シタルモノハ初期分ニ限リ契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

第三項 月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス
第四項 隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス

第三條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及ヒ諸賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル
第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ノ四月ニ起リ若クハ三月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五
月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ハ初期終期ヲ間ハス總テ全年分ヲ算定ス
第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ハ初月終月ヲ間ハス總テ全年分ヲ算定ス

第四條 有期設定ニ屬スル諸貸付及ヒ諸賣拂契約ノ該期限中解除シタルトキ其料金及ヒ代金免除方ハ左ノ各項ニ據ル
第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ
都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ該期ニ物件ヲ採取セ
シヤ否ヤヲ調査シ採取前ナレハ其年ヨリ代金ヲ免除シ採取後ナレハ物件ノ年額數額ヨリ採取數量ヲ扣除シタル殘數
量ニ應ジテ免除シ對手人ノ契約違反又ハ季節物ノ賣拂ニシテ解除ノ當時既ニ季節經過シタルトキハ其翌年ヨリ免除
ス

第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約
違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス
第四項 日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ免除ス
第五條 此規程ニ依リ徵收シタル收入金ノ年度編入方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 徵收期月ノ一定シタルモノハ該徵收期月ノ屬スル年度ニ編入ス
第二項 徵收期月ノ一定セザルモノハ納入告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ニ編入ス但納入告知書ヲ發セザルモノハ
現金ヲ領收シタル日ノ屬スル年度ニ編入ス

追加見合

○官有山林原野事項報告書式

二十四年三月三十一日 農商務省訓令第十五號 北海道廳府縣

官有山林原野事項報告書式別冊ノ通相定候條本年四月分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ
但本様式中第十號ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別ニ調製シテ四月三十日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山林局ヨリ
送付ス

追加見合

○同上ノ件各大林區署ニ達シ

二十四年三月三十一日 農商務省訓令第十六號 各大林區署

官林事項報告書式別冊ノ通相定候條本年分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ
但本様式中第十表及第十五表ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別ニ調製シテ四月末日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山
林局ヨリ送付ス

○部分木仕付條例

十一年三月十四日 內務省布達第四四號

第三類 第一章 森林原野

植林之儀ハ最モ方今ノ急務ニ付令般部分木仕付條例別紙ノ通施行候條其趣旨ヲ體認從事候様可致此旨布達候事

(別紙)

部分木仕付條例

- 第一條 樹木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支無之時ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡シ地味ニ適當セル木種ヲ植挿セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ收メシムル之ヲ名ケテ部分木ト云
- 但官林伐木跡ト雖モ從前部分ノ慣行有之箇所ハ本文ニ準スルヲ得ヘシ
- 第二條 第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ先ツ該所ノ反別ヲ測量シ地味ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照ラシ地方廳ニ願出ヘシ
- 第三條 前條ノ場合ニ於テハ地方廳於テ官吏ヲ派遣シ巡視點檢事實相違ナキハ之ヲ聞届ケ別紙第二號書式ニ倣ヒ貸地券狀ヲ下ケ渡スヘシ
- 第四條 樹木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ厚薄ニヨリ二官八民(假令ハ百本ノ立木ナレハ二十本ヲ官收シ八十本ハ人民ニ付與スルヲ云フ)以上實際適宜ニ之ヲ區分スヘシ(同年甲第二十號同省布達ヲ以テ(ヨリ五官五)民送ノ間)九字ヲ別リ(以上實際)ノ四字ヲ加フ)
- 第五條 第四條掲ケル所ノ部分方法ハ成木ノ上立木ノ儘分配スルアリ又ハ伐木ノ節官民於テ各評價人ヲ出シ總計金額ヲ豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス

但不得已事故アツテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レル樹木ヲ買上クヘシ

第六條 地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ毎年人民ハ貸渡シタル地所反別(植付挿付)木種員數及ヒ拜借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ分翌年一月限り内務省地理局ニ届出ヘシ

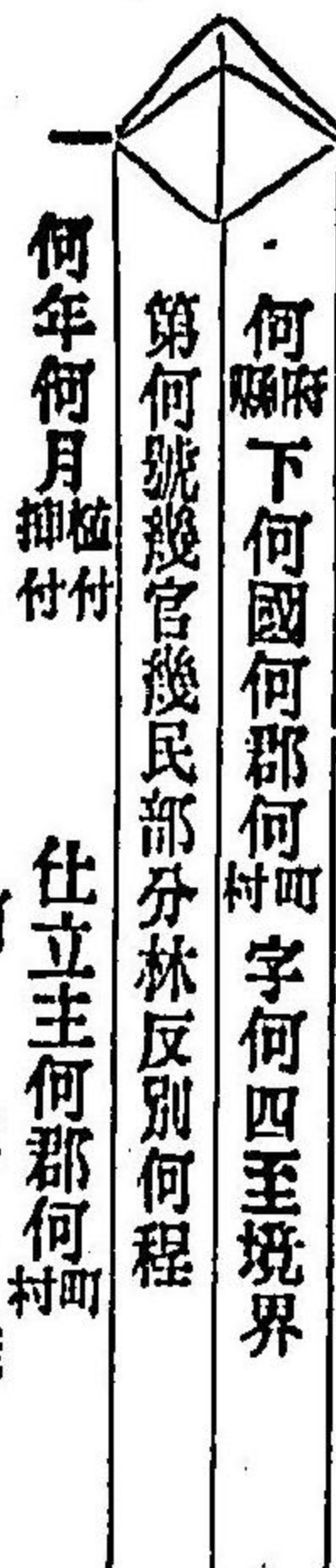
第七條 官ハ地所ノ貸渡料ヲ取立サルヘシ借人ハ植挿養護ヲ擔任スルモノトス

第八條 植挿ノ後樹木成育スルニ隨ヒ手入伐木セント欲スルハ前以テ地方廳ニ願出ツヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不都合ナキモノハ是ヲ許可シ芟除ノ樹木ハ悉ク仕立主ニ下付スヘシ而シテ臺帳ニ就キ其芟伐セシ木數ヲ削除シ其翌年一月限り還漏ナク内務省地理局ニ届出ツヘシ

但十五年以後ニ至リ拔伐スル木品ハ最初ノ約束ニ基キ各之ヲ配賦スヘシ

第九條 地所拜借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通仕立主ヲシテ標木ヲ建設セシム

裏



第十條 仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡サント欲スルハ其事實ヲ詳記シ地方官ニ願出ツヘシ地方廳ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルハ其證券ニ裏書シテ下渡シ進テ内務省地理局ヘ届出ツヘシ

但本文ノ樹木ヲ買入書入セント欲スルハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準據シ所戶長ノ檢認ヲ受クヘシ

第十一條 借地反別ハ豫メ其制限ヲ定メスト雖モ其植栽見込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スルモノトス

但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植挿ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ進次其植栽ヲ許スヘシ然レモ三ヶ年ヲ過キ猶其植挿未了ノ地ハ直ニ返附セシムヘシ

第十二條 一時植立并進次植栽ニ拘ラヌ實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ届出之レカ檢査ヲ受クヘシ

願書雛形

(印朱書)

第一號

表

部分木 植付願

何縣管下何國何郡何村
何之誰

紙

御管内何國何郡何村^町字何官山野反別何程へ何木何程幾官幾民ノ部分方
法ヲ以テ御規則ノ通私費^{植付}被差許度此段奉願候也

何縣管下何國何郡何村

紳士族
平民

何之誰印

第一號

年月日

與書

前書之通相違無之ニ付被差許度候也

年月日

區戶長印

地方長官宛

證券雛形

番號

第三類 第一章 森林原野

部分木證券

此割印ハ
縣廳所用
ノ印ヲ蓋
スニ割印
ス

割 印

何縣 下何國何郡何村 何縣 下何國何郡何村
反別何程 何 之 繼

何樹種付何程

樹種數品有之モノ本
行ニ做ヒ列記スヘレ

右明治何年何月ヨリ地所貸渡候條 樹種付ヨリ培養保護ニ至ルマテ全ク私
費ヲ以テ可相辨尤成育ノ上ハ幾官幾民ノ割合ヲ以テ部分スヘキモノ也
年月日 地方長官姓名印

○部分木仕付出願ノ者心得方 十一年六月三日
本年三月廿四日第百四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達置候處右ニ照準出願ノ者ハ別紙ノ條件相心得不都合ノ儲無之様可致
此旨布達候事

(別紙)

- 一部分木仕付條例ニ準シ官地拜借許可條ノ後條例第十條ノ手續ヲナサズ竊ニ其地ヲ他人ニ貸シ又ハ買入借入ヲ爲スモノ
- 一同斷許可滿ノ日ヨリ滿一年ヲ過キテ植樹着手セザルモノ
- 但條例第十一條但書ノ場合ハ本文ト抵觸スルコトナレ
- 一同斷一ヶ年以内ト雖モ主願ノ樹木ヲ植樹セシムルニ使用セザルモノ

○民有森林伐採礦物土石採掘ヲ停止ス 十七年二月十五日
明治五年二月第三號布達左ノ通改正ス 大政官布達第三號

一 植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置シノ地ニ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキコトヲ明ナル
其ト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三年ニ至リ猶甲地ニ移植セザルモノ
右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地并地上ニ附著セルモノヲ取上ケ最初貸渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徵
收シ且其者等(第一條ノ所爲ニ係リ其地ヲ借リ又ハ買入買入ニ取リタル者モ亦同シ)ハ再此條例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サズ

○民有森林伐採礦物土石採掘處分方 十七年三月一日
明治十七年二月第三號ヲ以テ明治十五年二月第三號布達改正之條布達相成候ニ付テハ明治十五年二月廿三號第三號布達左ノ通改正
正候條此旨相達候事

民有森林ノ内水源滲透土砂并止風潮除却等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ礦物土石ヲ採掘セ
ント欲スルモノアルトキハ其程度實地ノ景狀ヲ檢査シ處分方可出

○山林坑業等ニ關スル諸件報告方 十九年六月二十六日
自今左記ノ條件變請ヲ要セシ處分後報告スヘシ 農商務省訓令第八號府廳

- 一 官林貸渡權年期ノ事
- 二 山林ニ關スル事項ハ沖繩縣ヲ除ク

第三類 第一章 森林原野

- 二官林ノ手入又ハ野火預防ノ爲メ一時雜草剝離ヲ拂下ル事
- 三官林ハ樹木栽植ノ事
- 四官有竹林改良ノ爲メ人民ハ保管セシムル事(二十一年九月十日訓令第二十八號ヲ以テ爲メ)ノ下(五段歩以内ヲ)ヲ刷ル
- 五官林ノ慣行アルモニ於テ下草落葉及落葉拂下ノ事
- 六官林ハ公益ノ爲メ樹木栽植ノ事
- 七官林除害鐵線札遊方ノ事
- 八林業附帯ノ爲メ又ハ一時若クハ季節ヲ限リ官林貸渡ノ事(以上二項二十一年九月十日訓令第二十八號ヲ以テ追加ス)以上八項大林區署設置アル府縣ハ此限ニアラス(同上訓令ヲ以テ六項トアルヲ八項ト改ム)
- 九官有ノ山林原野ハ公益ノ爲メ樹木栽植ノ事(同上七項ヲ九項ニ改メ以下順次繰下ケル)
- 十官有ノ山林原野ヲ官林ハ編入ノ事
- 十一官有ノ山林原野ニ於テ當地相當代價既定ノ開墾地拂下ノ事
- 十二官有ノ山林原野 國土保安ニ關係ニ於テ土石掘取及拂下ノ事
- 十三官有ノ山林原野ヲ開墾成功ノ上當地相當代價ヲ以テ五町歩以下豫約拂下及開墾ノ爲メ一町歩以下即時拂下ノ事(同上訓令ヲ以テ十項ト追加ス)
- 十四墓地火葬場汚穢物埋却場及酪牛馬捨場新設又ハ取替等ノ爲メ一町歩以内ノ官有山林原野拂下ノ事
- 十五官有ノ山林原野一段歩以内ノ箇所ニシテ民有地又ハ河川道路等ニ介在セルモノ拂下ノ事
- 右處分後本年四月當省訓令第一號ニ據リ報告スヘシ
- 十六日本坑法第二十四款坑業禁止ノ事(同上訓令ニ依リ十一項ヲ十項トシ以下二項繰下ケル)
- 十七砂鐵ノ煉製限制ノ事
- 十八砂金銀鐵等採取人及運送人相續加除名並變更受領ノ事

十九貸與農具貸付年限三箇年以内延期ノ事(同上訓令ヲ以テ本二十貸與農具一管内限リ貸付ノ事)
 右處分後十五日以内ニ報告スヘシ

○山野火入取締方七年三月二日 內務省布達甲第三號

地方ニ寄火入杯ト唱ヘ茅野秣場等肥饒ノタメ枯草ヲ燒候儀有之往々右ヨリ火勢蔓延官私山林ハ燒込候儀不少不都合ノ次第候條以來右火入致シ候節ハ其都度區戶長ハ爲届出不取締ノ儀無之様管下村々ハ嚴重可申付此旨布達候事

○民有ノ山野ニ入火シ又ハ官林下草刈取ノ者取締方十一年二月一日 內務省達第七號府縣

官林保護ノ儀ニ付テハ衆テ違置候次第有之候處人民所有山ニ火入シテ官林ヲ延燒シ官林下草等刈取ノ許可ナクシテ
 一 官林ニ立入候者等有之候テハ官林保護不相立候ニ付左之通可取計此旨相違候事(十四年農商務省第二號達ヲ以テ下草ノ下五字ヲ削除ス)
 一 人民其所有山ニ火入スル時ハ明治七年甲第三號達ニ照準可致ハ勿論其近傍ノ官林監守人設置ノ場所ハ過クモ前日迄ニ監守者ハ申報スヘキ可達置事

但官林監守任免ノ節ハ區務所ハ可達置事

一官林下草等刈取差候者ハ豫メ鐵札ヲ渡シ置キ鐵札ヲ帶ヒシテ立入不相成旨可達置事(同上(下草)ノ下六字ヲ削除ス)

○山林濫伐野燒等ノ憂ヲ防キ人民ニ諭シテ荒衰ヲ挽回セシム十三年十二月三日 內務省達第七十九號府縣

今般太政官ヨリ被相違候旨有之山林ノ錢ハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟上最急ニニスヘカラサル所ニシテ一タヒ其制ヲ愆レハ寒暑ノ序ヲ失ヒ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全圖殖産ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付全國山林官民有ノ別ナク在來ノ材料ヲ愛惜シ濫伐野燒ノ憂ヲ防クハ勿論漸次閑地ニ於テ樹木栽植等ニ若手シ山林保護ノ道相立候條此際一層注意シ管下人民ハ懇口ニ相諭シ山林ノ荒衰ヲ挽回候條取計可申此旨相違候事

○山野火入取締規則標準ヲ定ム

二十一年三月十五日 農商務省訓令第五號 警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク) 各地方ニ於テ火入ト稱ヘ山野ノ枯草ヲ燃キ其火延焼シテ隣接官私林ニ災害ヲ及スコト少シトセシメ因テ地方廳ハ左ノ標準ニ據リ從來ノ習慣ヲ酌量シ山野火入取締規則ヲ設ケヘレ

山野火入取締規則標準

第一條 山野ニ火入ヲナサント欲スル者アルトキハ地方廳ハ左ノ各項ヲ具シタル願書ニ認可ヲ受ケシムヘレ
一 火入期日

一 願所限地目及別及字番號

一 四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者(官林ナルトキハ大小林區署若クハ)及警署若クハ消防署ヘ少ナクトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告セシムヘレ

第三條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並ニ芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケヲナサシムヘレ

但道路縮谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延焼ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條 日出前日没後及風勢強ナラサルトキハ火入ニ着手セシムヘカラス

第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ那區長 警署長 大小林區署員 大林區署派出所員 戶長 官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延焼ノ虞アリト思慮スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘレ

○林産物公賣規程 二十三年五月三日 農商務省告示第四號

林産物公賣規程左ノ通相定ム
林産物公賣規程

第一章 競争入札

第一條 林産物ノ公賣ハ入札方法ヲ用非テ施行ス可シ

第二條 林産物ヲ入札ニ付セントスルトキハ少クトモ入札期日ノ十五日以前ニ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ可成ク廣ク之ヲ公告スヘシ

公告ニハ左ノ各項ノ諸件ヲ揭示ス可シ

一 入札ニ付スヘキ物件

二 入札スヘキ場所

三 入札スヘキ日限及時刻

四 入札ノ保證金額

五 入札ニ付スヘキ物件ノ所在地

六 入札ニ付スヘキ物件ノ明細書標本(表示スルノ必キ)所在地 林産物公賣規程及ヒ特別契約書案(林産物公賣規程ノ外特ニ契要アルトキ)其他契約ヲ要スル條件等ヲ示ス場所

七 入札掛長ノ官氏名

第三條 入札ニ付スヘキ物件ノ豫定價額ハ之ヲ封書トナシ入札函ニ差入レ置クモノトス

第四條 左ノ諸項ノ一ニ觸ル、者ハ入札ヲナスコトヲ得ス

- 一 林産物ヲ買受ケ其代金息納中ノ者
- 二 官林ニ關スル損害賠償若クハ違約金ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 三 入札ニ付スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタル者

第五條 入札セント欲スル者ハ該物件若クハ其標本又ハ明細書及ヒ此規程並ニ特別契約書案其他該契約ニ必要ナル條件ヲ熟閱シ豫シメ不都合ナキ機心得置ク可シ

入札人ハ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ト共ニ豫定ノ日時ニ入札所ニ持參シ入札掛員ノ面前ニテ右保證金ノ員數ヲ改メ之ヲ封シテ入札掛員ニ差出シタル上ニテ入札ス可シ

第六條 入札掛長前條ノ保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ預證ヲ作り入札人ヘ交付スヘシ

第七條 入札函ハ入札締切時限ニ達スルト同時ニ閉鎖スヘシ

- 第八條 左ニ掲クル入札ハ無効トス
 - 一 入札書ノ要領不明ナルモノ
 - 二 誤字脱字汚染塗抹其他ニ由リ金員及ヒ氏名ヲ認知シ難キモノ
 - 三 開札ニ立會ハサルモノ、入札

第二章 開札再入札落札

第九條 入札ヲ終タルトキハ入札人ヲ開札所ヘ呼集シ入札掛長若クハ其代理者ハ入札人

ノ面前ニ於テ入札函ヲ開キ先ツ入札書ト入札人トヲ一々照合シ入札書ヲ開封シ番號金額及氏名ヲ高ク讀上ケ入札掛員ヲシテ之ヲ筆記セシメ豫定代價以上ノ最高額入札人ヲ落札人ト定メ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ

第十條 開札ノ上入札一モ豫定價額ニ達セサルトキハ其旨ヲ各入札人ニ報告シ再ヒ入札セント欲スルモノヲシテ即時ニ再入札ヲナサシム若シ再入札ノ望人ナキトキハ其公賣ハ取消スヘシ

第十一條 落札トナルヘキ同價額ノ入札人二名以上アルトキハ其入札人ヲシテ即時ニ再入札ヲナサシメ尙同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

第十二條 落札人入札ヲ取消シタルトキハ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムヘシ但其繰下ケハ豫定價額以上ニ止ルモノトス

第十三條 落札人定リタルトキ若クハ落札人ナク公賣ヲ取消タルトキハ入札掛長ハ即時ニ豫定價額ノ封書ヲ開封シ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ

第十四條 落札人定リタル上ハ其場ニ於テ直ニ他ノ入札人ヘ保證金預リ證書ト引換ニ入札保證金ヲ還付シ落札人ニハ賣買契約締結後ニ之ヲ還付ス

第十五條 落札人定リタルトキハ即時ニ落札代金十分ノ一ニ當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ニ第三號書式紙別ニ據リ賣買契約書ヲ作り締結者雙方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置ク可シ但シ落札人ハ其便宜ニ依リ落札代價十分ノ一以上ノ金額若クハ其全額ヲ即納

第三章 代價拂込、物件引渡

第十六條 落札人約定期限内ニ買代金ノ拂込ミヲ了リタルトキハ其落札物件ヲ管スル署所ニ出頭シ其拂込證(交付票ヲ受取リタルトキハ之レト稱ス)ヲ示シ之ヲ引渡ヲ請求ス可シ

落札物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ヲナサハルモノトス

第十七條 落札物件所管ノ署所前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ期限内ニ之ヲ引渡ス可シ

第十八條 買受人物件ノ引渡ヲ受タルトキハ第四號書式別ニ據リ領收證ヲ作り引渡掛員ニ差出シ約定ノ期限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ

第十九條 物件ノ所有權ハ物件ノ引渡ヲ受ルニ隨ヒ買受人ニ移轉スルモノトス

第四章 違約處分、損害賠償

第二十條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ還付セス

- 一 落札ノ上賣買契約ヲ落札人ニ於テ締結セサルトキ
- 二 開札後ニ入札ノ取消ヲナシタルトキ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ契約保證金ヲ還付セス締結ノ契約ハ解除スルモノトス

- 一 落札人賣買契約締結後代金ヲ約定ノ期限内ニ拂込マサルトキ
- 二 落札人賣買契約締結後代金拂込以前ニ契約ヲ取消シタルトキ

三 落札人約定ノ期限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキ

第二十二條 落札人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遇ヒ之ヲ約定期限内ニ搬出シ了ルコトヲ得サルトキハ其事由ヲ具シ更ニ期限ヲ定メテ搬出日限ノ延期ヲ請求ス可シ此ノ場合ニ於テハ當該署所ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料ヲ課シ之ヲ前納セシム可シ

- 一 落札代價金百圓以上ノモノハ一日ニ付其千分ノ一
- 二 落札代價金百圓未満ノモノハ一日ニ付金十錢

但搬出延期ヲ要スルノ事由天災若クハ事變ニ屬スルトキハ特ニ右借地料ヲ免ヌ可シ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ落札人搬出延期ノ請求ヲナサスシテ恣ニ約定日限ヲ過ルトキハ當該署所ハ前條ノ割合ニ二倍スルノ借地料ヲ取立ツ可シ

本條及ヒ前條ノ場合ニ於テ落札人右借地料ヲ納メサルトキハ當該署所ハ其搬出未済ノ物件ヲ差押ヘ本人ヲ立會ハシメテ之ヲ公賣ニ付シ其代金ヲ以テ借地料及ヒ差押公賣其他ノ諸入費ヲ支拂ヒ猶ホ殘金アルトキハ之ヲ還付シ若シ不足スルトキハ更ニ之ヲ要求ス可シ

第二十四條 落札人若クハ雇人落札物件ヲ伐採蒐集若クハ製造運搬等ノ際ニ於テ當該署所ニ損害ヲ與ヘタルトキハ當該署所ハ之ニ對スル賠償引當トシテ搬出未済ノ物件ヲ差押ヘ若クハ其事業ヲ中止シ期限ヲ定メ相當ノ賠償金ヲ要求ス可シ

落札人右賠償金ヲ承諾シタル上之ヲ期限内ニ納メサルトキハ第二十三條第二項ノ手續ニ依リテ之ヲ處分ス可シ

第五章 雜件

第二十五條 公賣物件入札後又ハ賣買契約締結後天災事變等ノ避クヘカラサルノ原因ニ由リ目的ノ事件ヲ亡失毀損シタル爲メ公賣ヲ取消シ之カ爲メ入札人落札人又ハ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該署所其實ニ任セス

第二十六條 公賣物件ハ當初入札人ニ於テ熟覽シタルモノニ付落札後數量若クハ物質等ニ多少ノ差違アリ又ハ物件ノ内部ニ腐朽等アルモ當該署所ハ其實ニ任セス
第二十七條 立木竹公賣ノ場合ニ於テ其根株ハ公賣外ノモノトス但シ別段ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十八條 入札人落札人又ハ買受人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ代理人ハ其委任狀ヲ當該署所ニ示スヘシ

第二十九條 落札人其物件ヲ搬出以前ニ於テ他へ賣買讓與シタルトキハ雙方連署シテ當該署所ニ届出テ認可ヲ受ク可シ

第一號書式

入札書

第 號

一何々(物件ノ名稱ヲ記スヘシ) 何程(數量)

此代金何程

第 號

何程

一何々

此代金何程

(以下此例ニ準シ公告ニ掲載ノ物件概目ヲ一々記載スヘシ)

右代金ヲ以テ買受申度林産物公賣規程其他公示又ハ特別契約ノ條項ヲ承諾シ保證金相添ヘス
札書發出候也

年月日

住所

姓 名

印

(代理人ナルトキハ代理人ノ住所姓名ヲ併記
捺印スヘシ以下皆同シ)

入札掛長官姓名宛

第二號書式

第 號

證

一金何程

納人 姓 名

但何々入札保證金
右封ノ儘預置候也

年月日

入札掛長官 姓 名

印

入札掛
長割印

第 號

一金荷程
但何々入札保証金

年月日

納人 姓 名

第三號書式

賣買契約書

印紙
此印紙ハ賣人へ領收シ置クモノ、
ニ買人ヨリ貼付スルモノトス

今般別紙入札書ノ通譯札セシニ付林産物公賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ賣買契約ヲ締結シ雙方署名ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也
年月日

賣人 入札掛長官 姓 名 印

買人 住所 姓 名 印

- 一 代價拂込何年何月何日限
 - 一 物件引渡何年何月何日限
 - 一 物件引渡ヲ請求スヘキ官署
 - 一 物件引渡場所
 - 一 何々
- 「契約ヲ要スル條件ヲ列記ス」

第四號書式

證

第 號

一何々 (物件ノ名稱ヲ記入スヘシ)

何程(數量)

第 號

一何々

何程

右御引渡相成領收候也

年月日

買人 住所 姓 名 印

引渡掛員官姓名宛

第三類 第一章 官有財産管理
○官有財産管理規則 二十三年十一月二十四日
勅令第二百七十五號

朕官有財產管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
勅令第二百七十五號

官有財產管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財產ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財產ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財產ノ賣却、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルハシ
- 第四條 官有財產賣却代金ハ其ノ財產引渡ノ際一時ニ納付セシムハシ
- 第五條 官有財產ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財產ヲ貸付シ又ハ森林經營ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
- 第六條 官有財產ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ
- 貸付財產ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 官有財產ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財產ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財產ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得ヌシテ其ノ財產ノ原形ヲ變シ若ハ故意懈怠ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財產ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財產ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ヌ

第十一條 官有財產ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財產ニシテ少クモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財產ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ヌ

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川、竝木敷堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコト

第三類 第一章 官有財產管理

ヲ得

三百三十二

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ満期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各處ニ於テ定メタル最低賣價實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

第二章 土地臺帳

○地券ヲ廢シ土地臺帳記名者ヨリ地租ヲ徵收ス 二十二年三月二十

法律第十三號

朕地券廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十三號

地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニ依リ共記名者ヨリ之ヲ徵收ス

○土地臺帳規則 二十二年三月二十二日 勅令第三十九號

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十九號

土地臺帳規則

第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ

第三類 第二章 土地臺帳

通知スヘシ

- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
- 第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得
- 第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○土地臺帳規則施行細目 二十二年四月一日
大藏省令第六號
勅令第三十九號土地臺帳規則施行細則左ノ通相定ム

土地臺帳規則施行細則

- 第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及買取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ
- 第二條 土地臺帳記載ノ所有者買取主ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
- 第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ區廳郡役所ニ申出ヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ輪形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

土地臺帳ノ番號	字	地番	區
市郡			
村町			

用紙英漢三紙切

地臺帳謄本

地目	租地	價地	別段	内世	外世	租地	別段	所有	住者	氏名
明治	年	月	日	種目	種目	種目	種目	年	期	免租地
主任官氏名印										

○手数料收入ハ收稅部出張所ニテ取扱ノ件 二十二年六月七日 大藏省訓令第四十號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)
土地臺帳謄本手数料收納方ハ本年七月一日以降届出届出納規則第十六條但書ニ據リ府縣收稅部出張所ニ於テ取扱ハシムヘシ

○同上ノ納金ヲ金庫ヘ納入ノ件 二十二年七月二十九日 大藏省訓令第五十四號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)
土地臺帳謄本手数料收納方ノ儀ハ納入ヲシテ現金ヲ收稅部出張所ヘ上納セシメ收入官吏ヲシテ之ニ納付書ヲ添ヘ金庫ヘ納入セシムヘシ

○土地臺帳ハ地券臺帳ヲ充テシム 二十二年三月二十六日 大藏省訓令第十一號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)
第三類 第二章 土地臺帳

勅令第三十九號土地臺帳ハ從前ノ地籍臺帳ヲ整理修補シ之ニ充ツヘシ

府廳廳價置ノ町村地圖ハ自今島廳郡役所ニ管理セルムヘシ

○土地臺帳様式ヲ定ム 二十二年七月一日 大藏省訓令第四十九號府廳(沖繩縣ヲ除ク)

本年三月當省訓令第十一號第一項ノ土地臺帳ハ別紙様式ニ倣ヒ漸次新調シ明治十七年當省第八十九號達別冊第十九號様式ニ據リ收積地圖一段歩當表ヲ調整添付シ置クヘシ
但様式ハ當省主稅局ヨリ之ヲ送付ス

別紙

備考

○他ノ地目ハ之ニ倣ヒ地番號頭ニ調成スヘシ ○本帳ハ大字(町)限リ區分シ一冊紙數凡二百葉トス ○氏名ノ上欄ニ示セル住所ノ記載例ハ土地所在ノ管内ニシテ他市在籍ノモノハ其姓名ヲ除キ同市内ニシテ他町ノモノハ其姓名ヲ除キ同町ノモノハ(地)地名ヲ記載スルニ及ハス

地番	内步	外步	浴	草	登記年月日	事故	所有主住所	所有主氏名
百十五番 百十六番合併	五步	拾步	浴	草	明治 年 月 日	買得	何々何々	何 某
	五步	拾步			明治 年 月 日	買得	何々何々	
	五步	拾步			明治 年 月 日	買得	何々何々	
	五步	拾步			明治 年 月 日	買得	何々何々	

田	田	田	田	田	田	田	田
五〇〇	二二五	六二五	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
五步	五步	五步	五步	五步	五步	五步	五步
何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日

土地臺帳

	計	溜池	社郷地村	何々	原野	山林	何々	宅地

改正 遺録 見合

年度	目	民有地			官有地		
		別	町	村	別	町	村
	畑						
	田						
	假地						
	租荒地						
	及						
	別						
	町						
	別						
	町						
	別						
	町						

市町村計

備考 ○年度欄内ハ次欄計ノ末ニ縦線ヲ引一ケ年度ノ區別ヲナスモノトス

○土地登記規則第三條ニ依リ臺帳所管屬ニ通知書記入方ヲ定ム
二十二年四月四日 司法省訓令第五一三號始審裁判所

本年三月勅令第三十九號土地登記規則第三條ニ依リ臺帳所管屬ニ通知ヲ爲スニハ其通知書記左ノ諸條件ヲ記載ス可シ但便宜ノ爲メ豫メ通知用紙ヲ印刷シ置クモ苦シカラズ

第一 土地ノ郡區市町村名字(大字アルトキハ大) 番地地目段別但一筆ノ土地ヲ分別シテ所有權ヲ移轉シ又ハ質入トナシタルトキハ其原段別ヲ附記ス可シ(字ヲモ記載スヘシ)

第二 賣買贈與相續等所有權移轉ノ事由若クハ質入タルコト

第三 義務所有者若クハ所有者及ヒ質取主ノ住所氏名

第四 登記ヲ爲シタル年月日及ヒ通知ヲ爲ス年月日

第五 通知ヲ爲ス治安裁判所若クハ同出張所又ハ登記所名及ヒ通知ヲ受クル屬名
 質入登記取消ノ記入ヲ爲シタルトキモ亦本訓令ニ準シ通知ヲ爲ス可シ
 右訓令ス

○前項通知書雛形並送達方二十二年四月十八日

司法省訓令第五二四號始審裁判所治安裁判所登記所

本年四月常省民第五一三號訓令ノ通知書ハ別紙雛形ノ如ク之ヲ複製シ通知ノ番號ヲ記入シ土地登記所管屬所在地ノ治安裁判所同出張所又ハ登記所ニ在リテハ小使ヲ以テ其他ハ書留郵便ヲ以テ送達ス可シ
 右訓令ス

別紙

- 一 土地登記簿通知書用紙ハ半紙四ツ切判ニシテ薄ク且ツ輕キモノヲ用フ可シ
- 一 雛形中地番號欄ノ符號ハ登記簿地ニシテ數筆ニ分レタル各部ニ付セル「イロハ」又ハ「甲乙」等ノ類ヲ云フ
- 一 雛形中ニ原段別トアルハ一筆ノ土地ヲ分別シテ所有權ヲ移轉シ又ハ質入トナシタルトキ其原段別ヲ記入スヘキ所トス
- 一 乙號用紙ハ土地五筆以上アリテ甲號用紙ニ記載スル能ハサルトキ先ツ之ヲ用ヒ甲號用紙ヲ補足スルモノトス但各用紙ノ欄目ニハ契印ヲ爲ス可シ
- 一 總テ餘白ノ欄ハ線ヲ劃シテ之ヲ抹却シ置ク可シ
- 一 圖印ハ甲號用紙ノ裏面ニ押捺ス可シ

(「丙」朱刷)

「甲」號

第 何 第

書 知 通 濟 記 登 地 土

市 區 郡	町 村	大 字	字	地 番 號		地 目	段 別 原 段 別			
				千 百 十 一	號 符		百 十 町 段 畝 十 步 合	百 十 町 段 畝 十 步 合	百 十 町 段 畝 十 步 合	

第三類 第二章 土地登記

第 何 第

書 知 通 濟 記 登 地 土

市 區 郡	町 村	大 字	字	地 番 號		地 目	段 別 原 段 別			
				千 百 十 一	號 符		百 十 町 段 畝 十 步 合	百 十 町 段 畝 十 步 合	百 十 町 段 畝 十 步 合	

若及通知候也
明治二十何年何月何日
何縣何廳何役所御中

何治安裁判所(出張所)

第三章 水利 水道

○水利組合條例二十三年六月二十六日
法律第四十六號

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

法律第四十六號

水利組合條例

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

- 一 普通水利組合
- 二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲設置スルモノトス

第三類 第三章 水利

第五條 水利組合ハ規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及

フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半数ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限り土地所

有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受、並質入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ効力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トシ管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ